

第6章 舟上の神変

6-1 帰路へ向かう小舟

- 6328 Wororatkip
ウオロラツキプ(←ウオロ ラツキ プ)
水中に下がるもの
ともがい(襦の一種)で
- 6329 be kotobo
ベ コトボ
水 とともに 回す
海中をかき返し
- 6330 be koreuba
ベ コレウバ(←rewe複)
水 とともに 曲げる
かき回す
- 6331 koyaimaknakur-
コヤイマツナクル
共に 自身を 後ろの方に(調律)
たびに体をぐつと後ろに
- 6332 teshba kane,
テシバ カネ
反らす(←tesu 複) 状態で
反らして、
- 6333 hoshkino ambe
ホシキノ アム(←アン) ベ
最初に ある こと
今までの船足など
- 6334 poombebo ne.
ポオムベボ(←ポオンベ ボ) ネ
赤ん坊(強調形)+(指小辞) のようだ
比べものになりません。
- 6335 Tabam ponchip
タバム(←タブアン) ポン チフ
今ここにある 小さい 舟
この小舟は
- 6336 ai tune shiri
アイトウネ シリ
矢 線条のような その様子
まるで矢が飛んで行く
- 6337 op tune shiri
オプ トウネ シリ
槍 線条のような その状態
槍が飛んで行く
- 6338 ekannayukar
エ カンナ ユカラ
それについて 再び まねる
さながらに
- 6339 kambe kurka
カムベ(←カン ベ) クルカ
表面の水 の上面一帯
波の上を
- 6340 echararse,
エ チャララセ
そこを するする滑る
一直線に滑って行き、
- 6341 kotbok riri
コツボク リリ
直前の 波
触先にあたる波を
- 6342 kotososatki kane
コトソサツキ カネ
に対してドサドサという音をたてる 状態で
ザァザァ蹴立てて
- 6343 hoyubu humi
ホユブ フミ
走る その音
サーッとすべって行く音
- 6344 an-ekisarshutu
アネキサラシウトウ(←アン エキサラ ストウ)
我は・それをもって 耳 元
でわたしの耳元
- 6345 komaukururu. ※1
コマウ クルル
に対して 気がかすめる
に風がうずまき起こる。

- 6346 ※2 Kunne tokap hene
p.141 クンネ トカフ ヘネ
夜 屋 でも
屋となく夜となく
- 6347 yap-an,
ヤッアン
行く、来る、帰る・我らは
船は進み、
- 6348 tane ne kusu
タネ ネ クス
今 である 故
今はもう
- 6349 rebunkuruatui
レブンクルアトウイ(←レブ ウン クル アトウイ)
沖の人 海
沖の国人の海と
- 6350 yaunkuru atui
ヤウンクルアトウイ(←ヤ ウン クル アトウイ)
陸のひと 海
内の国びとの海と
- 6351 uweushi ne i
ウウエウシ(←ウ エウシイ) ネ イ
互いにそこについている 所 である 所
接する所だ
- 6352 kuni a-ramu ita
クニ アラム イ タ
はずだと 我が・思う 所 に
と思われる所に
- 6353 yap-an awa,
ヤッアン アワ
来る・我らは たところが
来たところ、
- 6354 nekon ne humi
ネコン ネ フミ
どのよう である その音
何の音
- 6355 ne nankora !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
なのでしょうが。

6-2 豪奢な若者の顕現

- 6356 Annisapno
アンニサッノ(←アッニサッノ)
全く 不意に
突然急に
- 6357 kantokotor
カントコトロ
天 こちらの面、平面
空のはてに
- 6358 seibatke
セベバツケ(←セベッ セベバ アツキ)
はためく音 何回もする
バタバタバパーンと
- 6359 bushkosamba,
ブシコサムバ(puskosanu 複)
急にバンと破裂音がする
爆発音がし、
- 6360 kamui rap humi
カムイ ラフ フミ
神 降りる(←ran複) その音
神々が降りてくる音が
- 6361 keurototke.
ケウ ロトツケ
ゴロゴロ 繰り返す+(自動詞形成語尾)
ゴロゴロと鳴りひびきました。
- 6362 Saure rametok utar
サウレ ラメトク ウタラ
軽少の 勇者 たち
たいしたことがない勇者たち
- 6363 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 6364 kotomkorkaiki,
コトム コカ イキ
似つかわしい けれども+物事を
する
いいのに、
- 6365 shino rametok
シノ ラメトク
本当の 勇者
真の勇者
- 6366 utarorkehe
ウタロロケヘ(←ウタラ オロケヘ)
仲間 その内の所
たち
- 6367 sone kusu,
ソネ クス
真である 故に
にちががなく、
- 6368 tu shupne rera
トゥ シュフネ レラ
二つの 巻いている 風
多くの竜巻
- 6369 re shupne rera
レ シュフネ レラ
三つの 巻いている 風
たくさんの巻き風が
- 6370 shikotchaotte,
シコツチャ オツテ
自分の 前にかくさんいる させる
前にむらがり、
- 6371 i-oyake un
イオヤケ ウン
我の・他の 所 へ
わたし以外の所に
- 6372 rap kuni p
ラフ クニ ッ
降りる はずの 者
降りるの
- 6373 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
なら

※1 p.140 原ノート頁下欄外に「昭和九年十二月廿日 金成マツ」とある。

※2 p.141 原ノート頁冒頭に3行に渡って「Menash Samun Att.jsh/Menashi Samun konchi Tururun/kuwa Emkoho」の記載あり。

- 6374 kotomkorkaiki,
コトム コカイキ
似つかわしい けれども+物事を
いいのに、
- 6375 sonno itomun
ソノ イトムン(←イトム ウン)
本当に 物の面の真ん中にある
船の真ん中に(?)
- 6376 rap kuni p
ラッ クニ プ
降りる はずの 者
降りて来た
- 6377 konepnekusu,
コネッ ネ クス
(調律、強調)であるもの である 故に
なものであるから、
- 6378 tura kamui mau
トゥラ カムイ マウ
伴う 神 気
吹きつける神風が
- 6379 a-o ponchip
アオ ポン チッ
我らが・乗る 小さい 船
わたしたちが乗っている小舟
- 6380 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
の上に
- 6381 echararse
エ チャララセ
そこを するする滑る
一直線に滑って行く
- 6382 semkorachi
セムコラチ
するように
かのように
- 6383 chiesurure
チ エスルレ
られるそこに 広がらせる
広がっておおいかぶさる
- 6384 humash awa,
フマシ(←フム アシ) アワ
音 立つ たところが
音がしたところ、
- 6385 Pon a-kor yubi
ポン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 6386 inurokbe,
イヌロッベ
ものを聞いたことに
聞かぬやいなや、
- 6387 shino iyoyamokte
シノ イヨヤモクテ(←イ オヤモクテ)
本当に 物事を 不思議に思う
まことに怪しいと思った
- 6388 kotomno
コトムノ
らしい
らしく
- 6389 chip atte,
チッ アツテ
船 を掛ける
船の帆を降ろして停泊し、
- 6390 rabokita
ラボキタ
その間に
その間に
- 6391 kanak okai be
カナク オカイ ベ
どんな いる 者
その何者かたちは
- 6392 chip-upsot ta
チッ ウソツ(←ウソソ) タ
船 懐 に
船内に
- 6393 horaochiuba.
ホラオ チウバ
尻 下 に 何度も刺す
ドスドスと落ちて来ました。
- 6394 Ponurur tapkop
ポヌラ(←ポン ウラ) タップコフ
小さい 霞 孤峰
霞の丸い小山が
- 6395 tumbish
トゥム ビシ(←トウシ ビシ)
二人 個
二つ
- 6396 usameroshiki.
ウサム エロシキ
互いにそばに立つ(←as 複)
並んでいます。
- 6397 Tu urar ikkeu
トゥ ウラ イケウ
二つのもや 中心
二つの小山の
- 6398 re urar ikkeu
レ ウラ イケウ
三つのもや 中心
濃いもやの真ん中に向かって
- 6399 i-kocharikarba.
アコチャリカラバ
我は・に向かって 敵らマ (他動詞語尾)+複数形語尾)
わたしはもやを散らしました。
- 6400 Iyainumare!
イヤイヌマレ
我に 自ら 起き上がらせる
まあ驚いた!
- 6401 Ponainu ponkuru
ポナイヌ(←ポン アイヌ) ポンクル
若い 人 若い お方
年若いお方
- 6402 okai nankor'a!?
オカイ ナンコラ(←ナンコ。 ヤ)
ある だろう か
なのでしょうが。
- 6403 Tamba teta
タムバ(←タン バ) テタ
この年 ここで
一歳ほど
- 6404 Pon a-kor yubi
ポン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 6405 turbokashno
トゥル ボカシノ
垢 足りない
より年下
- 6406 chishikupka
チシクッカ
自身を成長させる
くらしいの
- 6407 kotomno okai be
コトムノ オカイ ベ
ように見える+(副詞語尾) ある 者
ように見える者たち一
- 6408 kani kosonte
カニ コソント
黄金の 小袖
豪華な衣装の
- 6409 kotbar ka ta
コツバラ カ タ
胸元 上に
襟や
- 6410 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上に
裾まわりに
- 6411 sep birankani
セッ ビラン カニ
幅広い 平金
はばひろの平金を
- 6412 chiekarbare
チエカラバレ
られるそこへ 回らせる
ぐるっと下げ
- 6413 kane okaibe
カネ オカイ ベ
状態で いる(←an 複) 者
ている者たちが
- 6414 arutomechiu,
アルトメチウ(←アラ ウトム エチウ)
全く互いに 中へ差す
金糸銀糸の豪華な衣装を襲ね着し、
- 6415 uwok kani kut
ウウオクカニクツ
互いに引っかける 金属 帯
かなぐさりのベルト
- 6416 tumamkosaiba,
トゥマム コサイバ
胴にぐるぐる巻き付ける
を胴に締め、
- 6417 kamuiranketam
カムイランケタム
神が降ろした 刀
神からさずかった太刀
- 6418 etembok konna
エテムボク コンナ
それをもって 手下 (調律)
で脇の下が
- 6419 chashnatara.
チャシナタラ
りっぱで勇ましい
きらびやかです。
- 6420 Kani pon kasa
カニ ポン カサ
金の 小さな 笠
金色の兜の
- 6421 kasa rantubep
カサ ラントウベッ
笠 垂れている 紐
その垂れひも
- 6422 eyaisannan kurka
エヤイサンナン クルカ
それで 自分 の出ている顔 表面上
でご自分の顔を
- 6423 yupba kane,
ユフバ カネ
~を締める 状態で
きりりと緊め、
- 6424 kasa kepsam ta
カサ ケツサム タ
笠 縁側 に
兜の縁からは
- 6425 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 出る その顔
神々しいお顔が
- 6426 komaknatara.
コマクナタラ
共に 輝く
明るく輝いています。
- 6427 Rametok sone
ラメトク ソネ
勇敢な人 本当である
勇者にちがいない
- 6428 rametok ibor
ラメトク イボロ
大胆な 顔色
勇者らしいおもざし
- 6429 eibottumu
エイボツ(←エ イボロ) トウム
それで 顔色 の中
で顔つきが
- 6430 shinnai kane
シンナイ カネ
別な 状態だ
きわだっています。

6-3 若い女性の出立ち

- 6431 Seennekasui
セエンネカスイ
まさかまた～しない
まさかまた
- 6432 inkar-an kuni
インカラン(←インカラアン) クニ
眺める・我が はずと
そんなものを見ようとは
- 6433 a-ramu roki,
アラム ロキ(←ロク イ)
我は・思っ た ところ
思わなかったのに、
- 6434 Kurorani um be
p.143 クロラニ ウム(←ウン) ペ
クロラニ に住む 奴
クロラニびとと
- 6435 shikbui un ruwe
シクブイ ウン ルウェ
眼孔 はまる その様
目つきや
- 6436 rachiu un ruwe
ラチウ ウン ルウェ
眉 はまる その様
眉つきが
- 6437 horkasuiba kane.
ホロカ スイバ カネ
逆に 振る(←horkasuye複) 状態だ
そっくりです。
- 6438 Setur kashike
セトル カシケ
背 の上に
あとへすぐびったり
- 6439 yairarire kuni p
ヤイラリレ クニ ヲ
自分を押しつけさせる ような 者
付き従う者を
- 6440 a-nukar kusu,
アヌカ ヌス
我が～を見る 故に
わたしが見ると、
- 6441 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い女性
- 6442 okai nankora!?
オカイ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
ある だろう か
なのでしょうか。
- 6443 Tamba newa
タムバ(←タンバ) ネワ
今年 になって
一歳ほど
- 6444 a-matakipo
アマタキ ポ
我・の妹(親称接尾辞)
わたしの義妹
- 6445 turbokashno
トウル ボカシノ
垢 足りない
より年下
- 6446 chishikupka
チシクブカ
自身を 成長させる
くらのいの
- 6447 kotomno okai be,
コトムノ オカイ ベ
ように見える(副詞語尾) ある 者
ように見える者たちで、
- 6448 chitomtereshup
チトムテレシユッ
させる 光らせ 育つ 者
大切に育てられ

- 6449 chiarareshup
チアラレシユッ
させる 飾り 育つ 者
美しく育てられた者
- 6450 sone kusu,
ソネ クス
真である 故に
にちがいに、
- 6451 kani kosonte
カニ コソンテ
黄金の 小袖
金糸銀糸の豪華な衣装
- 6452 kosonte tumu
コソンテ トウム
小袖 その中
その衣の中
- 6453 ourebuni,
オウレブニ
そこから 足を上げる
から足を運び(?),
- 6454 kisar kashike
キサラ カシケ
耳 の上
耳や
- 6455 rektu kashike
レクツ カシケ
のど の上
胸元には
- 6456 koikataru, ※1
コイカタラ
共に あふれる
耳輪や首飾りをぞっくりとつけ、
- 6457 sarambe kuchi
サラムベ クチ
絹 の帯
絹の帯
- 6458 etumamkosaiba kane.
エトウマム コサイバ カネ
でもって 胸にぐるぐる巻き付ける 状態だ
を胸に締めています。
- 6459 Attap kashi
アツタプ(←アラタプ) カシ
半肩 の上
片方の肩の上には
- 6460 shikush rayochi,
シクシ ラヨチ
陽光 虹
日光の虹、
- 6461 attap kashi
アツタプ(←アラタプ) カシ
半肩 の上
もう片方の肩の上には
- 6462 ekai rayochi
エカイ ラヨチ
頂き、頭 が折れている 虹
半輪の虹が
- 6463 chieomare,
チエオマレ
される そこに入る させる
射して、
- 6464 kimui kashi ta
キムイ カシ タ
頭 の上 で
頭上の所で
- 6465 unottasare. ※2
ウンオッタサレ
互いに 喉を横切る させる
交叉していました。
- 6466 Kamui otobi
カムイ オトビ
神 の髪の毛
美しい髪の毛は
- 6467 sarambe ka ne
サラムベ カネ
常套の布 糸 のように
絹糸のように

- 6468 ekimui kashi
エキムイ カシ
その 頭 の上に
その頭上に
- 6469 chiesurure,
チエスルレ
られる そこに 広がる させる
広がりがおおいかぶさっており、
- 6470 otap etoko
オトフ エトコ
髪の毛の先
その髪の毛のさきには
- 6471 chioimeru
チオイメル
される そこから 稲光
光が
- 6472 kotba kane,
コツバ カネ
を～に結ぶ 状態で
つきまとって、
- 6473 reuboki ta
レウボキ タ
内側の湾曲の下 に
髪の毛の下には
- 6474 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 出る その顔
神々しいお顔が
- 6475 shikush toi kunne
シクシ トイ クンネ
日差し の塊 のように
昼の陽光のように
- 6476 komaknatara,
コマクナタラ
共に 明るく輝く
あたりに輝いており、
- 6477 enewaboka
エネワ ボカ
いかにして さえも
どうともこうとも
- 6478 arekaika ※3
アレカイカ
我ら・ほめる 手段 も
これ以上ほめる言葉も
- 6479 oarar isam kane.
オアラ イサム カネ
まったく 無い 状態だ
見つからないほどの美しさです。

※1 この行に前に、kamui machikor(神々しい耳輪や首飾り)が脱落している。

※2 「頭のいただきに相交叉している虹を龍か蛇鱗などのように見て、頭の頂上で左右から喉を交叉していると叙す。」(金Ⅲ-231)

※3 原綴 Areka iika

<p>6-4 告げられる伝言</p> <p>6480 lrbe sone p.144 イ ベ ソネ 血がつながっている者 真である 一族にちがいがなく</p> <p>6481 shine shikbui シネ シッブイ 一つ 目穴 目もとや</p> <p>6482 shine rachiu シネ ラチウ 一つ 眉 眉つきが</p> <p>6483 ukoturba kane ウコトウルバ カネ 互いに伸ばす(turi複) 状態で よく似ている</p> <p>6484 tumbish ne wa, トウム ピシ(←トウンピシ) ネ ワ 二人 個 であって 二人であって、</p> <p>6485 oribak kuni p オリバク クニッ へりくだる べき者 ふつうに真み深いだけのもの</p> <p>6486 newa ne yakne ネ ワ ネ ヤクネ であって である ならば なら</p> <p>6487 kotomkorkaiki, コトム コカ イキ 似つかわしい けれども・物事をする いいのに、</p> <p>6488 kaniborkashi カニボロカシ(←カン イボロ カシ) 上辺の 顔色の上 顔色が</p> <p>6489 korainatara kane. コライナタラ カネ 共に死滅する 状態が続く 状態だ さつと青ざめました。</p> <p>6490 Ren a-ne wa レン アネ ワ 三人 我ら・であって わたしたち三人</p> <p>6491 i-kurkashike イクルカシケ 我らの・身体の上 のからだを</p> <p>6492 uwambareba chiki, ウワムバレバ チキ を觀察する+(複数形語尾) したら 眺めてから、</p> <p>6493 eashka shino shino エアッカ シノ シノ ほんとに 真に 本当に それこそ本当にほんとに</p> <p>6494 yaikataikapap ※1 ヤイカタイカパバ(←ヤイカッアイカバ)ッ 自身形 拙い+(複) こと 気の毒に思っている</p> <p>6495 konepnekusu コネッ ネ クス (調律、強調)であるもの である 故に ものだから、</p> <p>6496 i-tukaribebo イトウカリケ ボ 我らの・その手前+(指小辞) わたしたちの顔は直視せずに</p> <p>6497 kohebokiki コヘボキキ に頭を下げる する 頭をさげ</p>	<p>6498 kane okai. カネ オカイ 状態で いる ていらつしやいました。</p> <p>6499 Okkai neike オクカイ ネイケ 男 である方 男の方は</p> <p>6500 sonkokor be※2 ソンココロ ベ 伝言を持つ 者 伝言を持って来た者</p> <p>6501 nei kotomno ネイ(←ネ) コトムノ である ごとく+(副詞語尾) であるらしく、</p> <p>6502 shinki※3 ibor シンキ イボロ 疲れる 顔色 疲労の色</p> <p>6503 eibottumu エイボットウム(←エ イボロトウム) それで 顔つきの中 が顔色に</p> <p>6504 shinnai kane. シンナイ カネ 別な 状態だ 目立っています。</p> <p>6505 Ponso shirantek ko ボンソ シラン(←シ、アン) テク コ 少し 時空 ある ちよつと〜する と 少し経つと、</p> <p>6506 ponainu ponkuru ポナイヌ(←ボン アイヌ) ポンクル 若い 人 若い お方 年若い青年の</p> <p>6507 kutsam konna クツサム コンナ のどそば (詠律) 声音を</p> <p>6508 uwetunuisse hawe ウエトウヌイセ ハウエ 互いに金属音を鳴らす その声 美しくひびかせるその声</p> <p>6509 ene okai i; エネ オカイ イ こう ある こと こうあるには、</p> <p>6510 "Koninkar kusu! コニンカラクス(←コン インカラ クス) 早く! 見る +(感嘆の助詞); 『これこれ、</p> <p>6511 Otasam un kuru オタサム ウン クル 砂浜 俣 に住む お方 オタサムびと</p> <p>6512 kamui rametok! カムイ ラメトク 神の 勇者 神の勇者よ。</p>	<p>6-5 クロラニ村での顛末</p> <p>6513 Turesh utar トゥレシ ウタラ 妹 たち 妹ごたち</p> <p>6514 turanno トゥランノ と一緒に ともども</p> <p>6515 itak-an chiki イタカン(←イタッ アン) チキ 言っ・我が たら われの言うことを</p> <p>6516 pirikano nu wa ピリカノ ヌ ワ よく 聞いて よく聞いて</p> <p>6517 i-kore kunak イコレ クナッ(←クン ヤッ) 我に・与える べきである ということ くだ</p> <p>6518 ramu yan! ラム ヤン 思う なさい され。</p> <p>6519 Aokai utar アオカイ ウタラ 我 たち わたしたち</p> <p>6520 anakne アナクネ は は</p> <p>6521 Kurorani un クロラニ ウン クロラニ にいる クロラニにいる</p> <p>6522 kotankorkuru コタンコロクル 村を統治する お方 村おさの</p> <p>6523 akihi newa アキヒ ネワ その弟 と 弟と</p> <p>6524 tureshihi トゥレシヒ その妹 妹</p> <p>6525 a-ne wa アネ ワ 我ら・である して でありまして、</p> <p>6526 tap nahun タップ ナフン この たった今 たった今</p> <p>6527 tun a-ne wa トゥン アネ ワ 二人の 我ら・であって わたしたち二人して</p> <p>6528 e-eronnu wa エエロンヌ ワ 汝を そこで 殺す して そなたを殺して、</p> <p>6529 kanto otta カント オッタ(←オロ タ) 天 の所 で 天で</p> <p>6530 a-eshikop utar アエシコップ(←ア エシク オッ) ウタラ 我らが・それで 目がついた者 たち われらの両親 ※3 原綴 sonko</p>
--	---	---

※1「恐縮する(金I-86)、痛ましい思いをする(金I-346)」 ※2 原綴 sokko korbe

6-6 凶行の原因	6588 kamui otta hene カムイ オッタ(←オロタ) ヘネ 神 の所に でも	6606 Nekonkanewa ネコン カネワ どうもになって
6571 Tambe kusu タムベ(←タンベ) クス このこと 故に それゆえ	6589 nitnekamui ニツネ カムイ 凶悪な 神 ニツネ カムイが	6607 raike wa ライケ ワ 殺す して 殺して
6572 I-resuyubi イレス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄上が	6590 otta hene オッタ(←オロタ) ヘネ の所に でも 住む世界でも	6608 kamui ramachi カムイ ラマチ 神 の魂 神霊を
6573 kanto otta rikin, カント オッタ(←オロタ) リキン 天 の所に 昇る 天にのぼり、	6591 yaikotomkap ヤイコトムカフ 自分に ふさわしい(他動詞化語尾) 者 自分の結婚相手にふさわしい者を	6609 uk wa hekote ウク ワ ヘコテ 取る して 頭をつなぐ 奪って連れ添い
6574 eebakita nani p.146 エエバキタ ナニ その上に すぐに そこですぐ	6592 hunara yakka, フナラ ヤッカ 探す ても 探しても、	6610 rusui yakka, ルスイ ヤッカ を欲する しても たくても、
6575 tumunchi ikkeu トウムンチ イクケウ 戦さ 原因 戦いの原因	6593 ramoshma ※2p ラモシマブ(←ラム オシマ フ) 心 入る 者 気に入ったものは	6611 inkarkamui ※4 インカラカムイ 見ている 神 見ている神々は
6578 rorumbe ikkeu ロルムベ イクケウ 戦い 元凶 戦さの元を	6594 shinep ka isam. シネプ カ イサム 一人 も ない 一人もいませんでした。	6612 moshirso ka ta モシリソ カ タ 国土 広がりを持つ所 の上 で 地上の世界では
6577 a-hunara aike アフナラ アイケ(←a-hike) 我が・探す した すると 探したのですが、	6595 Tambe kusu タムベ(←タンベ) クス このこと 故に それゆえ	6613 uatte ウアッテ 互い たくさんいる させる 増えて
6578 oroyachiki オロヤチキ(←オロ オヤチキ) そ 他 の ~すれば 意外にも、	6596 ainu moshiri アイヌ モシリ 人間 の世界 人間界、	6614 inne kuni p インネ クニ ッ 大勢の はずの もの たくさんいる
6579 ainu kotan アイヌ コタン 人間の 村 人間の村	6597 moshiriso kurka モシリソ クルカ 国土 広がりを持つ所 の上面一帯 地上の世界を	6615 kone p ne kusu コネ ッ ネ クス (調律、強調)である もの である 故に ものだから、
6580 yaunkuru moshiri ヤウンクル モシリ 陸の人 の島 本島人の国土である	6598 uwambare aike(←a-hike) ウワムバレ アイケ(←アヒケ) を観察する した すると 眺めたところ、	6616 oar oar p.147 オアラ オアラ 全く(重複) まったくもって
6581 lyochi kotan イヨチ コタン イヨチ 村 イヨチ村の	6599 PonTeseu um mat ボン テセウ ウム(←ウン) マツ 小テセウ に住む 女性 ボンテセウ姫が	6617 ene ramu i エネ ラム イ こう 思う 所 思う
6582 betkuretoko ※1 ta ベツクル エトク タ 川 陰 先 に 川の水源地に	6600 tap eashiri タッ エアシリ 今 初めて それこそ	6618 neepkor ※5 kane ネエフコロ カネ の如く(と同じ) の状態で ようには
6583 chironnup nitne チロンヌブ ニツネ キツネ 凶暴な 化け狐の	6601 shiretok tura シレトク(←シ、エトク) トウラ 容子 先端 とともに 美貌とともに	6619 raike eaikap. ライケ エアイカフ 殺す できない 殺せない。
6584 wen kamui an wa, ウェン カムイ アン ワ 悪い 神 居る して 魔物がいて、	6602 teketok tura テケトク(←テク エトク) トウラ 手先 とともに 刺繍の腕も	6620 Usaine usaine ウサイネ ウサイネ いろいろ 様々に さんざん
6585 nep ne yakka ネッ ネ ヤッカ 何で あっ ても 何が何でも	6603 arkatetokomare ※3 アラカテトコマレ 全くその気になる すっかり気に入る	6621 yaikoshiramse aine ヤイコシラムセ アイネ 考える したあげく 考えたあげく、
6586 mat kon rusui マツ コン(←コロ) ルスイ 妻 を持つ を欲する 嫁が欲しい	6604 yaikotomka ヤイコトムカ 自分に ふさわしい(他動詞化語尾) 自分の妻にふさわしいと惚れ込んだ	6622 PonTeseu un kuru ボン テセウ ウン クル 小テセウ に住む 男性 ボンテセウ彦
6587 be ne kusu, ベ ネ クス もの である 故に ものだから、	6605 ruwe ne. ルウェ ネ その事実 である のです。	6623 shisak rametok シサク ラメトク 滅多にいない 勇者 たぐいまれなる勇者を

※1 《沙流方言》petkuretoko「pet-kur-etoko <川・姿・の先端>【雅語】川の水源地」(p.525)

※2 「ramu-oshma <心・落ちつく> 承知する(金 I-109)、承諾する(金 I-87)」「(屍別)①引き受ける②好む《沙流》同意する。(方77, 164)」「【自動詞】ramu-osma <その心・そこにサッと入る> 同意する」(p.559)

※3 「ar-katetokomare <全く、全き・考えを起こす、そういう気になる> ひたすらに恋する」(金 VI-34)

※4 inkar-kamui <物を見そなはず・神> 神はすべて形は見えずとも、見えぬ所で何でも見えています、それ故 inkar kamui 物を見そなはず 神の語あり、inkar 物を見る、kamui の属性に外ならない。(p.628)

※5 neepkor = neepkor の如く、と同じに (金 I-399)

- 6624 hushkotoiwano
フシコトイ ワノ
古く(強意)から
ずっと前から
- 6625 katuhukar ※1 a
カトウフカラ ア
そのあり方を作る さんざん
さんざん騙しに
- 6626 kar a aine,
カラ ア アイネ
作った そのあげく
だましたあげく、
- 6627 nitnekamui
ニツネ カムイ
凶悪な 神
人を殺して食べる凶悪な神
- 6628 renkaine
レンカイネ
意図+(挿入音)+として
のせいで
- 6629 PonTeseu un kuru
ボン テセウ ウン クル
小テセウ に住む 男性
ボンテセウ彦は
- 6630 shinrit ubashkuma
シンリツ ウ バシクマ
祖先 互い 物事を教え伝える
祖先からの言い伝えを
- 6631 echutkonno ki.
エチユツコンノ キ
(考え方を)同じように する
間違えないように伝えました。
- 6632 Nitnekamui
ニツネ カムイ
凶悪な 神
人を殺して食べる凶悪な神
- 6633 renkai
レンカイ
意図+(挿入音)
の意図が
- 6634 tapne tapne
タッネ タッネ
こう こう
このような
- 6635 ne a yakne
ネ ア ヤクネ
であった ならば
のであったなら、
- 6636 shino i-koashkai ※2
シノ イコアシカイ
本当に 我に向かって 出来る
(?)
- 6637 kusu ne awan ko
クス ネ アワン コ
つもり、べき である と
(?)
- 6638 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 6639 kamui rametok
カムイ ラメトク
神の 勇者
神の勇者の
- 6640 sermak kashi
セレマク カシ
背後で守る神の上
背後に憑く守り神の上は
- 6641 kamui amba kuni p
カムイ アムバ クニ ヲ
神 ani '支配する' 複数形 べきもの
神の領分であるはずな
- 6642 kone p ne kusu
コネ ヲ ネ クス
(調律、強調)であるもの である 故に
ものだから、
- 6643 tarap tuika ta
タラプ トウイカ タ
夢 最中 に
夢の中で
- 6644 tapne tapne
タッネ タッネ
こう こう
このように
- 6645 enenep
エネネプ(←エネ エネ プ)
こうこうのこと
かくかくしかじかと
- 6646 okai katu
オカイ カトウ
ある の有様
あることを
- 6647 arobittano
アロピッタノ(←アヲ オピッタ ノ)
全く全部、みんな+(副詞語尾)
- すべて
- 6648 nukar nu wa
ヌカラ ヌ ワ
を見る 聞くして
見聞きして
- 6649 eraman,
エラマン
を知る
知り、
- 6650 PonTeseu um mat
ボン テセウ ウム(←ウン) マツ
小テセウ に住む 女性
ボンテセウ姫
- 6651 chikeutusare
チケウトウサレ
~のこと 骸を蘇生させる
の命を取り戻
- 6652 ekarkar orowa,
エカヲカラ オロワ
をす それから
してから、
- 6653 kamui tomo-
カムイ トモ
神 真ん中、正面
神の言うことを
- 6654 ekokanu ※3 wa
エココヌ ワ
それを聞き入る して
よく聞いてそのとおりにして
- 6655 mono okai.
モノ オカイ
静かに いる
おとなしくしていらした。
- 6656 Annitnekamui ※4 sui
アン(←アヲ) ニツネ カムイ スイ
全く 凶悪な 神 また、再び
全く極悪な神が再び
- 6657 inne kamui utar
インネ カムイ ウタ
大勢の 神 たち
大勢の神々たちの
- 6658 shikuturu
シクトウル(←シク ウトウル)
眼 その間
眼の間を
- 6659 tushmak wa
トゥシマク ワ
競争する、追い越す して
かいくぐって(盗んで)
- 6660 PonTeseu un kuru
ボン テセウ ウン クル
小テセウ に住む 男性
ボンテセウ彦が
- 6661 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村
- 6662 kotumisankere
コトウミ サンケレ
に戦さを出させる
に戦さを仕掛ける
- 6663 neino ne yakne,
ネイノ ネ ヤクネ
そのよう である ならば
ようであるならば、
- 6664 ainu bito utar
アイヌ ビトウタ
人間の 長者 たち
人間の族長たちが
- 6665 uwebokba ukoiki
ウウエボクバ(←ウ エボクバ) ウ コイキ
互いに 憎む 互いを 虐める
憎しみ合うけんかが
- 6666 yupke yakne,
ユフケ ヤクネ
激しい ならば
激しかったならば、
- 6667 raboki e-iki wa
ラボキ エイキ ワ
その間 お前が、それをする して
その間に前がそうして
- 6668 pon katkemat ※5
ボン カツケマツ
若い 淑女
若い姫を
- 6669 raikē eashkai ari
ライケ エアシカイ アリ
殺す 出来る と
殺せると
- 6670 raka isam ※6
ラカ イサム
益 ない
らちもない(つまらない)
- 6671 yainu ki.
ヤイヌ キ
考え をする
考えをした。
- 6672 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
この こと 故に
それで
- 6673 tumi ek ita
トウミ エク イタ
戦さ が来る 時に
戦さが襲来した時に
- 6674 kashkamui ※7 kor be
カシ カムイ コロ ベ
その上 神 を持つ 者
強い憑き神を持つ
- 6675 e-ne kusu
エ・ネ クス
汝 である 故に
そなただから、
- 6676 pirika kuni ne
ピリカ クニ ネ
良い よう に
いいあんにい
- 6677 nei tumisanke utar
ネイ トウミ サンケ ウタ
その 戦さを出す 者ども
戦さを仕掛けた(繰り出した)奴らと

※1 「kat(u)-kar ほかす、kat-kar 馬鹿にする、欺く、迷はず、憑く」(久保等 123)、「katukar...~をだます。~を化かす」(中川143)、「katu-kar 惑わす」(窪野195) katuhukarpa wa「[に術をかけて]」(教XIV-22)

※2 《萱野茂訳》「ikoashkai wa<私 それ 上手して>策をめぐらし」(教XIV-22)

※3 「tom(o) kokanu【連他動詞】<真ん中/正面をよよく傾聴する>~に忠実に従う。」(田20)

※4 annitne kamui「全くの魔神」(金II-149)

※5 原綴は、katkeのみでmat脱落。

※6 raka isam「無駄だ」(金II-201)、「萱野茂訳」「<利益・無い>根拠のない」(教23-126)

※7 《沙流》憑き神」(万 72-1)、「【名詞】(所屬形は kashkamuye)kas-kamuy<その上・神>憑き神。参考:kashkamuiのiが落ちた形」(田285)

6678 e-koekari hine,
エ・コエカリ ヒネ
汝が・そこに 回る して
そなたが出会って、

6679 ratchi irenka ari
ラッチ イレンカ アリ
穏やかな 規範、了見 でもって
穏やかな物言いで

6680 tapne tapne
タッネ タッネ
こう こう
このような

6681 utashba
ウ タシバ
互いと交換する(tasa複)
お互いに

6682 tu pirika kuni p
トゥ ピリカ クニ ッ
二つの 良い はずのこと
たくさんのよきことを

6683 re pirika kuni ne※1
レ ピリカ クニ ネ
3段つの 良い べきである
いくつものよかるべきように

6684 echi-e
エチ・エ
汝らが・それについて(?)
そなたらが

6685 ukoramuoshma,
ウ コラム オシマ
互いに その心 がサツと入る
合意して、

6686 echi-uwekatarotke
エチ ウウエカタロッケ
汝らが・互いと仲がよい
仲よくしている

6687 shiri sonno
シリ ソンノ
その様 本常に
その様子が

6688 nei chironnup
ネイ(=ネ) チロンヌブ
その 狐
あの(例の)狐は

6689 eramusarak,
エラムサラク
それについて 気がかりだ、心配する、気に病む
気がかりなものだから、

6690 orumboo
オルム ポオ(←オルン ポオ)
そこへ なおさら
ますます

6691 wen yainu
ウエン ヤイヌ
悪い 考え
けしからん想いが

6692 yupke wa,
ユッケ ワ
激しい、強い して
つって来て、

6693 sui ashirino
スイ アシリノ
また 新しい(副詞形成語尾)
またさらに新しく

6694 yaikoshirame wa,
ヤイコシラムセ ワ
考える して
思いついて、

6695 toop shino tuima
トオッ シノ トウイマ
はるか遠く 真に 遠い
ずっと本当に遠い

6696 shirebunmoshiri
シレブンモシリ(←シレ ヲン モシリ)
真に 沖 にある 島
はるか遠い沖の国(外国)の

6697 moshiri keseke
モシリ ケセケ
その島 の末端 の所
末端にある

6698 Kuroran kotan
クロラン コタン
クロラン 村
クロラン村

6699 ne rok awa,
ネ ロク アワ
であつ た ところ
でありました、

6700 katkiko※2
カツキコ
常態の(?)
(?)

6701 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄上は

6702 kamui ne kusu,
カムイ ネ クス
神 である 故に
神でありますから、

6703 konep wen keutum
p.149 コネッ ウエン ケウトウム
(調律、強調) 何 悪い 精神
何の悪い精神も

6704 konep wem buri
コネッ ウェム(←ウエン) ブリ
(調律、強調) 何 悪い 行い
何の悪い行いも

6705 ponnoka
ボンノカ
少しも
少しも

6706 kor somokino
コロ ソモキノ
持つ (否定) する+(副詞語尾)
持たずに

6707 kotan shikkashima,
コタン シッカシマ
村 保管する
しっかり村を守っており、

6708 nep a-erannak be
ネッ ア エランナク ベ
何か 我らが・心配する こと
心配事

6709 ka isamno,
カ イサムノ
も 無く
も無く

6710 uwesamanno
ウエサマンノ(←ウ エ サム アン ノ)
お互い それについて そばに 在る+(副詞語尾)
共に揃って

6711 iraukituiba ※3 koro
イラウキトウイバ コロ
商売をする ながら
内治外交などをしながら

6712 okai-an awa,
オカイアン アワ
居る・我らが たどころが
居たところ、

6713 sonno arwen
ソンノ アラウエン
本当に 全く悪い
まことに悪い

6714 nitnekamui
ニツネ カムイ
凶悪な 神
腹黒い神が

6715 kamui utar
カムイ ウタ
神 たち
神々たち

6716 shiketoko
シケトコ(←シク エトコ)
目の先
の目さきに

6717 urar otte wa,
ウララ オツテ ワ
かすみ をたたくさんいる させる して
かすみを掛けて、

6718 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄上を

6719 hushkotoiwano
フッコ トイ ワノ
古く(強意) から
ずっと前から

6720 katuhukar ruwe
カトウフ カル ルウェ
そのあり方 を作る その事実
だましていたの

6721 ne rokokai!
ネ ロクオカイ
であつ た のであつた
でありました。

6722 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
このこと 故に
それで

6723 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄上は

6724 ene katkor i
エネ カツコロ イ
あのように 振る舞う こと
あのように振る舞ったの

6725 ne awan.
ネ アワン
であつ たのであつた
でありました。

※1 ne 原文ママ、Pの誤記であろう。

※2 katkiko訳例:《金田一》senne katkikol とんでもない(但注:senneは打消の副詞、katkiは常のさまする、常態の)(金I-292)、《置野訳》I somo katki no<遠う障りして>(教XV-58)、katki ko<こんな所へ>(教XVII-155)、遠からず(教24-121)。

※3 iraukituiba…irauketupaが多くの聞かれる形である。…アイヌの人達は「商売をする、商売」と訳している。業務を意味するが、産物をもって日本や満州へ出かけて、物々交換することなど…内治外交の業務を指す。(金II-130)、「irawketupa…①仕事をする、何をするにも一生懸命する②仕事」(田244)

6-7 黄泉へと送られる悪神

- 8726 Tapne shino
タツネ シノ
このように 本当に
このような本当に
- 8727 tuima ushike ta
トウイマ ウシケ タ
遠い 所 に
遠いところに
- 8728 katkemat utar
カッケマツ ウタラ
淑女 たち
淑女たちを
- 8729 a-ekira wa
アエキラ ワ
我らが・と一緒に 逃げる して
われらが連れて逃げた
- 8730 ne a yakne
ネ ア ヤツネ
であった ならば
のであったなら、
- 8731 atanan ainu utar
アタナン アイヌ ウタラ
普通の 人間 ども
ただありきたりの人間たち
- 8732 konep ne kusu
コネッ ネ クス
(韻律、強調)であるもの である 故に
なものである、
- 8733 ponnoka
ボンノカ
少し も
少しも
- 8734 erambetek.
エラムベテッ
～を知らない
それがわからない。
- 8735 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
この こと 故に
それゆえ
- 8736 neita
ネイタ
どこ
いつか
- 8737 PonTeseu um mat
ボン テセウ ウム(←ウン) マツ
小テセウ に住む 女性
ボンテセウ姫を
- 8738 koashkai wa
コアシカイ ワ
に対して～が可能になる して
うまくして
- 8739 raike eashkai
ライケ エアシカイ
殺す を出来る
殺せる
- 8740 ari yainu
アリ ヤイヌ
と 考える
とも考えた
- 8741 ruwe ne ko ※1
ルウェ ネ コ
その事実 だと
のですが、
- 8742 sui sermaka
スイ セレマカ
また ～の背後
また陰で守る神の力が
- 8743 yupke p
ユツケッ
強いもの
強い

- 6744 yayekashkamui-
ヤイエ カシカムイ
自分で 上に憑く 神
自分の憑き神の言葉が
- 6745 nu p e-ne kusu,
ヌッ エネ クス
聞く者 汝である 故に
わかるそなただから、
- 6746 l-resuyubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄上の
- 6747 chickakaira
チ オカクaira
こと 後 こっそり追う
跡をこっそり
- 6748 e-ki hine,
エ キ ヒネ
汝が・をする して
付けてきて、
- 6749 tapne kane
タツネ カネ
このような 状態で
このように
- 6750 l-resuyubi
p.150 イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄上が
- 6751 haweokai katu
ハウエオカイ カトウ
声 ある そのこと
おっしゃったことを
- 6752 e-nu wa sonno
エ・ヌ ワ ソンノ
汝が 聞く して 本当に
そなたが聞いて、まこと
- 6753 yairamma ※2
ヤイラム マ(←ヤイラム ワ)
自身 の 心 から
自分の心で
- 6754 yainu i ne
ヤイヌ イ ネ
考える こと である
考えたことだ
- 6755 kuni e-ramu.
クニ エラム
と 汝は・思う
そなたは思い込みました。
- 6756 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
この こと 故に
それゆえ
- 6757 tumunchi kinra
トゥムンチ キンラ
戦い の 狂気
戦さの狂気
- 6758 rorunbe ※3 kinra
ロルムベ キンラ
戦さ の 狂気
戦いの狂暴な怒りに
- 6759 e-eyaitushtekka ※4 wa,
エエ ヤイトウシテッカ ワ
汝は それで 自身を競うさせる して
そなたは取り憑かれて、
- 6760 Kuroran kotan
クロラン コタン
クロラン 村
クロラン村
- 6761 e-kochorauki
エ コ チョラウキ
汝は に対して 怒鳴り込む
にどなり込み
- 6762 kotametaye
コタメタイエ(←コ タムエタイエ)
に 向かって 刀 を 引き 抜く
攻撃を

- 6763 e-ki. Orowano
エ キ オロワノ
汝が～をする それから
そなたが仕掛けました。それから
- 6764 tapne kane
タツネ カネ
このような 状態で
このような
- 6765 nei katu
ネイ カトウ
その 有様
事情が
- 6766 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
とうとう
- 6767 kanto otta
カント オツタ(←オロ タ)
天 の 所 で
天にいる
- 6768 shinubur kamui hene
シヌブル カムイ ヘネ
大いに 霊威ある 神 でも
本当にえらい神々も
- 6769 shiban kamui
シバン カムイ
まことに 霊力が弱い 神
弱い神々
- 6770 utarorke
ウタロロケ(←ウタラ オロケ)
仲間 内の 所
たちも
- 6771 arobittano
アロビッタノ(←アラ オビッタ ノ)
全く 全部、みんな(副詞語尾)
すっかり
- 6772 eramokai,
エラムオカイ(←エラム オカイ)
～に関して 心 がある
わかつて
- 6773 shino iyokunureba,
シノ イヨクヌレバ(←イ オクヌレ バ)
本当に 人を 驚きあきれ さす+(複数語尾)
本当に驚き、
- 6774 annitnekamui
アン(←アラ) ニツネ カムイ
全く 凶悪な 神
全く極悪な神を
- 6775 a-raibakashnu wa
アライ バカシヌ ワ
我らが・大いに～を懲らしめる して
大いに懲らしめて
- 6776 a-raibanakte,
アライ バナクテ
我らが・死の 罰を 当てる
死罪を与えて、
- 6777 teineboknashiri
テイネ ボクナ シリ
湿っている 下 の 方 の 世界
二度と生き返らないよみの国(冥土)
- 6778 a-koahunke. Orowa
アコアフンケ オロワ
我らが・に 入れ させる それから
に 追い やりました。

※1 ruweneko『菅野茂記』「そう言うが」(教XIV 39)

※2 yairamma『菅野茂記』「自分の意志での」(教23-151) ※3 原綴 rorunbe

※4 原綴 eeyaitushka

6-8 村での暮らしの契め	6796 ki wemburi キ ウェム ブリ(←ウエン ブリ) する 激しい感情 した怒りを	6814 pirikap ta an? ピリカッ タ アン いいもの(強調) ある いいものか?
6779 Kuroran※1 kotan ta クロラン コタン タ クロラン 村 で それからクロラン村で	6797 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であった にし ても も	6815 Kamui akkari カムイ アッカリ 神 それより 神にもまさる
6780 e-ronnu エ・ロンヌ 汝が 殺す そなたが殺した	6798 sonno usa yashtoma ソンノ ウサ ヤシトマ(←ヤイ シトマ) 本当に いろいろ 自身を 恐れる 本当にそれぞれ恥ずかしいだの	6816 horarba ruwe ホ ララバ ルウエ 尻を押さえる(horan: 様) 鎮座なさるご様子
6781 kamui utar カムイ ウタ 神 たち 神々は	6799 usa Otasam un ウサ オタサム ウン それぞれ 砂浜 側 に 住む いろいろオタサムの	6817 okai be オカイ ベ ある 者 であるお方が
6782 arobittano アロピッタノ(←アラ オピッタ ノ) すべて 全く 全部、みんな+(副詞語尾)	6800 ainu ari アイヌ アリ 男(人) と 人と	6818 ikor kasuno イコカ カスノ 宝物 凌ぐ+(副詞語尾) 宝物にもまさる
6783 tuima ramachi※2 トウイマ ラマチ 遠い その魂 とうに殺されて遠くまで行ってしまった靈魂も	6801 a-borsebap ア ボロセ バブ 人々が・呼ぶ(複数形語尾)-もの、こと 呼ばれたことだの	6819 a-aki newa ア アキ ネワ 我・の弟 と わが弟と
6784 hanke ramachi ハンケ ラマチ 近い その魂 後に殺されてまだ近くにいる靈魂も	6802 newa ne yakka, ネワ ネ ヤッカ であった にし ても にしても、	6820 a-tureshipo ア トウレン シポ 我が・妹+(指小辞) わが可愛い妹の
6785 a-konoshba- ア コノシバ 我らは・に向かって 追う われらは追いかけて	6803 okkayo hene オクカヨ ヘネ 男 でも 男も	6821 tun echi-ne wa トゥン エチ ネ ワ 二人 汝ら・である して お二人ともども、
6786 kar wa a-rapte, カラ ワ アラプテ 作る して 我らは・ranke '落とす' 複数形 行って降りてきて、	6804 menokopo utar メノコポ ウタラ 女+(指小辞) たち 娘たち	6822 a-kor wemburi ア コロ ウェム ブリ(←ウエン ブリ) 我・が持つ 激しい感情 わが悪行の
6787 atbake wano アツバケ ワノ 初めの所 から 最初	6805 hene sonno ヘネ ソンノ でも 本当に もまこと	6823 oman ikiri※4 オマン イキリ 行く 一続き 一連のいきさつ—
6788 ukorachi ウ コラチ 互いに そのよう の様に	6806 kamui akkari カムイ アッカリ 神 それより 神以上に	6824 echiokai※5 エチオカイ 汝ら おん身たち
6789 uwenubetne ウウエヌベツネ 互いと共に 喜ぶ なつかしがって喜び合	6807 pirika ruwe ピリカ ルウエ いい その事実 美しいようす	6825 ne yakka ネ ヤッカ であつ ても をも
6790 kor okai. コロ オカイ ながら いる っていました。	6808 okai be オカイ ベ ある 者 いらっしやるお方が	6826 echi-ronnu-an wa エチ ロンヌ アン ワ 汝ら・を殺す・我が して われが殺して
6791 i-resuyubi イレス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄上	6809 a-koyaikire※3 ア コヤイキレ 人々が・馬鹿にする 馬鹿にされた	6827 kanto orbakno カント オロバクノ 天 内、所にまで 天の神々の所まで
6792 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であった にし ても も	6810 shiri sonno シリ ソンノ その様 本当に ことを本当に	6828 echi-arki エチ アラキ 汝ら・が乗る 行った
6793 shino shino シノ シノ 本当に 真に 本当にほんとに	6811 a-koyaikataikap, ア コヤイカタイカフ(←アコヤイカフ) 我は・に対し 自身 形 拙い わたしはお気の毒に思うものの、	6829 shiri sonno シリ ソンノ その様 本当に ことは本当に
6794 iyokunure. イヨクヌレ(←イオクヌレ) 人を 驚きあきれ さす 驚きました。	6812 nekona shino ネコナ シノ どう 本当に 何をどう本当に	6830 echi-eramboken-an, エチ エラムボケン アン 汝らを・憐れむ・我は お気の毒でした。
6795 Konep wen kamui p.151 コネフ ウエン カムイ (韻律、強調) 何 悪い 神 何か悪い神が	6813 yayattasa-an ko ヤヤッタサ(←ヤイ アラ タサ) アン コ 自身 全く 返す・我は ~して わたしがつぐなって謝ったら	6831 Kamui otta カムイ オッタ(←オロ タ) 神 の所に 天界に

※1 原綴 kuran

※2 tuima ramachi/hanke ramachi「遠き靈魂を(脚注: 疾くに死にて、遙かに行きたる靈魂)/近き靈魂を(脚注: 後に殺されてまだそう遠く仰がざる靈魂)」(研749)

※3 koyaikire「馬鹿にする(金田296)、(語法)、[民]291「侮る」(久44)

※4 原綴 ikire

※5 echiokai「入称代名詞『胆振・幌別』①(雅語・二人称複数)汝ら②(口語・二人称複数)お前たち」(語法)、Echiokai neyakka「おん身たちとて」(研733)

<p>8832 echi-okai kasuno エチ オカイ カスノ 汝ら がいる 以上に いる以上に</p> <p>8833 ainu kotan アイヌ コタン 人間の 村 人間の村</p> <p>8834 yaunkuru kotan ヤ ウン クル コタン 陸の 人 の村 本島人の村</p> <p>8835 Otasam kotan オタ サム コタン 砂浜 側 村 オタサム村は</p> <p>8836 kuromato ta クロマト(←クルオマト) タ 黒、暗 中にある 日 に 夜では</p> <p>8837 ikikorkaiki sonno イキ コロカ イキ ソンノ 物 する けれども(添えの助辞) まことに あるけれども、</p> <p>8838 shirerasasu-an シレラマス(←シリ エラマス) アン 辺りを 気に入る、が好きだ・我らが われらが 気に入る</p> <p>8839 katuchakakke ※1-an カトゥ チャカケ アン 心地よい・我らは くつろいで 過ごせ</p> <p>8840 noine iramu-an na, p.152 ノイネ イラム アン ナ らしく 思う・我らが よ そうに 思われますぞ。</p> <p>8841 Tun echi-ne wa トゥン エチ ネ ワ 二人 汝ら・である して お二人ともども、</p> <p>8842 Otasam un kuru オタサム ウン クル 砂浜 側 に住む お方 オタサムびと</p> <p>8843 kamui ne am be カムイ ネ アム(←アン) ベ 神 のように ある 者 神のようなお方よ。</p> <p>8844 echi-koashinke- エチ コアシンケ 汝ら に対して 罰金として 出す そなたに対して 償を出します</p> <p>8845 an na, rap wa アン ナ ラフ ワ 我らは から 降りる して から、降りてきて</p> <p>8846 i-kotchake ta イコッチャケ タ 我ら・の前 で われらの前で</p> <p>8847 yayababu wa ヤヤバブ(ヤイアバブ) ワ 自身 悔いる して あやまって</p> <p>8848 i-kore yan. イコレ ヤン 我に・与える なさい ください。</p> <p>8849 Kamui ne am be カムイ ネ アム(←アン) ベ 神 のように ある 者 神のようなお方が</p> <p>8850 ramuoshma chiki, ラム オシマ チキ その心 がサッと入る なら 同意なさるなら、</p>	<p>8851 taban tewano タバ(←タ) アン) テワノ 今ここに ある ここ から これからはもう</p> <p>8852 ainu bito アイヌ ビト 人間の 長者 人間の族長</p> <p>8853 utar turanno ウタラ トウランノ たち と一緒に たちともども</p> <p>8854 shine utanne yan! シネ ウタンネ(←ウタラ ネ) ヤン 一つ 仲間 になる なさい 一族になりなさい。</p> <p>8855 Kuroran kotan otta クロラン コタン オッタ(←オロ タ) クロラン 村 の所に クロラン村に</p> <p>8856 echi-okai kasuno エチ オカイ カスノ 汝ら がいる 以上に 住んでいるよりも(?)</p> <p>8857 shino pirika シノ ピリカ 真に よい まことによい</p> <p>8858 ruwe ne kuni ルウェ ネ クニ こと である はずだと ことだと</p> <p>8859 a-ramu na." アラム ナ 我は・思う ぞ 思いますよ」</p> <p>8860 ari haweokai. アリ ハウエ オカイ と 声ある とおっしゃいました。</p>	<p>6-9 受け入れる二人</p> <p>8861 A-eshikop utar hene アエシコブ(←ア エシコ オ)ウタラ ヘネ 我らが・それで 目がついた 者 たち でも われらの両親たちも</p> <p>8862 moshma kamui utar hene モシマ カムイ ウタラ ヘネ その他の 神 たち でも 他の神たちも</p> <p>8863 arobittano アロビッタノ(←アラ オビッタ ノ) 全く 全部、みんな(副詞語尾) 皆</p> <p>8864 shineikinne shino シナイキンネ(←シネ イキリネ) シノ いっせいに しっかり</p> <p>8865 ramuoshma wa ラム オシマ ワ その心 がサッと入る して 同意したから</p> <p>8866 rap-an ruwe ne. ラフアン ルウェ ネ 降りる・我は その事実 である わたしは 下りて来たのです。</p> <p>8867 I-resuyubi イレ ス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄上は</p> <p>8868 kanto orowa カント オロワ 天 から 天界から</p> <p>8869 matkor wa マツコロ ワ 妻を持つ して 妻をめぐって</p> <p>8870 Kuroran kotan un クロラン コタン ウン クロラン 村 ヘ クロラン村へ</p> <p>8871 sui ran kushki. ※2 スイ ラン クシキ(クス キ) 再び 下がる つもりをする(?) また降りてくるつもりでした。</p> <p>8872 I-resuyubi イレ ス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄上は(?)</p> <p>8873 Annitnekamui アン(←アラ) ニツネ カムイ 全く 凶悪な 神 全く極悪な神に(?)</p> <p>8874 orowano katuhu オロワノ カトゥフ それから そのあり方 それから騙</p> <p>8875 a-kar yak wa アカラ ヤク ワ (人々?) を作る と して されて(?)</p> <p>8876 tapne kane タネ カネ このような 状態で このような</p> <p>8877 ikir○○※3 be ? ? ?</p> <p>8878 sonno aokai utar p.153 ソンノ アオカイ ウタラ 本当に 我 たち 本当にわたしたち</p>
---	---	---

※1 「Katu-chakakke;…無事安全ナル、…v.i. To be well and happy. To feel serene. To be comfortable. Syn: Nupetne.」B24C

※2 kushki 【壹野訳】「kush-ki<ため する>chishekot-an kushki 死ぬほど泣いた。」:文壇117)

※3 ○○部分解説不能。

6879 ne yakka shino ネ ヤッカ シノ であっても 本当にもまこと	6897 i-kore-an yakka イコレ アン ヤッカ 我ら・に与える・人が してもくださっても、	6-10 家族となった面々
6880 yaikataikap-an ヤイカタイカブ(←ヤイ カッ アイカブ)・アン 自身形 拙い 我らは お気の毒に思っている	6898 ponnoka wen ボンノカ ウエン 少しも 悪い 少しも嫌	6915 Pon a-kor yubi ボン アコ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者は
6881 ruwe ne. ルウェ ネ 事実 である のです。	6899 ruwe ne ari ルウェ ネ アリ こと であると だとは	6916 kotekrikikur- コテクリキクル 共に 手 高い所・(助辞) 一緒に 掌を上へ向け
6882 I-resuyubi イレス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄上	6900 somo yainu-an ソモ ヤイヌ アン (否定) 考える・我らは 思わない	6917 bumba kane, p.154 ブムバ カネ に持ち上げる 状態で ゆったりと上下させて、
6883 kotchake ta コッチャケ タ の前 で のおん前で	6901 ruwe ne. "ari ルウェ ネ アリ その事実 だ と のです。』と	6918 tuwan onkami トゥワン オンカミ 二十の 拝礼 何十回もの
6884 boronno boronno ボロンノ ボロンノ たくさん たくさん せいっぱい	6902 inerokbekusu イネ ロクベクス 何と あったこと ゆえ 何とまあ	6919 rewan onkami レワン オンカミ 三十の 拝礼 拝礼
6885 yayababu-an na, ヤヤバブアン(ヤイアバブ アン) ナ 自身 悔いる・我らは から われらはあやまりますから、	6903 wayashnu wa ワヤシヌ ワ 賢い して かしこくて	6920 arukakushte kane, アルカクシテ(←アラウ カクシテ) カネ 全く 互いの上を通過させる 状態だ を重ねながら、
6886 keke hetak ケケ ヘタク さあ いざ さあさあ!	6904 itak eashkai wa イタク エアシカイ ワ 話す に関してできる して 確弁に	6921 somo setaknobo ソモ セタクノ ボ (否定) 短時間(副詞語尾)+(指小辞) ややしばらく
6887 kamui ne an kuru カムイ ネ アン クル 神 のように ある お方 神のようなお方を	6905 haweokai ハウエオカイ 声ある 話す	6922 pirikano ピリカノ よく じっと
6888 chitusare wa チトウサレ ワ ~こと 蘇る させる して 生き返らせて	6906 nankor'a !? ナンコラ(←ナンコ ヲ ヤ) だろう か のかしら?	6923 ikokanu wa イコカヌ ワ ものに聞き入る して 注意深く聞き入って
6889 chihonnere ※1 wa チ ホンネレ ワ ~こと 緩む させる して われらを許して(?)	6907 Baronnawano パロンナワノ(←バラ オンナ ワノ) 口の中 から 口の中から	6924 okai rokine. ※3 オカイロキネ(←オカイ ロク ヒネ) あつ たして そのようにして居て居て、
6890 i-kore kunak イコレ クナ(←クン ヤッ) 我に・与える べきである ということ くだ	6908 chibitabita. チビタバタ ~ている ほどきにほどく するすると	6925 eashka エアッカ 本当に それこそ
6891 ramu yan ! ラム ヤン 思う なさい されませ。	6909 Sonno nep ka ソンノ ネッ カ 本当に 何も 本当に何か	6926 itak etoko イタク エトコ 言葉 の先 ことばが言い終わるか終わらないうちに、
6892 Kamui a-ne a yakka カムイ アネ ア ヤッカ 神 我らは・であつ た としても われらは神であつたにせよ	6910 ohetke kuni オヘツケ クニ 尻 が急にとび出す+(自動詞語尾) するように 流れ出た	6927 ohumseechiu ※4 オフムセエチウ そこからフムという声をさす フムツムツという氣勢の声を挙げました。
6893 taban tewano タブン(←タッ アン) テワノ 今ここに ある ここ から これからはもう	6911 korachino コラチノ と同様+(副詞語尾) みたいに	6928 Ene hetapne ! エネ ヘタッネ こう か これはまあ あんなにもまあ
6894 ahun ushiu ※2 ne hene アフンウシウ(←アウ ウン ウシウ) ネ ヘネ 家の中 にいる 召使い になる でも 内仕事を する 召使いに しても	6912 tuyetakneko トゥエイ タクネ コ 紐 短い(否定辞) 長々と	6929 tumashnu shiri トゥマシヌ(←トウム アシヌ) シリ 力 充分ある その様 その剛勇ぶり
6895 soyun ushiu ne hene ソユンウシウ(←ソイウン ウシウ) ネ ヘネ 外 にいる 召使い に ても 外仕事を する 召使いに しても	6913 itak a itak a イタク ア イタク ア 話した 話した しゃべるわしゃべるわ	6930 okai rok be, オカイ ロクベ あつ たもの であつたお方が
6896 i-eiwanke wa イエイワンケ ワ 我らを・それに使う して われらを召し使って	6914 aine okere. アイネ オケレ そつて 終える して言い終えました。	6931 Ponainu ponkuru ポナイヌ(←ボン アイヌ) ポンクル 若い 人 若い お方 年若いお方

※1 chihonnere(童野茂訳)「chi-honnere<それ・知る>どうかお許し下されたい。(VI-22)、<知つてくれた>理解して(文庫-156)」

※2 aun ushiu/soyun ushiu「<内の 奴婢(家の内の事をして仕へる奴婢)/外・の 奴婢(家の外の事をして仕へる奴婢)>(研W338)、召使いのうち、家のまわりを掃除するものと、屋内の拭き掃除するものを分けて言う。aun(原綴 ahun)<内の>(金I-61)」

※3 okai rok nine「しかして居て居て(研644)、在り在りて(研686)、ありありて(研519)」

※4 参考; e-i-o-humse-eciwi「<そこに・物を(に)・そこ・フム!と力声を 出す・差す、出す>力声を/入れて」(金II-232)

6932 raukotabu
ラウコタブ
を挿え
をしっかり押さえて

6933 eshikarba
エシカラバ(←eshkar 複数形)
を掴む
その肩をつかみ、

6934 " Honebeta! ※1
ホネベタ(←ホネヘタ)
まあ何かこれ
「何をぬかすか!

6935 Koneptapteta!
コネッタテタ
(調律)何これここに
何ともまあ

6936 chieyomapka ※2
チエヨマッカ(←チエオマッカ)
~こと汝~を可愛がるさせる
(?)

6937 isambauhakere ※3
イサムベハウケレ
人に心臓を弱くさせられる
(?)

6938 orsaureko
オサウレコ
全く緩い+(否定)
まったくとんでもなく

6939 base sonko
バセゾンコ
重い たいより、知らせ、言つて
重要な言つてを

6940 ye hawe
イエハウエ
言う その言葉
言つて

6941 okai be ne ya?
オカイベネヤ
あるものであるか
いるものだな?

6942 Utar sak kuni p
ウタラサククニ
同族を欠くような者
同族もいない

6943 a-ne awa,
アネアワ
我である ところ
われだから(?)

6944 bokashokaibe ka
ボカシ(←ボクアシ) オカイベカ
下に立つ ある者も
劣っている者でも

6945 a-eyaikobuntek
アエヤイコブンテク
我は~について自分のことを喜んでねぎらう
われはうれしく

6946 a-enubetne p
アエヌベツネ
我は~について懐かしがって喜ぶ者、こと
わたしは懐かしいもの

6947 ne nankor be
ネナンコロベ
である だろう もの、こと
だろうものに、

6948 koneptapteta!
コネッタテタ
(調律)何これここに
何ともまあ

6949 kamui ne rok be
カムイネロクベ
神の如くした者
神のごときお方

6950 utarorkehe
ウタロケヘ(←ウタラオロケヘ)
仲間 その内の所

たちは

6951 kamui ne kusu
カムイネクス
神である 故に
神でありますから、

6952 irenka pirika
イレンカピリカ
とりきめ 良い
思いやりのある

6953 keutum pirika
ケウトウムピリカ
精神の美しい
気持ちが良

6954 kashba hawe
カシバハウエ
過ぎる その話
過ぎるその話は

6955 irayapka
イラヤッパカ
人を賞嘆させる
びっくりする

6956 okai be ne ya?
オカイベネヤ
あるものであるか
ものですか?

6957 Sonno hetapne
ソンノヘタツネ
本当かこれはまあ
本当にまあ

6958 oroyachiki
オロヤチキ(←オロオヤチキ)
そこの ~すれば
意外にも、

6959 tapne tapne
p.155 タツネ タツネ
こう こう
このような

6960 base orushbe
バセオルシベ(←オロウシベ)
重い の所についているもの
重大事

6961 boro orushbe
ボロオルシベ
大きな ~のこと、~に関する事柄、話、噂
大きな出来事

6962 okai rok okai ko ※4
オカイロクオカイコ
anの複数敬語 いらつしやると
に出会ってしまったらと(?)

6963 atanan ainu
アタナンアイヌ
普通の人間
ただ普通の人間

6964 shiketoko takne p
シケトコ(←シクエトコ) タツネ
目先の短い者

6965 a-ne kusu,
アネクス
我である 故に
われですから、

6966 tane ta bakno
タネタバクノ
今 これまで
今の今まで

6967 ponno boka
ボンノボカ
少し さえも
ほんの少しも

6968 a-erambetekno
アエラムベテクノ
我は~を知らない(副詞語尾)
われは知らずに(わからずに)

6969 an-an ruwe okai!
アナン(←アンアン) ルウエ オカイ
いる・我は その様 ある
いたのでした。

6970 Konepkukata!
コネッケウカタ
(調律)何体上(感動)
おおあわれ、

6971 konepkashita!
コネッカシタ
(調律)何上(感動)
あななさけない。

6972 Kurorani un kuru
クローニウンクル
クローニに住む お方
クローニウニクルは

6973 oroyachiki
オロヤチキ(←オロオヤチキ)
そこの ~すれば
意外にも、

6974 yairamma
ヤイラムマ(←ヤイラムマ)
自身の心から
自分の意志で

6975 ikichi i
イキチイ
物する+(複数語尾) こと
あのようなことをしたの

6976 somo ne
ソモネ
(否定)である
ではなか

6977 rok okai hawe
ロクオカイハウエ
た ある その声
だったのであった事を、

6978 utashba bakno
ウタッパバクノ
相互に ほどに
かわるがわる

6979 wenna wenna ※5
ウエンノウエンノ
悪く 悪く
ざつと

6980 uye-an kane
ウエイアンカネ
互いに~を言う・我らは 状態で
互いに言い合つて

6981 ukoiki-an shiri
ウコイキアンシリ
互いをいじめる・我らが その様
喧嘩する様子が

6982 okai rok awa,
オカイロクアワ
あつたところが
あつたのに、

※1 honebeta! ←ho nep he tap <まあ 何か
これ>【感嘆詞】何事ぞ、何をぬかすか(金1130)、
ho-nep-he-ta <(感声)・何・か・そこ>ほんどに
まあ(金1172)】

※2 不明。chieyomapka <それでもって~を可愛がる(他動詞化語尾)>の誤記? (他動詞語尾)の誤記?

※3 [sambe-hauge 親切ナル adj. Kind. B434]、《壹野茂分解》「i-sambe haukere <それ・心臓・弱くする>」(教23-23)

※4 okai rok okai ko 《壹野茂記》「あつたが故に」(教26-67)

※5 wenna wenna 「少しづつ・少しづつ」(研670)、《壹野茂記》「悪く・悪く・いよいよながら」(教22-7)、ざつとざつとの(教22-74)、「wenna-wenna <悪く(重
複)>【副詞】おどざつぱに」(田528)

6983 **chiutarkore**※1
チ ウタ コレ
~こと、自身に 身内 を与える
親類になるにし

6984 **newa ne yakka**
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
ても

6985 **senne saureno**
センネ サウレノ
(打消) 容易な+(副詞語尾)
容易ではない

6986 **sonno sonno**
ソノ ソノ
真に 本当に
本当にまことの

6987 **kamui ne kusu,**
カムイ ネ クス
神 である 故に
神でありますから、

6988 **pirika buri**
ピリカ ブリ
よい 行い
立派な行い

6989 **koro shiri**
コロ シリ
持つ その様
をなさる様子には

6990 **irayapka,**
イラヤブカ
人を 賞嘆 させる
驚かされます。

6991 **Aokai anakne**
アオカイ アナクネ(←アン ヤクネ)
我 ある ~するならば
われ自身は

6992 **eashka sonno**
エアシカ ソノノ
本当に 真に
それこそまことに

6993 **kamuikoinkar be**
カムイコ インカラ ベ
神が ~に恵みを与える、守護する 者
神に守られている者

6994 **a-ne shiri**
アネ シリ
我・である その様
であるのを

6995 **iyairaikere,**
イヤイライケレ(←イ ヤイ イライケレ)
我に 自身を 恥しくさせる
感謝しています。

6996 **Tane anakne**
タネ アナクネ
今 は
今はもう

6997 **oroyachiki**
オロヤチキ(←オロ オヤ チキ)
そこ 他の ~すれば
意外にも、

6998 **chiukokeshke p**
チ ウコ ケシケ フ
される 互いに 妬む 者
みんなから嫉まれ憎まれている

6999 **a-neba kusu,**
アネバ クス
我は・である+(?) 故に
われらですから、

7000 **konep onushbe ka**
コネフ オルシベ(←オロ ウシ ベ) カ
(韻律) 何 所 についているもの も
何の出来事も

7001 **tane bakno**
タネ バノ
今 まで
今まで

7002 **a-erambeutek,**
ア エラムベウテク
我は・知らない
われは知りません。

7003 **Ouse yayirushkare batek**
オウセ ヤユイルシカレ(←ヤイルシカレ) バテク
ただ 自身を怒らせる(?) ばかり
ただ(?)ばかり

7004 **eyairam-**
p.156 エ ヤイラム
それで自分の 心
悩ん

7005 **shitne**※2 a-ki
シツネ アキ
がもつれる 我は・~をする
でい

7006 **humioikai rokwa,**
フミオカイ ロクワ
human感じていたの複数形 たのに
たところだったのに、

7007 **kamui renkaine**
カムイ レンカイネ
神の 意図+(挿入音)+として
神々のお陰で

7008 **nep ne yakka**
ネッ ネ ヤッカ
何 であつ ても
何ごとでも

7009 **sonno ikkewehe**
ソノノ イクケウエヘ
真実の その原因
その原因が

7010 **a-noeraman**
アノ エラマン
我は・よくわかる
はっきりわかりました。

7011 **Shino nubetne-an wa**
シノ ヌベツネ アン ワ
本当に 喜ぶ・我は して
ほんとうにわれは喜んで

7012 **taban tewano**
タバ(←タッ アン) テワノ
今ここにある ここ から
これからはもう

7013 **irwak ne**
イリワク ネ
兄弟姉妹 として
われらは兄弟姉妹に

7014 **echi-kor-an**
エチ コロ アン
汝ら・を持つ・我は
なり、

7015 **utashba kane**
ウタシバ カネ
互いに tasa '交換する' 複数形 状態で
お互いに

7016 **uweomap-an**
ウウエ オマフ アン
互いに愛 する・我らは
愛し合い、

7017 **uwomumbekare-an**※3
ウウオムムベカレ アン
互い 世話を する・我らが
世話をしてお互い大切にしたい、

7018 **neita bakno**
ネイタ バノ
どこ まで
いつまで

7019 **ne yakka**
ネ ヤッカ
であつ ても
も

7020 **uwenubetne**
ウウエヌベツネ
互いと共に 喜ぶ
会えばお互いに喜び

7021 **a-ki kor**
アキ コロ
我らは・~をする ながら
合つて

7022 **iraukituba-an wa**
イラウキトウバ アン ワ
に 仕事に行く・我は して
わが役目を果たして

7023 **kamui nubetnere**
カムイ ヌベツネ レ
神 を喜ぶ させる
神々を喜ばせる

7024 **a-ki kusu**
アキ クス
我は・~をする つもり
つもり

7025 **ne na." ari**
ネ ナ アリ
だ よ と
ですよ!と

7026 **Pon a-kor yubi**
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は

7027 **itak kane,**
イタク カネ
言う 状態で
言つて、

7028 **kamui pon okkaipo**
カムイ ボン オッカイポ
神の 若い 青年
神である若い青年

7029 **shikoruye,**
シコルイェ
自分の方へしめつける
を抱きしめ、

7030 **shisak rametok**
シサク ラメトク
滅多にいない 勇者
このたくいまれなる勇者は

7031 **tu nubur nube**
トゥ ヌブル ヌベ
二つの 濃い 涙
たくさんの熱い涙

7032 **re nubur nube**
レ ヌブル ヌベ
三つの 濃い 涙
数々の熱い涙をはらはら

7033 **yaikoranke**※4kane.
ヤイコランケ カネ
ひとり 落とす 状態だ
ひとり流しています。

※1 utarkore|utar-kore<親類・持たず、与える
>親類をもつ)(金III-255)
※2 参考:|yay-ram-shitnere<自分の・心をも
つれさす>「ホロベツ」なやむ」(金I-656)

※3 omumpekare「世話を する」(金II-211(基注))、「オモンベカレ 大事にする」(金II-182)
※4 yaikoranke「ひとり・はらはらと涙を落とす」(金II-183)

6-11 喜び合う一同

- 7034 Shiriki chiki,
シリキ チキ
その様をしたら
そうするから、
- 7035 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 のように ある 者
神のような方々は
- 7036 ene hetapne!
エネ ヘタッネ
こう かこれはまあ
あんなにもまあ
- 7037 yayeinukuriba ※1
ヤイエイクリバ
自身について大儀である-(複数語尾)
大儀そうに
- 7038 kasui ruwe
カスイ ルウェ
手伝う その様
手伝っていた様子
- 7039 okairok be,
オカイ ロッベ
あつ たもの
の方々が、
- 7040 katune kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 7041 nubetne kuni p
ヌベツネ クニ ヲ
喜び はずのもの
喜ぶもの
- 7042 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 7043 kotomorkaiki
コトム コカ イキ
似つかわしい けれども+物事をする
いいのに、
- 7044 sonno ne wa
ソンノ ネ ワ
本当 である して
本当にも
- 7045 kurka konna
クルカ コンナ
からだ が
頭の上
- 7046 charkosamba
チャラコサムバ
まき散らす kosanu '急に～する'の複数形
ばつとはじけ散った
- 7047 semkorachino ※2
セム コラチノ
(強め辞)+の如く+(副詞語尾)
みために、
- 7048 sanchaka ta ※3
サン チャカ タ
出る口の上で
唇の上に

- 7049 mina kane
ミナ カネ
笑う 状態で
笑みを浮かべて
- 7050 turesh turanno
p.157 トウレシ トウランノ
妹 と一緒に
妹と共に
- 7051 "yuppo!" ari
ユッポ アリ
兄+(親称接尾辞)と
『お兄さまあ!』と
- 7052 haweokai kane.
ハウエオカイ カネ
声ある 状態だ
言いました。
- 7053 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 7054 boo mashkin
ボオ マッキン
もつと ますます
まるでますます
- 7055 uyotsak ※4be ne
ウヨツサク ベ ネ
力 が無い 者 のように
力を失った者のように
- 7056 okkeukurkan-
オクケウ クルカン-
首骨 陰 裏無い
首をむちやむちや
- 7057 isam ※5 kane
イサム カネ
無い 状態だ
ふつて
- 7058 kaine okai be
カイン オカイ ベ
(?) ある 者
(?)
- 7059 henkotba ※6 kane,
ヘンコツバ カネ
顔 kote'結びつける'の複数形 状態で
にこにこ顔をむけて、
- 7060 otusui konna
オトスイ コンナ
幾つも重なる 二回 (語調)
何度も
- 7061 oresui konna
オレスイ コンナ
幾つも重なる 三回 (語調)
何度も
- 7062 shikoruiruyeba.
シコルイルイェバ
自分の方へ 何度もなでさする+(複数形語尾)
なでさすります。
- 7063 Kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 のように ある 者
神のような方々
- 7064 utar ne yakka
ウタラ ネ ヤクカ
たち であつても
たちも

- 7065 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者の
- 7066 sankokkasaba
サンコカ サバ
前へ出た 膝 頭
ひざがしらや
- 7067 santek kashi
サンテク カシ
前へ出た 手の上
手の甲を
- 7068 koruiruye kane,
コルイルイェ カネ
共に 何度もなでさする 状態で
何度もなでさすつて、
- 7069 uwekap
ウエカフ
互いに 挨拶する
皆で挨拶の礼を交わし合い
- 7070 ukeuhmsuba ※7
ウケウフムスバ
互いに 魔払いの舞踏行進をする+(複数形語尾)
魔払いの気合いの声を発し合いました。
- 7071 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 のように ある 者
神のような方々は
- 7072 tun ne kane
トゥン ネ カネ
二人 である 状態で
お二人で
- 7073 tun a-ne wa
トゥン アネ ワ
二人 我ら・である して
わたしたち
- 7074 i-sam ta
イサム タ
私の 側に
のそばに
- 7075 arki hine
アラキ ヒネ
来る して
やって来て
- 7076 i-ekapba,
イエカフバ
我らに・会釈する-(複数形語尾)
挨拶し、
- 7077 eashka
エアッカ
本当に
しっかり
- 7078 i-koyayunashkeba ※8
イコヤユナシケバ
我らに・対して 謝る+(複数形語尾)
わたしたちに謝罪しました。
- 7079 Nitnekamui
ニツネ カムイ
凶悪な 神
ニツネ カムイが
- 7080 renkap ※9 ne wa
レンカフ ネ ワ
決まりのもの である して
欲したことで

※1 yayeinukuri 《萱野茂訳》「yay-e-inukuri <自分・それ・気まずい思い>気まずい思い」(教XVI-150)

※2 参考: sem-koraci「<強めるだけで意味はない・～の如く>=koraci」(語法)、「後置副詞」《雅語》～のように、～するように」(田615)

※3 san-cha-ka ta「<ちびるの上>(副注: たつこりと笑をふくむ、san-cha-ka ta <出る・口>即ち外がはの口、外に見えてある部分で、唇から口もとのあたりのこと、ホホホ、或はハハハと聲を出して笑ふのの対し、聲を出さずにつこりする意)」(研616)

※4 uyotsak be ne「力なきもののように」(金V51)、「カラ失フ、v.i. To have lost strength. …Syn: Tumsak」(B553)、《萱野茂訳》「<礼儀 無い者なる>礼儀を忘れた者のように」(教XVII178)、「<遠慮 無い者 なる>遠慮の心をかなぐり捨て」(教25-67)…」

※5 okkeukurkanisam「…非常な誇張的表现で、実はあごをむちやくちやに上下して、頸骨が折れてしまうほど振ったこと、愛情の深いさまの表現」(金I-183)

※6 「他動詞」～になすく」(田183)

※7 kewe-humsu「<追払う・humse 気合を発する、怒り声を発する>『北海道至要』魔を追いやりそけるために行つ儀礼的踏舞行進。《晩別》

kewehomsu←kewehumse=kewehumsu」(人572)、「…地方によって、或は場合によって、さまざま名称で呼ばれている」(『知里著作集2』37～8)

※8 yayunashke「謝罪を」(脚注:《B》ヤユナシケ 謝罪スル 辞ヒル、v.i. To ask to be excused, To beg pardon.)、(金I-217)

※9 renkap「定、決(研780)、所為、所存、裁量(金I-158)、意志すること、欲すること、所思(金I-367)」

- 7081 am be ari
 アム ベ アリ
 ある こと と
 あつたと
- 7082 yainu-an chiki,
 ヤイヌ アン チキ
 考える・我らは なら
 思ったから、
- 7083 sonno keutum-
 ソンノ ケウトウム
 本当に 心
 ほんとうに心
- 7084 oshiwano※1
 オシワノ
 その中 から(?)
 から
- 7085 ramoshiwano
 ラモシワノ(←ラム オシワノ)
 心の中 から
 心の底から
- 7086 kamui ne okai be
 カムイ ネ オカイ ベ
 神 のように ある 者
 神のような方々を
- 7087 a-eramboken,
 ア エラムボケン
 我らは・憐れむ
 お気の毒に思い、
- 7088 eashka
 エアシカ
 本当に
 それこそ
- 7089 sonno tumsak
 ソンノ トウム サク
 本当に カ を欠く
 本当に力なく
- 7090 shinki-an kane
 シンキ アン カネ
 疲れる・我らは 状態で
 くだりとくずおれて、
- 7091 chish turanno
 チシ トウランノ
 泣く と一緒に
 泣きながら
- 7092 a-ekapba
 ア エカッバ
 我らは・会釈する-(複数形語尾)
 挨拶し合い、
- 7093 utashba bakno
 ウタッバ バクノ
 相互い ほどに
 かわるがわる
- 7094 ukeuhumsu-an wa
 ウケウフムス・アン ワ
 互いに 魔払いの行進をする・我らは して
 魔払いの声を発し合って
- 7095 an-eramushinne.
 アネラムシンネ(←アン エラムシンネ)
 我らは・それについて 安心する
 挨拶を済ました。

※1 keutum oshiwano《萱野茂訳》「心の芯から(教25-60)、腹の底から(教23-83)」

第7章 狐神の仕業

7-1 再びの出航

- 7096 Tap orowa sui
タッ オロワ スイ
それ から 再び
それからまた再び
- 7097 kayabashte-an wa
p.158 カヤバシテ アン ワ
頭 帆 を走らす・我らは して
帆をかかへて走って
- 7098 yap-an humi
ヤッ アン フミ
帰る・我らが その音
帰ってくる音
- 7099 an-ekisarshut
アネキサラシユトウ(←アン エ キサラ ストウ)
我らは・それでもって 耳 元
でわたしたちの耳元
- 7100 komaukururu kane.
コマウクルル カネ
に対して 気 がかすめる 状態だ
に風がうずまき起こっています。
- 7101 Ene hetapne kusu!
エネ ヘ タッネ クス
こう か これはまあ 敵に
あんなにもまあ
- 7102 orsetakko
オロ セタク コ
全く 短い間・(反対の意を添える接辞)
永い間
- 7103 an-eyaikeutum-
アネヤイ ケウトウム(←アン エヤイケウトウム)
我は・それで 自分の 心情
自分の気持ち
- 7104 shitnere,
シツネ レ
悩む させる
悩ませ、
- 7105 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上
- 7106 Pon a-kor yubi
ボン ア コロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 7107 chiwennoramu
チ ウェンノラム
~のこと 悪く思う
わたしを悪く思っ
- 7108 iyekarkar hawe,
イイエカカハ ウェ
我に・~をする その声
いることを、
- 7109 ouse itak
オウセ イタク
ただの 言葉
ただ言葉だけで
- 7110 newa ne yakka,
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
あったにしても、
- 7111 a-ekot anke
ア エコツ アンケ
我は ~で 死ぬ 今にもそうしようとする
わたしはそれだけでも死んでしまいそうに
- 7112 yainu-an kane,
ヤイヌ アン カネ
考える・我は 状態で
思っ、
- 7113 yainita-an
ヤイニタ アン
我慢する・我は
わたしは堪え忍び

- 7114 yairamshi-
ヤイラム シ
自身 心 おのれを
我慢に我慢を
- 7115 borore※1-an
ボロレ アン
大きくさせる・我は
重ねていた
- 7116 awa,sonno
アワ ソンノ
たところが 本当に
たところ、本当に
- 7117 kamui pirika
カムイ ビリカ
神の よい
神のよき
- 7118 renkaine
レンカイ ネ
意図(←挿入音+)として
お計らいによって、
- 7119 ene ene ne i
エネ エネ ネ イ
こう こう である こと
かくかくしかじかであったことの
- 7120 obitta ikkewe
オビッタ イクケウエ
皆 その原因
すべてのわけを
- 7121 arobittano
アロビッタノ(←アラ オビッタ ノ)
全く 全部、みんな+(副詞語尾)
すっかり全部
- 7122 Pon a-kor yubi
ボン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 7123 eraman okere i
エラマン オケレ イ
知る 終わる こと
理解したことを
- 7124 eashka
エアシカ
本当に
それこそ
- 7125 keutum otta
ケウトウム オッタ(←オロ タ)
心 の所で
心中
- 7126 shino
シノ
本当に
ほんとうに
- 7127 an-eramushinne
アネラムシンネ(←アン エラムシンネ)
我は・それについて 安心する
わたしはほっとしました。

※1 参考;「yai-shi-poro-re<自身・おのれを・大・させる>我慢をする、がんばる、耐える(金1-164); <自身でおのれを大きくする>堪え忍ぶ、我慢するの意(金1-174)」

※2 oitaksak「詫びる、あやまる一理屈にまける。」(久184)、kooitaksak《菅野茂訳》「申し訳がない」(教24-51)

7-2 解ける誤解

- 7128 Pon a-kor yubi hene
ボン アコロ ユビ ヘネ
小 我・が持つ その兄 でも
わたしの婚約者も
- 7129 a-matakipo hene
アマタキポ ヘネ
我・の妹・(義妹接尾辞) でも
わたしの義妹も
- 7130 tanebo konna
タネボ コンナ
今+(指小辞)(韻律を整えるために挿入する助辞)
たった今はじめて
- 7131 tapne kane
タッネ カネ
このような 状態で
このように
- 7132 inuba ita
イヌバ イタ
物を聞く+(複数形語尾) 時に
聞かされた時(?)
- 7133 eashka eashka
エアシカ エアシカ
それこそ 本当に
ほんとにほんとに
- 7134 keutum oshiwano
ケウトウム オシワノ
心 その中 から(?)
心から
- 7135 ramoshiwano
ラモシワノ(←ラム オシワノ)
心の中 から
心底
- 7136 iyokunurba ruwe
イヨクヌルバ(←イ オクヌル バ) ルウェ
我を 驚きあきれる+(複数語尾) その様
驚いたことが
- 7137 a-toikoeraman,
アトイコ エラマン
我は・激しくわかる
わたしはすっかり解り、
- 7138 shino i-erambokemba
シノ イエラムボケムバ
真に 我を 気の毒がる+(複数語尾)
ほんとうにわたしを可哀想に思っている
- 7139 ruwe hene
ルウェ ヘネ
その様 でも
ことも
- 7140 Pon a-kor yubi
ボン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 7141 katune kane
カトゥネ カネ
常態 である 状態で
ただふつに
- 7142 i-kooitaksak ※2
イコ オイタクサク
我に・対して 詫びる
お詫びして
- 7143 i-koyayababu
イコヤヤバブ(←イコ ヤイ アバブ)
我に 対して 自身を 悔いる
あやまる
- 7144 kuni p
クニ ッ
はずの もの
の
- 7145 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら

7146 kotomkorkaiki, p.159 コトム コエカ イキ 似つかわしい けれども+物事を いいのに、	7-3 悪しき狐神への思い	7179 ari ramma アリ ラムマ と いつも といつも
7147 shisembir beke シセムビリ ベカ 自分の 後ろ で、から 振り返って	7163 Konepkeukata ! コネヶウカカタ 〔韻律〕何 体 上〔感動〕 おおなんと、	7180 keutum otta ケウトウム オッタ(一オロタ) 心 の所 で 心の中で
7148 panno i-kurkashike ボンノ イクルカシケ 少し 我らの+身体の上 わずかにわたしたちの方	7164 konepkashita ! コネヶカシタ 〔韻律〕何 上〔感動〕 ああ情けない。	7181 a-eyaikoshiramse アエヤイコシラムセ 我は+それについて 自身に向かって 考える 考え、
7149 uwambare, ウウムバレ を觀察する 眺め、	7165 [-resuyubi イレス ユビ 我を+育てる その兄 育ての兄さまを	7182 a-ehumse kane アエフムセ カネ 我は+それについて フムという 状態で フムツという気合いの 声を出しながら
7150 orowa sui オロワ スイ それから また それから再び	7166 ene hetapne ! エネ ヘタッネ こう かこれはまあ なんてまあ	7183 a-eishish アエイシシ 我が+それについて 罵り憤る わたしはいきどおりを
7151 shisembirunwa※1 シセムビルンワ(←シセムビリ ウン ワ) 自分の 背後 に向くして	7167 orsetak オロセタク 全く短い間 ほんの短い間にしても(?)	7184 humiokai. フミオカイ humian感じていたの複数形 感じていました。
7152 shikirba ko, シキリバ コ 自分を回す(sikiru寝) と 振り向くと、	7168 a-ashishkar アアシシカラ 我は+罵る+(他動詞語尾) わたしがのしり	7185 Tap nahun bakno タップ ナフン バクノ この たった今 まで たった今の今まで
7153 somo nube sak ※2 ソモ ヌベ サク (否定の副詞、~ない) 涙 を欠く 涙を流さず泣いている	7169 a-ebokba a アエボクバ ア 我は+憎む した 憎んだり	7186 ki rokwa ※6 キ ロクワ する ために そうしていたのは(?)、
7154 kotomno コトムノ らしく ように	7170 a-ebokba yakka, アエボクバ ヤクカ 我は+憎む ても 恨んだりして	7187 neita bakno ネイタ バクノ どこ までも あくまでも(?)
7155 iramu-an. イラム・アン 思う+我は 思われました。	7171 keraanu ※3 ケラアヌ(←ケラ ア ヌ) 味 我がを聞く うつぶんを晴らした(?)	7188 wen chirannup ウェン チロンヌフ 悪い 狐 あの悪狐
7156 Nen ka nukar be ネン カ ヌカラ ベ 誰 も~しない 見た もの 誰も見たものがいなかったの	7172 humi ka isam. フミ カ イサム こと も ない ことかわからない(?)。	7189 toi chironnup トイ チロンヌフ 土の 狐 ひどい化け物狐が
7157 ne a yakne ネ ア ヤクネ であつた ならば なら	7173 Inan hembara ta イナン ヘムバラ タ どの いつ に いつどんな時でも	7190 kar be ki p カラ ベ キ ッ 作る 物 する こと したしわざ
7158 kotomkorkaiki, コトム コエカ イキ 似つかわしい けれども+物事を よかつたけれど、	7174 a-nukar ita アヌカラ イタ 我らが+を見る 時に わたしたちが逢つた時は	7191 nerok okai ネロク オカイ neaの複数形'その' ある であつた(?)
7159 aokai batek アオカイ バテク わたくし だけ わたしだけが	7175 ene ene エネ エネ こう こう こうこうしかじかと	7192 haweokai ※7 chiki, ハウエオカイ チキ 声ある なら ということだから
7160 panno a-nukar chiki, ボンノ アヌカラ チキ 少し 我が+を見る から ほんの少し見ただけだから、	7176 chiwenarkarki ※4 チウエン アラカラ キ ことを 悪い 全く~を作る ~をする(?) 罵つたり(誹謗したり?)	7193 eashka エアシカ 本当に ほんとうに
7161 boo hene eashka ボオ ヘネ エアシカ もつと でも 本当に なおいっそう	7177 chiwenokbare ※5 チウエン オクバレ ~こと 悪く 冷遇(虐待、親不孝)する 悲しませること(不埒なこと?)を	7194 [-resuyubi イレス ユビ 我を+育てる その兄 育ての兄さまを
7162 ramushinne-an. ラムシンネ(←ラム シリネ) アン 安心する(その心 大地になる)・我は わたしは安心しました。	7178 a-ki kuni アキ クニ 我はを する はず する	7195 orhetobo ※8 オロ ヘトボ 全く元へかえる すぐさま

※1 shisembirun 「おのがうしろへ」(金VI-68)、《萱野茂記》「へ向いて」(教I-13)、(教22-120) unwal = unma【格助詞】= un-wa<~に行く・~して>~へ。(un と wa が続けて発音された形) (研773)

※2 somo nupe sakno <否定形> 涙 なした、~せず<涙を流さずに泣く>…伝承者「平賀エテノア」は、涙を流さないで泣いているのだと説明した。…(要342)、《萱野茂記》「く違う 涙 ない」(教XVII-19)、涙を流し(教II-136、教25-92)、涙ながらに(教22-9、教24-57)…」

※3 keraanu 参考:kera-anui ka/isam kanel 満足できるか(脚注:kera-a-nu<美味、あじわい・われ・聞く・こと>/わからぬくらい(金III-478))

※4 chiwenarkarki 《萱野茂記》chi-wen-ar-kar-ki<私たち・悪い・全く・作る・する>私の方で(教23-89)、参考:uarakaraki「譏ル、罵ル」V.t. To speak evil of another. (B519)

※5 chiwenokbare「かなしませることを(脚注:okpare かなしませる、wen okpareといつても同じことで、wen「悪」はたゞ意味をつまめただけ(金II-131) かいる不埒を(研661) 人の恩を仇にして(研828)」

※6 rok-wa は a-wa に同じ、~たところ、~たればの意、rok は a の複数、詞曲語の atomte itak(美しくいふ詞) (研W290)

※7 haweoka 《概別方言》=《沙流方言》haweoka. hawe-anの複数形で尊敬語法になる。…(金I-98)、I hawe-an 言う(三人称)の複数形 hawe-orai、敬語の用(金I-98)

※8 orhetobo or-hetopo <全く元へかえる>とつてかえして、ひたばしりに戻る(金II-395)、T【副詞】とつて返して(語法)

7196 a-eramboken. p.160 ア エラムボケン 我は・憐れむ わたしはお可哀想に思いました。	7213 okai nankor'a !? オカイ ナンコラ(←ナンコロ ヤ) ある だろう か でしょうか。	7230 wen chironnup ウエン チロンヌフ 悪い 狐 あのくされ狐
7197 Nekona tapne ネコナ タッネ どのように こう どんなにかまあ	7214 Ene hetapne ! エネ ヘ タッネ こう か これはまあ あんなにもまあ	7231 toi be wem be トイ ベ ウエム(←ウエン) ベ 土 奴 悪い 者 墓土みたいに腐った奴が、
7198 ta bakita タ バキタ 今 ちょうど～のときに 今になって	7215 i-reshba イレシバ 我を 育てる 私の育児	7232 konep nanka ne p コネフ ナンカ ネ フ (調律)何の 顔 である 者 たいした顔
7199 yayokabashte ko, ヤヨカバシテ(←ヤイオカバシテ) コ 自身の 後 に走らせる と 後悔して、	7216 eshinki shiri で疲れる その様 に苦勞をしたの	7233 konep shirika ne p コネフ シリカ ネ フ (調律)何の 容貌 である 者 たいした容姿でもない
7200 shisak rametok シ サク ラメトク 滅多にいない 勇者 このたくいまれなる勇者は	7217 okai rok be, オカイ ロク ベ あつ たもの であったのに、	7234 ainu kasu アイヌ カス 男 を凌ぐ 並の男には負けぬ
7201 yayekatuwen ※1 ヤイエカトウウエン(←ヤイ エカトウ ウエン) 自らのことについて 恰好 悪い きまりが悪い	7218 arwen nitnekamui アヲウエン ニツネ カムイ 全く悪い 凶暴な 神 とんでもない人殺しの神の	7235 a-kor wa tapne アコロ ワ タッネ 我は・持つ して こう わたしに對してまあ(?)
7202 humiokai フミオカイ num an '感じる' 複数形 思いをしたこと	7219 wenrenkabi ウエン レンカビ 悪い 裁量、意志 決めごと	7236 chioshikote ne manu チオンコテ(←チ オシク コテ) ネ マヌ ～ことそこに目を結びつける である という 惚れるということ
7203 nankor'a ナンコラ(←ナンコロ ヤ) だろう か でしょうか。	7220 okai kusu オカイ クス ある 故に のせいで	7237 i-y-ekarkar イイエカラカラ(←イ エカラカラ) 我にそれをする をわたしにし、
7204 Kashikeun sui カシケウン スイ その上に(感動の強調) 再び おまけにまた	7221 inunukashki ! イヌヌカシキ 可哀想に お気の毒になあ !	7238 katuchiwente ※2 カトウチ ウエン テ その様を ～こと 悪くなら せる ざま悪くされた(?)
7205 tapne kane タッネ カネ このような 状態で このような	7222 ouse keutum otta オウセ ケウトウム オツタ(←オオ タ) ただ 心 の所で 心の中だけで	7239 newa ne yakka ※3 ネワ ネ ヤッカ であって である しても にも(?)
7206 wen nitnekamui ウエン ニツネ カムイ 悪い 凶悪な 神 人殺しの凶悪なニツネ カムイ	7223 iki a yakka, イキ ア ヤッカ それをした としても あつたにしても、	7240 semkatune ※4 p.161 セムカトウネ (否定辞)+平穩である ことかいて(?)
7207 renkaine レンカイネ 意図+(挿入音)-として のせい	7224 i-resuyubi イレス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄さま	7241 i-y-ekarkar イイエカラカラ(←イ エカラカラ) 我にそれをする わたしに對して(?)
7208 ne i katu ネ イ カトウ である こと の有様 であった事を	7225 kamui ne am be カムイ ネ アム(←アン) ベ 神 のように ある 者 神のようなお方を	7242 neita bakno ネイタ バクノ どこ までも あくまでも(?)
7209 nu wa ne chiki, ヌ ワ ネ チキ 聞く して である なら 聞いたのであるから、	7226 chiwenokbare チウエン オクバレ ～こと 悪く 冷遇(虐待、親不孝)する わたしがのした	7243 chihoiyore ※5 チホイヨレ 人(我ら、自身)に 災いをな させる ひどいことをした。
7210 nekon tapne ネコン タッネ どんなにか こう どんなにかこう	7227 a-ekarkar humi ア エカラカラ フミ 我が・～をする そのこと ことを	7244 Kamui hene カムイ ヘネ 神 でも 神でも
7211 boro oshserke ボロ オシセレケ 大きい はらわた・ちぎれる 大驚き	7228 sonno yayababu-an chiki, ソンノ ヤヤバブアン(ヤイアバブアン) チキ 本当に 自身 悔いる・我は したら 本当にわたしがあやまつたら、	7245 ainu hene アイヌ ヘネ 人間 でも 人でも
7212 ki ruwe キ ルウエ する 様 したこと	7229 oyoyobota ! オヨヨボタ まあ いまいます ああいままいい !	7246 ramukoiki ※6 shiri ラムコイキ シリ 心を虐める その様 気をもませ、

※1 yaikatuwen「侮辱を受けた(脚注: 恥ずかしく思う、はじいる)」「(金II-123)」「【自動詞】きまりがわるい、はずかしい、まがわるい」(田845)

※2 「katu chiwente iekarkar-an=ikatu-wende-an ざまわるくされた、浅ましいのありさま」(田922)

※3 ノート原文は「newa neyak-」で改ページになり次頁冒頭がSemkatu ne から始まっている。

※4 参照: chiraik neyakka/semkatune/iyekarkar「殺すにもことかいて/自らあてられない(脚注: katu-ne<平穩な>、sem-katu-ne異状な、不穩当な、並々ならぬ)/殺しかたをする」(金I-146)、rai neyakka/semkatune/aki noine「同じ死ぬるにも/尋常の死ならぬ死に方を(脚注: semkatu あらぬさま、まざんな死、惨死)/我等するよう…」(田694)

※5 ho-yo「わさわいをなす、害する、危うくする、=chi-ho-yo-re 人に災難を成す」(『日』姦淫スル.v.t.To commit adultery. … (金II-212)、(金II-254)」「【自動詞】<no-ito 尻を・もの・に入れる>(不道徳な話として)悪事をする」(田193)

※6 ramukoiki ram-koyki<心をしじる>「(『幌別』)気をもませる」(大615)、T<(～の)心・を襲う>～に気を揉ませる、～をなぶる」(田557)、《萱野茂 訳》ramukoiki hawe「いじわるを言う…」(教25-56)

7247 uresokkar ※1 ne ウレソッカカ(←ウレ エソカ) ネ (足首から先の)足 でもって 座 を作る になる 敷物のように	7264 ponno boka ボンノ ボカ 少し さしも ほんの少し	7281 yainu-an chiki, ヤイヌ アン チキ 考える・我は なら 思ったら、
7248 ureasam ne ウレ アサム ネ 足底 になす 足の裏で	7265 a-ehese kane. ア エヘセ カネ 我は・鬱憤が晴れる 状態だ わたしのうつぶんが晴れました。	7282 eashka yayashish- エアッカ ヤヤシシ(←ヤイ アシシ) 本当に 自身を 罵る ほんとうに
7249 a-otetterke yakka ア オテッテレケ ヤッカ 人が・踏みつける しても ギョウギョウ踏みつけられても	7266 Nitnekamui ニツネ カムイ 凶悪な 神 『ニツネ カムイ	7283 an kane. アン カネ 我は 状態だ 情けない。
7250 ponnoka ボンノ カ 少し も 少しも	7267 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であった にし ても も	
7251 a-ehese ※2 ア エヘセ 我は・鬱憤が晴れる わたしがいいいきみだと思ふ	7268 ainu moshiri アイヌ モシリ 人間 の世界 人間界	
7252 humi ka isam. フミ カ イサム こと も ない わけでもない(?)。	7269 ekotankor ※5 be エ コタン コロ ベ そこに 村 を持つ 者 に住んでいるもの	
7253 Hemanta ye p ヘマンタ イェ プ 何 言う もの 何か言う者が	7270 ne yakun, ネ ヤクン である ならば ならば、	
7254 ene ainu ari エネ アイヌ アリ こう 人間 と この人間と	7271 pirika buri ピリカ ブリ よい 行い 立派な風習	
7255 yainu kusu, ヤイヌ クス 考える 故に 思ったのに(?)、	7272 kor wa ne yakne コロ ワ ネ ヤクネ 持つ して である ならば を持っているのであれば、	
7256 eneokai ※3 エネ オカイ このようにある あれほど	7273 nitne inau boka ニツネ イナウ ボカ ニツネ 木幣 でも せめてニツネカムイのイナウや	
7257 ashtoma wemburi アシトマ ウェムブリ(←ウエン ブリ) 恐ろしい 激しい 感情 ひどく怒る	7274 sat shirari ※6 boka サツ シラリ ボカ 乾いた 濁酒を濾したあとの糟 でも 乾いた酒粕なりとも	
7258 ki shiri okai ! キ シリ オカイ する その様 ある なんてまあ。	7275 a-kochari wa アコチャリ ワ 我ら・と共に 散らす して わたしたちと一緒にまき散らして供養する	
7259 Orowa chobarata ! オロワ チョバラタ それから ざまあ見る(強意) その上いい気味だわ、	7276 ne yakne ネ ヤクネ である ならば のであるならば	
7260 wem boknashiri ※4 ウエム(←ウエン) ボクナシリ 悪い 下の万の 世界 恐ろしいよみの国	7277 ponnoka ボンノ カ 少し も 少しは(少なくとも?)	
7261 toi boknashiri トイ ボクナシリ 土の 下の方の 世界 ひどいあの世	7278 eyaikamuinere ※7 エヤイカムイネレ それで 自分を 神 にならせる 自分の誇りにできる	
7262 a-eahunke ア・エ アフンケ 人々(?)が・に 入れさせる に 追いやられた	7279 noine okai be ノイネ オカイ ベ らしく ある もの ようなのに	
7263 haweokai chiki, ハウエオカイ チキ 声ある なら ということだから、	7280 ne kush ! ⁷ ari ネ クス アリ である 故に と なあ」と	

※1 uresokkar ne|ure <足> の次にもう一つ e- <でもって> が来るのが、ure の e と一つになった)-sokkar <床に敷く長い蓆> (次に ne が来るから発音では sokker となるが、

筆者は語源意識で r に書いたもの) ne <…に> …敷物にして足で踏む。(金 I-325)

※2 ehese「うつぶんが晴れる」(語法)、「安心するもの」(金 II-191)、「(脚注:e-ehese <それについて> 息づく) いいあんばいだ!、よじよと云う。(金 IV-92)」

※3 enean の複数形。

※4 原綴り wemknashiri |pok-na-sir <下・方・地> 下界の國、即ち地獄。(研763)、「<下方の・地> あの世界。一人間は死後 pokna-sir に行き、悪人はさらに teyne-pokna-sir <どろどろした・下方の・世界>へ追いやられる」と(金97)

※5 ekotankor「そこに居住するもの(脚注:e-kotan-kor <そこ・村を・持つ> 居住する、住んでいる)。(金 II-362[金田一筆録、日高・沙流、鍋沢ワカバ妻タウクノ所伝カムイオイナ])、「[他動詞] <(そこ)で・村を・持つ> ~の村おさである、~を治める」(田93)

※6 sat shirari poka「乾いた酒糟なりとも(脚注:珍味となつてはいるが、やはり控え目な謙辞)」(金 I-231)

※7 eyaikamuinere「仕合わせである、e-yay-kamuy-nerere <それで・自身を・神にならす> それで喜ぶなる。それが自分の光榮とするところだといふようなことアイヌ表現」(金 I-176)、「尊くなる。自身のほこりにする」(金 III-94)「それによって神格を高める」(本日優子、道立アイヌ民族文化研究センター「研究紀要」

第8章 ようやくの帰着

8-1 住まいへの帰着と休養

- 7284 Kamui ewaki
カムイ エワキ
神 の住居
神域に
- 7285 a-koshireba
アコシレバ(←シリ エバ)
我らは・に着く
われらは到着し、
- 7286 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 のように ある 者
神のような方々は
- 7287 soina wano shino
ソイナ ワノ シノ
外の方 から 本当に
外からほんとうに
- 7288 onibakba kane
オリバクバ カネ
p.162 へりくだる(複数形語尾) 状態で
慎重深く
- 7289 ainu ewak ushike
アイヌ エワク ウシケ
人間 が住む 場所
人間の住居が
- 7290 mashkino pirika
マシキノ ピリカ
あまりに 美しい
あまりにも美しく
- 7291 atomte ruwe
アトム テ ルウェ
人が・光らせる その様
飾られていることに
- 7292 eashka erayapba
エアスカ エラヤッパ
本当に 感嘆する(複数形語尾)
本当に感嘆した
- 7293 kotomno,
コトムノ
らしい
らしく、
- 7294 okkeuka wa
オクケウカ ワ
頭骨上 から
首から上が
- 7295 chininarbare
チニナラバレ(←チ ニン アラバレ)
自身を 消え 行かせる
消えたみたいにがっくり頭を垂れ
- 7296 kane okai.
カネ オカイ
状態で いる
ていらっしやいます。
- 7297 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 7298 abeare-an.
アベアレ・アン
火 を座るさせる 我は
わたしは炉の火を燃やしました。
- 7299 Tumsak-an shiri
トウム サクアン シリ
カ を欠く・我は その様子
力の弱いわたしが
- 7300 a-matakipo
アマタキポ
我・の妹(親称接尾辞)
わたしの義妹を
- 7301 a-kasui wa
アカスイ ワ
我が・を手伝い して
手伝って
- 7302 pirikano
ピリカノ
よく
心をこめて
- 7303 shuke-an wa
シュケ(←スケ) アン ワ
炊事する・我らは して
炊きあげて、
- 7304 rupne sonabi
ルツネ ソナビ
大きい 高盛椀
山盛りの高盛飯を
- 7305 a-ukobumba.
アウコブムバ
我らは・共に puni '持ち上げる' 複数形
一同は持ちあげまし。
- 7306 lberusui-an
イベ ルスイアン
ものを食べるしたい・我らは
わたしたちは空腹で
- 7307 uwesamanno
ウエサマンノ(←ウ エ サム アンノ)
お互い それについて そばに 在る(副詞語尾)
皆揃って
- 7308 kiba p ne kusu,
キバ ヲ ネ クス
する+(複数形語尾) もの である 故に
お腹が空いていたものだから、
- 7309 boronno boronno
ポロンノ ポロンノ
たくさん たくさん
さんざん
- 7310 ibe-an a
イベアン ア
食べる・我らは した
食べに
- 7311 ibe-an.
イベアン
食べる・我らは
食べ続けました。
- 7312 Keshto shini-an.
ケスト シニアン
毎日 休む・我らは
わたしたちは毎日休養し、
- 7313 Pon a-kor yubi
ボン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 7314 nishpa eneusar
ニシパ エネウサラ
旦那 と一緒に 談笑する
一家の主人と談笑し
- 7315 kamui eneusar
カムイ エネウサラ
神 と共に 談笑する
神と談笑
- 7316 ki rusui kuni p
キ ルスイ クニ ヲ
する を欲する はずの もの
したい
- 7317 konep ne kusu,
コネッ ネ クス
(調律、強調) であるもの である 故に
ものだから、
- 7318 oshisounwa
オシソウンワ
その尻が右座 に向くして
右座の方の
- 7319 abeteksamne
アベ テッサムネ
火 すぐ傍 になる
炉端に
- 7320 ehorarba kane,
エホララバ カネ
そこに 尻を押さえる(horari複) 状態で
座って、
- 7321 uturkehe
ウトウルケヘ
その下座の所
その下座の入口側に
- 7322 a-matakipo
アマタキポ
我・の妹(親称接尾辞)
わたしの義妹が
- 7323 ehorarba.
エホララバ
そこに 尻を押さえる(horari複)
座りました。
- 7324 Kamui okkaipo
カムイ オッカイポ
神 男(指小辞)
神の若者が
- 7325 hokaetok※1 ne
ホカエトクネ
炉 先、前 になる
横座に
- 7326 ehorarba.
エホララバ
そこに 尻を押さえる(horari複)
座り、
- 7327 oharkisone ※2
オハルキソネ
その尻が 左の 座 になる
左座に
- 7328 kamui pon katkemat
カムイ ボン カツケマツ
神 若い 淑女
神の若い淑女が
- 7329 ehorarba,
エホララバ
そこに 尻を押さえる(horari複)
座り、
- 7330 uturkene
ウトウルケネ
その下座の所 になる
その下座に
- 7331 an-ehorari.
アネホラリ(←アン エホラリ)
我が・そこに 尻を押さえる
わたしが座りました。
- 7332 Okkai utar
オッカイ ウタラ
男 たち
男性たちは
- 7333 keshto usa orushbe
ケスト ウサ オルシベ
毎日 色々な話
毎日様々な事柄を
- 7334 eukoitak ※3
エウコイタク
それについて 相共に 話す
話し合い、
- 7335 pon menoko
ボム(←ボン) メノコ
若い 女
若い女性は
- 7336 ineapkus
p.163 イネアックス
どうしたもの 故に
なんとまあ

※1 hokaetok 爐のさきの座へ(脚注:いはゆる横座で、第二等の上座)(研059)

※2 oharkisone 「【副詞】左座から」(語法)、「【名詞】左座から」(語法)、「【名詞】o-harki-so<その尻・左の・座>左座、家の中の上座から見て左側の座、つまり入口(西側)から入って右側(中心にある炉の南側)の座」(田455)

※3 eukoitak 「互に云ひ合ふ」(研W549)

7337 keutum pirika ※1 ケウトウム ピリカ 精神の 美しい 心根が立派な	8-2 暮らしの中で	7356 i-kotcha イ コツチャ 我の・前 彼女はわたしのそば
7338 chinuchaktekka ※2 チヌチャクテッカ こと 朗らかになる させる 明るく楽しくなることを	7340 Irukai ne ko ※3 イルカイ ネ コ 暫時 である と しばらくたつと	7357 ehobuni i-kasui. エ ホブニ イカスイ そこに 起ち上がる 我を・手伝う に来てわたしを手伝います。
7339 ikichi nankor'a! イキチ ナンコラ(←ナンコロ ヤ) それをする+複数語尾: だろう か なされたことが。	7341 shino tun a-ne wa シノ トウン アネ ワ 真の 二人 我ら・である して 本当にわたしたち二人とも	7358 Tane anakne タネ アナクネ 今 は もう今は
	7342 chikateomare チカテオマレ(←チカッ エ オマレ) ~こと姿 そこに入れる お互いに好きになり	7359 utashba bakno ※7 ウ タシバ バクノ 互い tása' と交換する' 複数形 ほどに お互いに
	7343 chioshiknuka ※4 チオシクヌカ 彼女はわたしを慕って	7360 shino uweramush- シノ ウエラムシ(←ウ エラムウシ) すっかり慣れ親しみ
	7344 i-yekarkar イエカラカラ(←イ エカラカラ) 我にそれをする くれて、	7361 amba, sonno アムバ ソンノ を持つ 本当に 合い(?)ほんどうの
	7345 chiminakokur ※5- チミナコクル ~こと 笑いと共に+(助辞) いつもニコニコ笑みを	7362 uirwak ※8 neino ウ イリワキ ネイノ(←ネノ) 互い 兄弟姉妹 そのように 姉妹のように
	7346 suiba kane. スイバ カネ を揺らす(suye 複) 状態で 浮かべていました。	7363 yainu-an kane. ヤイヌアン カネ 考える・我は 状態である 思っていました。
	7347 Aokai utar アオカイ ウタ 我 たち わたしたち	7364 Neino sui ネイノ(←ネノ) スイ そのように また 同じようにまた
	7348 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であった にしても も	7365 Pon a-kor yubi ポン アコ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者
	7349 sonno ramoshiwano ソンノ ラモシワノ(←ラム オシ ワノ) 本当に 心の中から 心底	7366 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であった にしても も
	7350 keutum oshiwano ケウトウム オシワノ 心 その中から 心から	7367 kamui okkaipo カムイ オクカイ ポ 神 男(指小辞) 神の若者
	7351 pom menoko ポム(←ボン) メノコ 若い 女 若い女性を	7368 shino omap, シノ オマフ 真に 可愛がる を本当に可愛がり、
	7352 a-esambehauke ※6 アエ サムベ ハウケ 我らは・それで 心 穏やかだ 心やさしく	7369 utashba sonno ウタシバ ソンノ 相互い 本当に お互いに本当に
	7353 a-kateomare アカテオマレ(←ア カッ エ オマレ) 我ら姿 そこに入れる お互いに好きになり	7370 uwekatarotke ※9 katu ウエカタロツケ カトウ 互いと仲がよい その容子 親密なことが
	7354 a-omap. ア オマフ 我は・を可愛がる 彼女を可愛がりました。	7371 a-noeraman. アノ エラマン 我は・よくわかる よくわかりました。
	7355 Nep ka a-kar ko ネフ カ アカラ コ 何 か 我が・作ると 何かわたしがすると	7372 Sonno shineikinne ソンノ シネイキンネ(←シネ イキリネ) 本当に 一列に ほんどうにすっかり

※1 keutum pirika 《萱野茂訳》「精神がいい」(教ⅩⅧ-152)

※2 nuchaktek | nu-cak-tek <顔・(晴れることを表す語根)・ちょっと~する> 心が明るく楽しい(楽しくなる)、ほがらかである(になる) (田438)、
《萱野茂訳》「朗らかに」(教23-31)

※3 irukai ne ko | たちまちに(脚注: iruka ne ko <暫時 である(≡しばらくたつ)と>) (金 I-112)、「≡ponno s'ran tek ko《惺別》間もなく」(田246-3)

※4 chi-oshiknuka/e-iekarkar わたしを慕ってくれる(原綴りにはe- が落ちている)愛することを・汝が・われに・した> (金 I-181)

※5 原綴 chimnako kur

※6 sampe-hauke | <心臓、きも・弱し> 精丹まわし、精丹ふかい。… (研W482)、chiesambehauke | 心やさしく(脚注: がわゆくてしようがなかつた) (金Ⅲ316)

※7 utashba bakno | = utaspa... (田794)

※8 uirwak | <互い・兄弟姉妹> 《惺別》①兄弟②姉妹 (人500)、uirwak ne wa, | 二人けうだいであり、 (研692)

※9 原綴 uwekaterot のみ。

7373 ramushinne- ラムシンネ(←ラム シリネ) 安心する(その心 大地になる) わたしは安心	8-3 宴の準備	7392 tanebo boka タネ ボ ボカ 今+(指小辞) せめて~でも ただ今せめてこの時だけでも
7374 an kane. アン カネ 我は 状態だ しました。	7375 Shineantota シネ アントタ 一つ ある 日に とある日のこと	7393 ratchi unukar※4 ラッチ ウヌカラ 静かな 会見 落ち着いた会見
	7376 Pon a-kor yubi ポン アコロ ユビ 小 我が持つ その兄 わたしの婚約者が	7394 pirika unukar a-ki, ピリカ ウヌカラ アキ よい 会見 我らは・をする よい会見をし、
	7377 ene itaki; エネ イタキ(←イタッ イ) こう 言う こと こう言いました。	7395 boronno kamui ボロンノ カムイ たくさん 神 多くの神
	7378 "Koninkar kusu! コニンカラクス(←コン インカラ クス) 早く! 見る+(感嘆の助詞)	7396 koyairaike a-ki, コヤイライケ アキ に感謝 我らは・をする 感謝し、
	7379 a-turesh utari! アトウレシ ウタラ 我が・妹 たち わが妹たちよ。	7397 kamui orbakno カムイ オロバクノ 神 内にまで 神うちにまで
	7380 harukesh boka p.164 ハルケシ ボカ 糶末、端でも 蓄えの余りでも	7398 kanto orbakno カント オロバクノ 天 内、所にまで 天の神うちまで
	7381 okai chiki, オカイ チキ ある ならば あるならば	7399 kamuinomi a-ki カムイノミ アキ 神 をまつる 我らは・をする カムイノミをし
	7382 rapte wa ラプテ ワ 降ろすして 倉から出して	7400 kush ne na." ari クス ネ ナアリ つもりである ぞと ようぞ!と
	7383 sake shuiba yan! サケ シュイバ ヤン 酒を揺らす(suye複数形) なさい 酒を醸してくれたまえ。	7401 hawash chiki, ハワシ チキ 言う から おっしゃったから、
	7384 Tanebo boka タネ ボ ボカ 今+(指小辞) せめて~でも せめて今この時でも	7402 ineapkusu イネ アックス どうしたもの 故に なんとまあ
	7385 shiroma※1 tonoto シロマ(←シリ オマ) トノト 地 入る 酒 本式の酒を	7403 a-enubetne wa アエヌベツネ ワ 我は それについて 喜ぶ して わたしは喜んだ
	7386 a-shikupka※2 wa アシクッパ ワ 我らが・成長させる して われらが醸して	7404 humash nankor'a! フマシ(←フム アシ) ナンコラ(←ナンコロヤ) 氣がする だろう か ことでしょうか。
	7387 a-utari utar アウタリ ウタラ わが・同族 たち わが親戚身内たち、	7405 A-matakipo tura アマタキポ トウラ 我の妹(親称接尾辞) と一緒に わたしの義妹と
	7388 tuima okaiike※3 トウイマ オカイイケ 遠く いる の 遠くに住んでいる者	7406 utomohosarba-an, ウトモホサラバアン 互いの方をふり向く(nosari複数形)・我らは 顔を見合わせ、
	7389 hene hankeno ヘネ ハンケノ でも 近くに も近くに	7407 a-sanchaka ta アサンチャカ タ 我らは・出る 口 の上 で にっこり
	7390 okaiike hene オカイイケ ヘネ いる の でも 住んでいる者も	7408 mina kane ミナ カネ 笑う 状態で 笑って
	7391 a-uwekarbare, アウエカラバレ 我らが・相共に そこ kar 'まわる' 複数形 させる 呼び集め、	7409 itak etoko イタク エトコ 言葉 の先 兄上が言い終わらないうちに、

※1 shiroma tonoto「本式の酒」(金I-113)、a-kooshiroma《萱野茂訳》「そこへ落ちつき(分解訳: a-ko-oshiroma<私・そこ・落ちつき>)」(教IV-103)

※2 shukupka=shikupka 成長さず、育てる。酒を二三日かりて飲むやうにまでする間の手数をすることをさう云ふ。酒も亦神なる故、丁寧にさういふと、醸す意。(研652)

※3 hike は ike とも聞こゆ。名詞法語尾。…「大きい」を poro-ike、「小さい」を pon-ike、「よい」を pirka-ike、「悪い」を wen-ikeなど。(研w373)(研661)。(金I-248)

※4 pirika unukara/ratchi unukara《萱野茂訳》「ゆっくり/静かに…」(教24-101)

<p>7410 an-ehobumba, アネホブムバ(←アン エ ホブムバ) 我らは・そこで 尻を持ち上げる 立ち上がり、</p> <p>7411 ※1arutap kurka アルタブ(←アラ ウタブ) 全く 両肩 肩と肩とを</p> <p>7412 a-rarba kane アラバ カネ 我らは・押す 状態で 押し合って</p> <p>7413 soiwasmwa※2 ソイワ サムワ 外の側へ 外へ</p> <p>7414 a-oshiraiba, アオシライバ 我らは・そこに 自分・raye 'をやる' 複数形 出て行き、</p> <p>7415 bu aba a-bitatba※3 ブ アバ アビタツバ 倉 戸 我らは・開く 倉の戸をバツと開き、</p> <p>7416 iwan kutomap イワン クトマゴ(←クツオマゴ) 六 帯ついているもの 六重の縄がかかっている大かますを</p> <p>7417 a-euikare※4 アエブイカレ 我らは・そこで 倉を越えさせる 倉から出しました。</p> <p>7418 A-matakipo アマタキポ 我・の妹(義姉妹尾詳) わたしの義妹は</p> <p>7419 soyun yakura ソユン(←ソイ ウン) ヤクラ 外にある 樽 外のやぐら</p> <p>7420 yakura kurka ヤクラ クルカ 樽の上 その樽の上</p> <p>7421 chieashi, チエ アシ 自身をそこに立てる に立ち、</p> <p>7422 kotamba unwa コタムバ(←コタン バ) ウンワ 村 上端 に向くして 村のかみ端から</p> <p>7423 kotankesh unwa コタンケシ ウンワ 村 下端 に向くして 村のしもはずれへ</p> <p>7424 chihosarire, チホサリレ 自身を 振り向くさせる うち向かい、</p> <p>7425 hauke hotuye ハウケ ホトウイェ 弱い 叫び 近くには低く呼んだり</p> <p>7426 rui hotuye ルイ ホトウイェ 強い 叫び 遠くには高く呼んだり大小様々の叫び声を</p>	<p>7427 uturare. ウトウラレ 互いに 伴わせる 交互に続けました。</p> <p>7428 Tapne kane タツネ カネ このような 状態で このように</p> <p>7429 nei※5 ehotuiba ネイ エ ホトウイバ その それについて hotuye '叫ぶ' 複数形 そこで叫んで(?)</p> <p>7430 ainu kusu※6 アイヌ クス 人間 故に 人間だからといって</p> <p>7431 nishpa kusu ニシパ クス 旦那様 とて 一家の主だからといって</p> <p>7432 uitaknu wa ウイタクヌ ワ 互い 言うことよく聴くして こんなにも早く言うことを聞く</p> <p>7433 shiriki nakor'a !? シリキ ナンコラ(←ナンコロ ヤ) その様をする だろう か ものでしょうか。</p> <p>7434 Okkayo moyono オッカヨ モヨノ 男 少人数 とても 男性たち数人</p> <p>7435 menoko moyono メノコ モヨノ 女 少人数 とても 女性たち数人が</p> <p>7436 shiaworaiba. シアウオライバ(←siaworaye複) 自身内 に 遣る 屋内に入って来ました。</p> <p>7437 Orowano オロワノ それから それから</p> <p>7438 wakka ta p ワッカ タ プ 水 を汲む 者 水汲む者は</p> <p>7439 wakka ta kane, ワッカ タ カネ 水 を汲む 状態で 水を汲み、</p> <p>7440 nina kuni p nina ニナ クニ ヲ ニナ 薪とりする べき 者 薪とりする 薪をつくる者は薪を切り、</p> <p>7441 iyuta kuni p iyuta, イユタ クニ ヲ イユタ 臼でつく べき 者 精白をする 臼で精白する者は臼をつき、</p> <p>7442 shuke kuni p シュケ クニ ヲ 煮炊きする べき 者 煮炊きする者は</p> <p>7443 shuke kane. シュケ カネ 煮炊きする 状態で 炊飯しました。</p>	<p>7444 Utar kotchake ウタラ コツチャケ 人々 の前 村人たちの前</p> <p>7445 a-ehobumba アエ ホブムバ 我らは・そこで 尻を持ち上げる に立って</p> <p>7446 ikasui-an, イカスイアン 手伝い・我は わたしは手伝い、</p> <p>7447 irukai ne ko イルカイネ コ 暫時 であると しばらくすると</p> <p>7448 iwanshintoko イワン シントコ 六 行器 六つの行器が</p> <p>7449 ror a-oraiiba, ロロ アオライバ 横座 人々は・へへをやる 横座へ据えられました。</p> <p>7450 Tutko shiran ko, トゥツコ シラン コ 二日 その様にある と 二日ほどたつと、</p> <p>7451 kamui erusuibe※7 カムイ エ ルスイ ベ 神が 食べる を欲する もの 神が食べたいもの</p> <p>7452 ku rusui be ク ルスイ ベ 飲む を欲する もの 飲みたいもの</p> <p>7453 kone p ne kusu, コネ ヲ ネ クス (調律、強読)である もの である 故に ですから、</p> <p>7454 pirika tonoto ピリカ トノト よい 酒 うま酒の</p> <p>7455 kamui pirika カムイ ピリカ 神の よい おいしいそうな</p> <p>7456 hura mawe フラ マウエ 匂い その気 香りの気が</p> <p>7457 chise upsoroho チセ ウソロホ 家 その懐 家の中いっぱい</p> <p>7458 eetushnatki. エ エトウシナツキ そこにそれが あふれる 満ちあふれました。</p> <p>7459 Sui moyotek※8 nishpa スイ モヨ テク ニシパ 再び 少数の ちよつと 一家の主 ふたたび、選りぬかれた一家の主人や</p> <p>7460 moyotek katkemat utar モヨ テク カツケマツ ウタラ 少数の ちよつと 淑女 たち よりぬきの婦人たちが</p>
--	---	---

※1 autap-kurka-/rari kane. 「肩と肩とを/押しならべ。」(研855)

※2 soiwasmwa/aoshiraipa 「戸外へ出でて(脚注: soiwasmwa soiwasmwa soiwasmwa とも、これと sciwa sar wa <外に・下りて>と混じた形か。恐らく soiwasmwa は soye-wa-san-wa <出る・て・下りる・て>か)。(金 I 75~6) soye-wa-san-wa <出る・て・下りる・て>か) / わたしたちが下り立って(脚注: shi-raipa <自分・raye 'やる'の複数> 自分をやる、行くの意)。(金 I 75~6)、soiwasmwa/anoshiraye 「屋外へ(脚注: soiwasmwa <屋外、そと庭> = soiwasmkur / わたしは出た。)(金 I 331)

※3 pitatpa 「pitapita の複数形」(巻末)

※4 「pu-ikare <倉・おとす> という動詞、…倉より取り出して」(研WS38)

※5 ne 「その。一音節語は多少長目に発音されるのを英語流に重母音化して nei と筆録されたのは B 師流。」(金 II-229)

※6 ainu kusu/uitaknu ya 「よも人間なりとて/かばかり疾く言葉を聞かむや」(研633)

※7 kamui erusuibe 「kamui e-rusuibe <神の・食べたいもの> 神の好みたもうものすなわち酒」(金 I-356)

※8 moyotek 「少しばかり、少数の。いう心は、精選した…を少数での意」(金 I-77)

- 7461 uwekarba
ウウエカラバ
相共に そこ kar' まわる' 複数形
集まり出てきて、
- 7462 inauni tuiba p※1
木幣 木 tuye' 切る' 複数形 者
イナウ(木幣)にする木を伐る者は
イナウ(木幣)にする木を伐る者は
- 7463 inauni tuiba,
イナウ ニ トウイバ
木幣 木 tuye' 切る' 複数形
その木を伐り、
- 7464 inumba kuni p
イヌムバ クニ ッ
物をしぼる、滲す べき 者
酒をこす者は
- 7465 ukoichari-
ウコイチヤリ
相共にざるを
一緒に策を
- 7466 bashte kane.
バシテ カネ
走らせる 状態だ
揺り動かしています。
- 7467 Rorunso ka ta
ロルンソ(←ロウンソ) カ タ
上座の座 上で
東窓といろりの間の上座では
- 7468 inauke kuni p
イナウケ クニ ッ
幣 削る べき 者
イナウをかき削る者は
- 7469 nauke.
イナウケ
幣 削る
木幣を削りました。

8-4 オタサムびとの手捌き

- 7470 Pon a-kor yubi
p.168 ボン ア コロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者も
- 7471 chirikibumba※2
チリキ ブムバ
自身を上高く上げる
起ち上がって
- 7472 iyeutanne,
イイエウタンネ(←イエウタラネ)
人と一緒に仲間になる
仲間に入り
- 7473 inauke.
イナウケ
幣 削る
木幣を削りました。
- 7474 Kei inau
ケイ イナウ
(?) 木幣
(その削られた?)イナウは
- 7475 iyainumare!
イヤイヌマレ
我に自ら起き上がらせる
まあ驚いた!
- 7476 tu kamuinish ne
トゥ カムイニシ ネ
二つの 神空 になる
たくさんの神雲となり
- 7477 re kamuinish ne
レ カムイニシ ネ
三つの 神空 になる
数々の神雲となって
- 7478 yayebumba,
ヤイエブムバ(←ヤイエブンバ)
自身の頭 puni' あげる' 複数形
たち昇り、
- 7479 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上一帯に
- 7480 retar urar
レタラ ウララ
白い 霧
白いもやが
- 7481 chikonoiba kane.
チコノイバ カネ
自身を共に noye' ねじる' の複数形 状態だ
たなびきました。
- 7482 Inne utar
インネ ウタラ
大勢の人々
一座のひとびとは
- 7483 shietuuina
シエトウウイナ
自分の鼻をつかむ
自分の鼻をつかみ
- 7484 shibaraina kane,
シバラウイナ カネ、
自分の口をつかむ 状態で
口をおさえて驚きながら、
- 7485 shine itak
シネ イタク
一つの言葉
異口
- 7486 eubaemkouina
エウバエムコ ウイナ
それを互いに 半分 奪う
同音に
- 7487 "Sonno hetapne!
ソンノ ヘタッネ
本当 かこれはまあ
『本当にまあ!』

- 7488 uneno kane
ウネノ カネ
互いに似る 状態で
同じように
- 7489 tekush ainu
テクシ(←テクウシ) アイヌ
手が付く 人間
手が付いている
- 7490 a-ne rokwa,
アネ ロクワ
我らである ために
われらなのに、
- 7491 a-hekote kamui
アヘコテ カムイ
我らが仕える 神
われらが仕える神
- 7492 a-hekote utarpa
アヘコテ ウタラバ
我らが仕える 仲間 頭
われらが仕える族長の
- 7493 shimoiba ruwe,
シモイバ ルウエ
simoye' 奮闘する' 複数形 その様
何という働きぶり、
- 7494 inauke
イナウケ
幣 削る
イナウ削りの
- 7495 eashkai ruwe
エアシカイ ルウエ
に関して上手な その様子
何と見事なこと
- 7496 okai be ne ya!?"
オカイベネ ヤ
ある 事 である のか
あるか』
- 7497 arinokane
アリノカネ
と(副詞語尾?)よく(?) 状態で(?)
というような
- 7498 ukooshserke hawe
ウコオシセレケ ハウエ
相共に はらわた ちぎれる その声
たまげた声を
- 7499 chiutasare,
チウタサレ
られる 交叉させる
あげ合います。
- 7500 Pon a-kor yubi
ボン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者の
- 7501 emina hawe
エミナ ハウエ
それについて 笑う その声
笑い声がひときわ
- 7502 tununitara※3
トゥヌニタラ(←トウヌンイタラ)
金属音 続く
高く響き渡り、
- 7503 inauke sash hum
イナウケ サシ フム
幣 削る 摩擦する 音
幣をかき削るシュツシュツという音と
- 7504 inumba sash hum
イヌムバ サシ フム
物を絞る 摩擦する 音
酒をこすザツザツという音が
- 7505 uwobuk humi
ウウオブク(←ウオブク) フミ
互いにそこから おこる その音
入り交じって聞こえるその音が
- 7506 oroneambe
オロネアムベ(←オロネアンベ)
全く(強め辞)
おびただしく
※3原綴 tuni tara

※1 原綴りに p 欠。

※2 chirikiombal chiriki-pumpa<(自動また状態にする接辞)・上・puni' あげる' の複数形、高くあげる>起ちあがる。(研W336)

- 7507 kosashnatara,
コ サシ ナタラ
共に サツサツという音 ~し続ける
ざわめきわたって、
- 7508 anramasu
アンラマス(←アララマス)
全く心を魅了する
まったく面白く
- 7509 a-uwesuibā kane.
ア ウエスイバ カネ
我は・互いにそれで suye '探らす' 複数形 状態だ
心楽しく感じました。
- 7510 Hushko inau
フシコ イナウ
古い 木幣
古いイナウは
- 7511 soi a-oraiba※1
ソイ ア オライバ
外 人々は・oraye '～を～へ寄せる' 複数形
端の方へ寄せられ、
- 7512 arashiri inau
アラシリ(←アラアシリ) イナウ
全く新しい 木幣
まっさらのイナウが
- 7513 chise a-etomtekar.
チセ ア エトムテカラ
p.167 家 人々は・それで・光らせる+(他動詞語尾)
家の中に美しく飾られました。
- 7514 Tane eashiri
タネ エアシリ
今 初めて
今こそ本当に
- 7515 chise upsoroho
チセ ウッソロホ
家 その懐
家の中いっばいに
- 7516 retar urar
レタラ ウララ
白い 霧
白いもやが
- 7517 eestushnatki,
エ エトウシナツキ
そこが それであふれる
みちあふれ、
- 7518 iku an kuni korachi※2
イク アン クニ コラチ
酒宴 ある べく そのように
酒宴の準備を
- 7519 etoko a-oiki okere.
エトコ ア オイキ オケレ
その先に人々が・物事をする 終える
し終えました。

8-5 カムイノミの口上

- 7520 Kamui okkaipo newa
カムイ オッカイポ ネワ
神 男(指小辞) と
神の若者と
- 7521 kamui pon katkemat
カムイ ボン カツケマツ
神 若い 淑女
神の若い淑女は
- 7522 tanebo konna
タネ ボ コンナ
今+(指小辞) こそ
今こそはじめて
- 7523 ainu buri
アイヌ ブリ
アイヌ 作法
アイヌのしきたりを
- 7524 nukarba p
ヌカラバ フ
を見る+(複数語尾) もの
見たもの
- 7525 konep ne kusu
コネッ ネ クス
(調律・強調)であるもの である 故に
だから、
- 7526 eashka katune kane
エアシカ カトウ ネ カネ
本当に 常態 である 状態で
それこそただ普通に
- 7527 erayapba p
エラヤッパ フ
感嘆する+(複数形語尾) もの
感嘆されたもの
- 7528 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 7529 kotomkorkaiki,
コトム コロカ イキ
似つかわしい けれども+物事 をする
いいのに、
- 7530 shino rayap
シノ ラヤッ
本当に 感嘆する
本当に感嘆された
- 7531 noine okai wa,
ノイネ オカイ ワ
らしく ある して
ご様子でいて
- 7532 Iyoro※3 inkar kane.
イヨロ インカラ カネ
(?) 眺める 状態だ
ご覧になっていらっしゃる。
- 7533 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 7534 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴の 正装
酒宴の正装
- 7535 uwechiure,
ウエチウレ
互いに 刺させる
に身を固め、
- 7536 aokai utar
アオカイ ウタ
我 たち
わたしたち
- 7537 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
も

- 7538 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴の 正装
酒宴の正装
- 7539 a-uwechiubare
ア ウエチウバレ
我らは 互いに 何度も刺させる
をぞっくり重ね着して
- 7540 mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここに
器量をますますあげ、
- 7541 uwesamanno
ウエサマンノ(←ウエサムアンノ)
お互いそれについてそばに 在る+(副詞語尾)
二人揃って
- 7542 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様子 をなす
神のようになって
- 7543 okai-an kane.
オカイアン カネ
居る・我は 状態だ
いました。
- 7544 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 7545 shiso sam ne
シソ サム ネ
右座 のそば に
右座のわき
- 7546 ehorarba.
エホラバ
そこに 尻を押さえる(horari)様
に座りました。
- 7547 Inne utar
インネ ウタラ
大勢の 人々
大勢のひとたち—
- 7548 okkayo otta
オッカヨ オッタ
男子 に於ても
男性も
- 7549 menoko otta
メノコ オッタ
女子 に於ても
女性も
- 7550 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴の 正装
酒宴の正装
- 7551 uwechiureba kane
ウエチウレバ カネ
互いに 刺さ せる+(複数語尾) 状態だ
をぞっくり重ね着して
- 7552 chise shikno
チセ シクノ
家 いっばいに
家いっばいに
- 7553 shiaworaiba.
シアウオライバ(←saweraye 内へ入って来る) 複数
自身 内にやる
入ってきました。
- 7554 Oshisoun
オシソウン
その尻が 右座 に向く
右座にいる
- 7555 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者
- 7556 uturke ta
ウトウルケ タ
下座 の所 に
の下座に

※1 原綴 aoraba.

※3 iorun (<我ら・の方へ>)の誤記(?)

※2 Iku-an kuni korachi「うたげあるべく、そのやうに」(研654)

- 7557 a-matakipo tura
ア マタキ ボ トウラ
我・の妹(親稱接尾辞)と一緒に
わたしの義妹と一緒に
- 7558 tun a-ne wa
p.168 トウン アネ ワ
二人の 我ら・であって
二人で
- 7559 a-ehorarba kane.
ア エホ ララバ カネ
我は・そこに尻を押さえる(horari模) 状態だ
わたしは座りました。
- 7560 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 7561 shino nishpa uitek,
シノ ニシパ ウイテク
本当の 長 召使う
まことの村長を遣わす口上は、
- 7562 "PonTeseu un
ボン テセウ ウン
小 テセウ に住む
「ポンテセウの
- 7563 pon a-kor yubi!
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わが義兄上よ。
- 7564 Tanebo konna
タネ ボ コンナ
今+(指小辞) こそ
たった今
- 7565 shinrit chise ta
シンリッ チセ タ
祖先の 家 で
先祖の家にて
- 7566 pon tonoto
ボン トノト
少々の 御酒
いささかの御神酒を
- 7567 a-shikupkano.
アシクパ カ ノ
我らは・成長する させる (誤記?)
醸しました。
- 7568 Nohankeno
ノハンケノ
ごく近い(副詞語尾、添え字)
近しく
- 7569 chikoshireba wa
チ コシレバ(←シリエバ) ワ
我ら・に向かって 着く(一土地 に着く) して
出向いて来て
- 7570 hoshki tuki amba
ホシキ トウキ アムバ
最初の 酒杯 ani'手に持つ'複数形
最初の杯を手に取り
- 7571 kamuinomi wa
カムイノミ ワ
神 をまつる して
カムイノミをして
- 7572 i-kore yan!" ari
イコレ ヤン アリ
我に・与える なさい と
くだされ。』と。
- 7573 Kannaruino
カンナ ルイノ
再び+(強意)+(副詞語尾)
さらにまた
- 7574 shino nishpa
シノ ニシパ
本当の 長
まことの村長
- 7575 uitek hawe
ウイテク
召使う
を遣わすその口上が
- 7576 ene okai i;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには;
- 7577 "Koninkar kusu!
コニンカラクス(←コン インカラ クス)
早く! 見る+(感嘆の助詞)
「いざ申し上げます。
- 7578 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと、
- 7579 kamui rametok!
カムイ ラメトク
神の 勇者
神の勇者よ。
- 7580 Tanebo konna
タネ ボ コンナ
今+(指小辞) こそ
たった今
- 7581 pon tonoto
ボン トノト
少々の 御酒
いささかの御神酒を
- 7582 a-shikupka wa
アシクパ カ ワ
我らは・成長する させる して
醸して
- 7583 tanekuran
タネクラン(←タン ウクラン)
この 宵
今宵
- 7584 a-ekamuinomi
ア エカムイノミ
我らは・それで 神をまつる
われらはカムノミを
- 7585 kusu ne na,!
クス ネ ナ
つもり である よ
いたしますぞ。
- 7586 Pon e-kor sapo tura
ボン エコ サポ トウラ
小 汝・が持つ 姉 と一緒に
貴君の姉(妻?)と共に
- 7587 nohankeno
ノハンケノ
ごく近い(副詞語尾、添え字)
近しく
- 7588 chikoshireba wa
チ コシレバ(←シリエバ) ワ
我ら・に向かって 着く(一土地 に着く) して
ご来訪して
- 7589 i-kore kunak
イコレ クナク(←クン ヤク)
我らに・与える べきである ということ
くだ
- 7590 ramu yan!
ラム ヤン
思う なさい
され。
- 7591 Chinisebaha
チ ニセバハ
してある 酌む+(複数語尾)+(所属形接尾辞)
酌みたての御神酒の
- 7592 hoshki tuki
ホシキ トウキ
最初の 酒杯
最初の杯
- 7593 e-eainukor-
エ エアイヌコ
汝を・で 敬う
でわれらは貴君に敬意を
- 7594 an rusui.
アン ルスイ
我らは したい
表したい。(?)
- 8-6 迎えられる神々
- 7595 Kamuinomi-an
カムイノミ アン
神をまつる・我らが
カムノミや
- 7596 shinurapba hemem
シヌラフバ ヘメモ
先祖祀り でも
先祖供養を
- 7597 a-okere,
ア オケレ
我らが・終わる
終え、
- 7598 a-eramushinne orowa
ア エラムシンネ オロワ
我らが・それについて安心する それから
ひと息ついてから
- 7599 tanebo konna
タネ ボ コンナ
今+(指小辞) こそ
今度こそ
- 7600 pirika iku
ピリカ イク
よい 酒宴
たのしい酒宴
- 7601 pirika ibe,
ピリカ イベ
よい 食事
おいしい食事をし、
- 7602 ibe tuika ta
p.169 イベ トウイカ タ
食事のすぐ上 で
食べながら
- 7603 wembe hene
ウエムベ(←ウエン ベ) ヘネ
悪い もの でも
悪きことも
- 7604 pirika p hene
ピリカ プ ヘネ
良い もの でも
良きことも
- 7605 utashba kane, keshto
ウ タシバ カネ ケシト
互いに tasa '交換する' 複数形状態で 毎日
お互いに毎日
- 7606 a-uweneusar wa
ア ウエネウサラ ワ
我らは・互いに 話を楽しむ して
よもやま話をして
- 7607 a-ekirorante kuni
ア エキロランテ(←アエキロランテ) クニ
我らは それで 喜び面白がらせる べく
楽しみ合うのを
- 7608 a-chiba na."
ア チバ ナ
我らは・望む ぞ
期待しておりますぞ』
- 7609 ariokai
アリ オカイ
とある
というような
- 7610 pirika sonko
ピリカ ソンコ
良い 言つて
結構な伝言
- 7611 ratchi sonko
ラッチ ソンコ
静かな 知らせ
平和な便りを
- 7612 eyutar※1. Sonko-
エユタラ ソンコ
伝言する 伝言
ことづけられた

※1 「e-yutara 伝言する、ことづける」(久 75)

- 7613 kor be utar
コロ ベ ウタラ
を持つ者たち
者たちは
- 7614 itak etoko
イタク エトコ
言葉の先
聞き終わらないうちに、
- 7615 eshimushish-
エシムシシ
それで自分に咳払い
すぐに返事の咳払い
- 7616 kaba kane
カバ カネ
させる+(複数語尾) 状態で
をして
- 7617 chisoinaraba
チソイナライバ
自身を外の方 raye 'へへやる' 複数形
外に出て行き、
- 7618 too※1 kamuinish ka ta
トオ カムイニシ カタ
遠い 神空の上
はるか遠い天空上に
- 7619 baye hum konna
バイエ フム コンナ
行く音が
飛んで行く音が
- 7620 keurototke.
ケウ ロトツケ
ゴロゴロ 繰り返す+(自動詞形成語尾)
ゴロゴロと鳴りひびく。
- 7621 konepkaukata!
コネツケウカタ
'調律' 何 体上 (感動)
おおあわれ、
- 7622 konepkashita!
コネツカシタ
'調律' 何 上 (感動)
ああかなしい。
- 7623 ene hetapne!
エネ ヘタプネ
こう か これはまあ
あんなにもまあ
- 7624 a-nukan rusui
アヌカン(←アヌカラ) ルスイ
我は・を見る を欲する
会いたいと
- 7625 humiokai rok be,
フミオカイ ロク ベ
num'an感じていたの複数形 た もの
思っていた方々、
- 7626 I-resuyubi hene
イレス ユビ ヘネ
我を・育てる その兄 でも
育ての兄さまや
- 7627 lyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびとー
- 7628 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神のように ある 者
神のようなお方は
- 7629 usakor kane
ウサコロ カネ
互い 姉を持つ 状態で
義兄弟姉妹同士
- 7630 ne rokwa
ネ ロクワ
であつたところ
であつたのに、
- 7631 tanebo konna
タネ ボ コンナ
今(指小辞)こそ
今ようやく

- 7632 pirika unukar a-ki
ピリカ ウヌカラ アキ
よい 会見 我らは・をする
いい会見が
- 7633 eashkai etokush
エ アシカイ エトクシ(←エトク ウシ)
に関して 出来る の先につく
もうすぐ出来そうだ
- 7634 haweokai chiki,
ハウエオカイ チキ
声ある なら
とおっしゃるから、
- 7635 a-keutum kashi
アケウトム カシ
我が・気持ちの上
心の中では
- 7636 chishkot kane
チシコツ カネ
泣き死ぬ 状態だ
泣き死にしていまいそうほど
- 7637 shino nubetne-an.
シノ スベツネ アン
本当に 喜ぶ・我は
心底わたしは嬉しく思いました。
- 7638 Semohonruino
セモホンルイノ(←セム オホン ルイ ノ)
(否定の接辞) 長い間 甚しい(副詞語尾)
ややしばらく
- 7639 shirantek ko,
シランテク コ(←シリ アン テク コロ)
時空間 有る ちよつと すると
すると、
- 7640 sonkokor be utar
ソソココロ ベ ウタラ
伝言を持つ者たち
伝言を持って来た者たちが
- 7641 arki humi
アキ フミ
来る その音
やって来る音
- 7642 keurototke,
ケウ ロトツケ
ゴロゴロ 繰り返す+(自動詞形成語尾)
ゴロゴロと鳴りわたり、
- 7643 chiketoit※2 kurka
チケトイ クルカ
られた削る 地面の上
外庭の上に
- 7644 chierapte
チエラツテ
自身をそこに ran '降る' の複数形
落下して来て
- 7645 shiaworaiba.
シアウオライバ(←siaworaye '内へ入って来る' 複数形)
自身内に入る
屋内に入って来ました。
- 7646 Tu mina itak
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
笑い
- 7647 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
さざめき
- 7648 utashba kane
ウタシバ カネ
互いに tasa '交換する' 複数形 状態で
合いながら、
- 7649 "kamui rametok utar
カムイ ラメトク ウタラ
神の 勇者 たち
神の勇者たちは
- 7650 tuwan onkami
トゥワン オンカミ
二十の 拜礼
何十回もの

- 7651 rewan onkami
レワン オンカミ
三十の 拜礼
拜礼
- 7652 arukakushteba kane
アルカクシテバ(←アラウ カクシテバ) カネ
全く 互いの上を通過させる(複数) 状態で
を重ねて
- 7653 shino nubetneba,
シノ スベツネ バ
本当に 喜ぶ+(複数形語尾)
ほんとうに喜び、
- 7654 'Tane tunashno
タネ トウナシノ
今 早い(副詞形成語尾)
《もう一刻も早く
- 7655 maraptone-an kusu
マラプトネ・アン クス
賓客になる・我らは 故に
ご招待に
- 7656 baye-an kusu ne.'
バイエ アン クス ネ
oman '行く' 複数形・我らが つもり である
預かりましょう》
- 7657 ari haweokai
アリ ハウエ オカイ
と 声ある
とおっしゃった
- 7658 ruwe ne."
ルウエ ネ アリ
こと である と
のであります。[と
- 7659 hawokai※3
ハウオカイ
おっしゃる
申し述べました。
- 7660 Koeramno
コエラムノ
といっしょに
それと同時に
- 7661 ine hunak
イネ フナク
どう どこ
どこかで
- 7662 orbushkosamba
オロ ブシ コサムバ
甚だしく爆発する 急に~する
パンと破裂したような音がして
- 7663 kamuinishka ta
カムイニシカ タ
神(美称) 雲上 に
天空上で
- 7664 kamui arki hum
カムイ アキ フム
神 が来る 音
神のやって来る音
- 7665 keurototke,
ケウ ロトツケ
ゴロゴロ 繰り返す+(自動詞形成語尾)
ゴロゴロと鳴りひびき、
- 7666 ratchi kamui mau
ラッチ カムイ マウ
静かな 神の 気
穏やかな神風を
- 7667 shikotcha-
シコツチャ
自分の 前に
自分の前方に
- 7668 otteba kane,
オツテバ カネ
たくさんいる させる(複数形語尾) 状態で
群がらせて、
- 7669 soyun yakura
ソユン(←ソイ ウン) ヤクラ
外にある 櫓
外のやぐら

※1 too「=toop 遠い」(金 I-140)

※2 chiketoit「chike-toi<草をむしってある土地>は家のまわりの庭の意」(金 I-15)

※3 hawokai「hawe-an 言う(三人称)の複数形、敬語の用」(金 I 61)

- 7670 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓 の上
その櫓の上
- 7671 chierapte.
チ エ ラフテ
自身をそこに ran '降る' の複数形
に落下しました。
- 7672 Isenram kusu
イ センラム クス
物事をいつもどおり 故に
いつものとおり
- 7673 rametok utar
ラメトク ウタラ
胆力ある 者たち
勇者たちの
- 7674 tumba maikan
トウムバ マイカン
刀の鐔 触れ合って鳴る音の余韻 の端、末
刀鐔の触れ合って鳴る
- 7675 tununitara
トウヌニタラ(←トウトウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
澄んだ高音をカチンカチン
- 7676 mayunitata,
マユニタラ(←マユン イタラ)
金属の音がする し続ける
カタカタと響き、
- 7677 menoko sama
メノコ サマ
女 の側
女性の方々は
- 7678 upsor ikor※1
ウツソロ イコロ
懐 宝
胸の玉飾りを
- 7679 kotununatkiba kane
コトウヌナツキバ(←コトウヌン アツキ バ)カネ
共に チャリン 幾つも鳴る(複数語尾) 状態で
チャリンチャリン鳴らして、
- 7680 mosem tuyor
モセム トウヨロ(←トウイ オロ)
玄関納屋 腹 中
玄関納屋
- 7681 oshikirba.
オシ キルバ
そこに s'kirJ '自分を回す' 複数形
に向かいました。

※1 upsor-ikor「くふところ・寶」婦女の寶は、首へかけて胸へ垂らせる佩玉であるが、tamasaye—玉を綴った部分—と shitoki—鏡の形をした圓形の金板、若くは鐔の漆—とから成り、それに銀環を添へて貫く…」(研669)

第9章 メナシサムの厚司メナシサムの帽子
9-1 豪華な厚司、綺羅びやかな帽子

7682 Mosem tuyor un モセム トウヨ _n (←トウイ オ _n) ウン 玄閣納屋 腹中 にある 戸口に立って	7697 [-resuyubi イレス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄さまは	7713 toine※6 kane. トイネ) カネ 土のような 状態になる 青くなりました。
7683 uweomanno ウウェサマンノ(←ウ エ サム アンノ) お互い それについて そばに 在る+(<small>復</small> 語尾) 揃って	7698 koneita kusu コネイタ クス (調律) どこに まあ いつでも	7714 Oshi ahum be オシ アフム(←アフン) ベ その後 入る 者 その後ろから入ってきたお方は
7684 taban chikutkesh※1 タバ _n (←タッ アン) チククケン 今ここに ある 自身の 喉末 訪問の礼であるエヘン、フムなどという	7699 shirika wena※3 シリカ ウエナ(←ウエン ヤ) 容貌 が悪い か 姿が美しく	7715 konepkeukata ! コネッケウカタ (調律) 何 体 上 感動! なんとまあ
7685 chimaknaraiba チマクナライバ 自身の奥の方へ raye 'やる' 複数形 咳払いが聞こえ、	7700 nanka wena ナンカ ウエナ(←ウエン ヤ) 容貌 が悪い か 顔も美しかったけれど	7716 konepkashita ! コネッカシタ (調律) 何 上 (感動) あらまあまあ、
7686 chiokanimai- チオカニマイ 自身にそこで金の気 その声に金風が	7701 tane an※4 pirika タネ アン ビリカ 今 ある 美しさ 今の美しさは	7717 lyochi un kuru イヨチ ウンクル イヨチに住む お方 イヨチびと
7687 kotba kane コツバ カネ kote '〜に〜を結びつける' 複数形 状態だ について餘の音のような爽やかな声となって	7702 shioarwenrui※5 シオアヲウエン ルイ 自分 全く 悪 過ぎる すごみがあるほどで、	7718 kamui rametok カムイ ラメトク 神の 勇者 神の勇者が
7688 ratki aba ラツキ アバ 垂れている 戸 母屋入り口のすだれを	7703 ikueshiyukbe イクエシユクベ 酒宴において 自らを装うもの 晴れの席の装束を着て	7719 isenram kusu イセンラム クス 物事をいつもどおり 故に いつものとおり
7689 chimausuba, チマウスイバ 自身 気 suye '振る、揺さぶる' 複数形 風のようにそよがせ、	7704 mashkin teta マシキン テタ ますます ここに 器量をますますあげ	7720 kamui shiri ne, カムイ シリ ネ 神 の様子 をなす 神のようなお姿で、
7690 mintar ka ta ミンタ _カ タ 内土間 上 に 内土間に	7705 kamui shiri ne. カムイ シリ ネ 神 の様子 をなす 神のようです。	7721 Menashsam un attush メナシサム ウン アツトウシ メナシサム の 厚司 メナシサムの厚司
7691 uoshi ranke ウオシ ランケ 互いの後 ずつ つぎつぎに	7706 Yakka ヤッカ でも けれども	7722 kani attush カニ アツトウシ 金の 厚司 豪華な厚司を
7692 rutkosamba p ルツコサムバ _プ rutu '押す' 語根+kosanu 'さつと' 複数形 者 サツと入って来た人々を	7707 katune kane カトウ ネ カネ 常態 である 状態で ただふつうに	7723 imikakushte, イミカクシテ 着物の上に 通す させる 着なし、
7693 oribak tura p.171 オリバク トウラ 畏れ慎む と共に 畏れかしこみつづ	7708 yaikataikap kuni p ヤイカタイクア _ク カ _ク クニ _ク ッ 自身形 拙い はずのこと かしこまっているの	7724 kurkashike クルカシケ その上面一帯 着物の表には
7694 a-ekannukar.※2 アエカンヌカラ(←ア エカリ ヌカラ) 我は・に向かって 見る わたしは見ました。	7709 newa ne yakne ネワ ネ ヤクネ であって である ならば であるなら	7725 kamui imeru※8 カムイ イメル 神の 稲光 神々しい光が
7695 Konepkeukata ! コネッケウカタ (調律) 何 体 上 感動! なんとまあ	7710 (kotomorkaiki.)※5 コトム コカ イキ 似つかわしい けれども+物事 をする いいのに、	7726 uweshimaka ウウエシマカ(←ウ エシ マカ) 互いにそこで 自身 を開く、明るくする 照り輝いています。
7696 konepkashita ! コネッカシタ (調律) 何 上 (感動) 素晴らしい。	7711 isam korachi イサム コラチ 無い 如く かすかに	7727 Menashsam un konchi メナシサム ウン コンチ メナシサム の 帽子 メナシサムの帽子
	7712 semiborkan- セミボロカントイネ(←セム イボ _n カン (強意) 顔色 の上 顔色が	7728 kani konchi カニ コンチ 金の 帽子 きらびやかな帽子

※1 chikutkesh/chimaknaraye「外から音なる時、客入口にて、男子ならエエエと咳払いし、女子なら、オホオと咳払いをする…」(研W436)、(研658)。(金 I-148)

※2 ekannukar/ekari-nukar なるべし。むかつて見る、むかへ見る(研700)、「こちらから迎えて」(金 I-116)われこなたより見やり(研700)、こちらから迎えて(金 I-116)

※3 wen a'ne ta wena(neita wen ya) <どこに わるい か>何處にわるからうか、どこで見てもいつ見ても立派なり、相變らず例の立派な風貌」(研w561)、「wen a <悪い (話し手の疑いの感情、皮肉の感情を表す終助詞)> …」(切166)

※4 原綴 am

※5 tane an pirka shioarwenru | tane an pirka/si-oar wen-ruy <今 ある 美しい/自分・全然 悪過ぎる>常套語で、非常に美しいこと。たゞ美しいと言ったのでは、今のこの言葉は悪すぎてあたらない、それほど美しいという義…(金 I-343)、「今までであった美しさはどこへやら」と訳して聞かせるアイヌもある。…(金VI-274)「今まで美貌であったのが、全く醜くなってしまった」(A92)

※6 この行は原文に無い。脱落していると判断して挿入した。

※7 semiborkantoine「面色土色ニナル」(久237)、『萱野茂訳』「顔の色を真っ青にする」(教VII-36)

※8 kurkashike/kamui imeru/eshimaka「その表/蓋異な光/に照りはえる。(金 I-56)、そのおもて/神々しい光が/相照り映えて(金 I-284)」

7729 kimui rarire
キムイラリレ
頭 押しつけさせる
をかぶり、

7730 reuboki ta
レウ ボキ タ
内側の湾曲の下に
髪の毛の下には

7731 kamui sannanu
カムイ サン ナヌ
神 出る その顔
神々しいお顔が

7732 komaknatara.
コマクナタラ
共に 輝く
明るく輝いています。

9-2 体調を憂う私

7733 Konep tashumi
コネフ タシユミ
(調律、強調) 何 病気
何の病気か

7734 konep ikoni※1
コネフ イコニ
(調律、強調) 何 病
病いに

7735 kichi rok be,
キチ ロク ベ
する+(複数形語尾) た もの
かかったものか、

7736 isam korachi
イサム コラチ
無い 如く
わずかに

7737 ponno sattək kane
ボンノ サツテク カネ
少し 乾くちよつと~する 状態で
少し痩せていて

7738 ibottum konna
イボットウム(=イボロトウム) コンナ
顔色の中 (調律)
顔いろも

7739 ponno shumnatara ruwe
ボンノ シュム ナタラ ルウェ
少し すぼむ+(持続態語尾) その様
ややしぼんでいるその様子を

7740 ear shirkush ne korka
p.172 エアラ シルクシ ネ コロカ
(?) 辺りを通る である けれど
立ち寄って(?)

7741 a-nukartek
アヌカラテク
我は・見る ちよつと~する
ちよつと

7742 inkar newa
インカラ ネ ワ
ものを見る であつて
見ただけ

7743 a-kip ne koroka,
アキラ ネ コロカ
我がすること である けれど
であつたけれど、

7744 konepkeukata!
コネツケウカタ
調律: 何 体上 感動:
ああかわいそうに、

7745 konepkashita!
コネツカシタ
調律: 何 上 感動:
おおかなしい。

7746 Sonno a-wenrenkabi
ソンノ アウエン レンカビ
本当に 我が・悪い 所存
本当にわたしが至らなかった

7747 oman ikiri
オマン イキリ
行く 一続き
一連のなりゆきで

7748 inunukashki!
イヌヌカシキ
可哀想に
お気の毒にまあ!

7749 kamui rametok
カムイ ラメトク
神の 勇者
神の勇者が

7750 shukupkuru keutum
シュクフクル ケウトウム
若い人 精神
若者の気持ち

7751 nokankuru yainu i
ノカンクル ヤイヌ イ
幼い人 考える こと
年端のいかない者の考えること

7752 kone p ne kusu,
コネフ ネ クス
(調律、強調)である もの である 故に
なものだから、

7753 wen an shiri※2
ウエン アン シリ
みじめに ある その様
つまらない

7754 otui an shiri
オトウイ アン シリ
尻切れている ある その様
取り柄のないわたしを

7755 chishknuka※3
チオシクヌカ
~のことそこに 目を持つ+(他動詞化語尾)
慕つて

7756 i-yekarkar noine
イイエカラカラ(=イ エカラカラ) ノイネ
私に・をする らしく
くださつたように

7757 a-ramu a
アラム ア
我が・考える した
わたしが思つてしまつ

7758 rok be ne kusu,
ロクベ ネ クス
た もの である 故に
たものだから、

7759 i-orun yainu aine
イオルン ヤイヌ アイネ
我・の方へ 思う そのうち
わたしことを思っているうちに

7760 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうなつたという

7761 nei katu
ネイ カトウ
その 様
事情が

7762 a-noeraman
アノエラマン
我は・よくわかる
はっきりわかつた

7763 chiki, eashka
チキ エアシカ
したら 本当に
から本当に

7764 a-keutum kashi※4
アケウトウム カシ
我が・気持ち の上
わたしの気持ちは

7765 chishkot kane.
チシコツ カネ
泣き死ぬ 状態だ
うれし泣きして死んでしまいそうでした。

7766 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもう

7767 nekona a-kar be
ネコナ アカラ ベ
どう 我が・をする こと
どうしたらいいもの

※1 ikoni/i-koni<それを・わすらう>①病気;②病気をわすらう③痛む。北海道でわ、この語わ病名をあらわす各成語の中が、或わ推語的な慣用句の中にだけ現れる。《脚注》tasum sakno ikoni sakno<病気なしに・わすらい・なしに>ぶじに」(人340); nep tasumi/nep ikoni「なにわすらい/何や

※2 wen an shiri/otui an shiri「みるかげもない/みすぼらしいのを(脚注: wen はくわるい)>という語であるが、道徳的悪ではなく謙辞に軽く言うので、どちらかと言つたら物質的にわるい意、露骨に言えば貧乏という意である(金I-98); みじめなさま/つまらないさま(金VII-266); よからぬこと/つまらぬこと(金III-472)。

※3 shiknuka「恋した(脚注: o-shik-nuka<そこ・目・置く>見とれる。恋愛する。nu は多分 nu 置く、-ka 他動詞化語尾)」(金I-120)。

※4 a-keutum kashi/chishkot kane「わが心の上/泣き死ぬほど(脚注: chish-kot<泣き・死ぬ>うれし泣きの極み)。(金II-225~6)。

7768 okai ari オカイ アリ ある と かと	9-3 慎み深きイヨ子姫	7799 yayoikare kuni p ヤヨイカレ(←ヤイオ イカレ) クニ ヲ 自身をそこから超えさせる はずの者 超えて入ってきた者を
7769 yainu-an chiki, ヤイヌ アン チキ 考える・我は なら 思えば、	7784 Hokaetok ta p.173 ホカ エトク タ 炉 先、前 で 横座で	7800 a-nukar akusu, ア ヌカ ^ラ アクス 我が・~を見る すると わたしが見たところ、
7770 shisak rametok シ サク ラメトク 滅多にいない 勇者 たぐいまれなる勇者が	7785 kamui okkaipo カムイ オッカイ ポ 神 男+(指小辞) 神の若者	7801 Iyochi um mat イヨチ ウム(←ウン) マツ イヨチ に住む 女性 イヨチ姫—
7771 sonno ramoshiwano ソンノ ラモシワノ(←ラム オシ ワノ) 本当に 心の中 から ほんとうに心から	7786 kurkashike クルカシケ 身体の上 のからだを	7802 isenram kusu イ センラム クス 物事を いつもどおり 故に いつものとおり
7772 keutum oshiwano ケウトウム オシ ワノ 心 その中 から 心底	7787 shikeshitaikiba※6 シケシタイキバ(←シク エ シタイキ) 目 で たたく(複数形語尾) 眼ざとく見て取り、	7803 kamui shiri ne カムイ シリ ネ 神 の様子 をなす 神のようなご様子で
7773 chituyashkarap※1 チトウヤシカラッ ~ことを 憐れむ 可哀想に	7788 harkiso ne ハラキ ソ ネ 左座 になる 左座にいる	7804 tane am pirika※10 タネ アム(←アン) ピリカ 今 ある 美しい ただ美しいと言うだけでは
7774 a-ekakar, ア エカラカ 我が・~をする なり、	7789 kamui pommenoko カムイ ポム(←ボン) メノコ 神の 若い 女性 神の乙女	7805 shioarwenrui シ オアラ ウエン ルイ 自分 全く 悪い すぎる 表現できないほどの美しさで、
7775 heseibuiru※2 ヘセイ ブイラ 息する 淵などの渦巻、また穴 息の孔も	7790 kurkashike クルカシケ 身体の上 のからだを	7806 chikup shiyuk チクフ シユク 酒宴の 正装 酒宴の正装
7776 a-i-koseshke アイコ セシケ 人々が 我に 対して 塞ぐ ふさがれた	7791 shikeshitaikiba※7 p. シケシタイキバ(←シク エ シタイキ) ヲ 目 で たたく(複数形語尾) 者 見て取ったものの、	7807 uwechiure wa ウ ウェチウ レ ワ 互いに 刺させる て をぞっくり重ね着して
7777 semkorachi セムコラチ するように みたい	7792 shineikinne シネ イキンネ 一 列に 皆いつせいに	7808 boo hene ボオ ヘネ もっと でも ますますもって
7778 a-yainu kane, ア ヤイヌ カネ 我は・考える 状態だ 思いながら、	7793 eashka nushikarba※8 エアシカ ヌシカラバ 本当に 不思議に思う 驚き、	7809 kamui shiri ne. カムイ シリ ネ 神 の様子 をなす 神のようなご様子です。
7779 omanso※3ka ta オマンソ カ タ 上座 上 で 座敷の上に	7794 shino iyoyamokteba シノ イヨヤモクテバ(←イ オヤモクテ バ) 本当に 物事を 不思議に思う(複数形語尾) まことに変だ(怪しい、おかしい)と思った	7810 katune kane カトゥ ネ カネ 常態 である 状態で ただふつうに
7780 chine※4 chimbuni チネ チムブニ(←チン ブニ) (?) 脚、股 を持ち上げる ひとまたぎで(?)	7795 kotomno コトムノ らしい らしく	7811 chise upsoro チセ ウッソロ 家 その懐 家の中を
7781 ukoturba kane ウ コトウルバ カネ 相 共に turu を伸ばす(複数形 状態で あがって(?)	7796 katkor ruwe okai. カツコロ ルウェ オカイ 振舞う その様 ある 様子でした。	7812 reka kuni p レカ クニ ヲ 褒める はずの もの 褒めたたえ
7782 hekariso※5 ba ne ヘカリソ バ ネ 向かい座 頭に 左座のかみて側に	7797 Iyotta iyoshino イヨッタ イヨシノ(←イ オシ ノ) いちばん 人のあとから(副詞語尾) 一番最後に	7813 oribak kuni p オリバク クニ ヲ へりくだる べき 者 慎み深くかしまるだけ
7783 chieroshi. チ エロシキ 自身をそこに立てる 揃って立ちました。	7798 tonchikamani※9 トンチ カマニ とぐち(戸口のアイヌ語訛り) 跨ぐ 木 母屋入り口の敷居を	7814 newa ne yakne ネワ ネ ヤクネ であって である ならば なら

※1 原綴 chituyash のみ。

※3 omanso「Oman-so-ka ta 座敷の上に omai-so<宝をおく・上座>のこと。n 音が、s 音の前に i となることから、逆に語源俗解からの誤記」(金 I-351)。(5120)、「不思議に思う」(265) enushikarba [enushikar-pa<enushikari「吃驚する、不思議に思う、目を丸くして驚く」の語幹(複数形語尾)>]

※4 shine の誤記?

※5 hekariso「横座から入口に向かって左方の一辺は harki-so<左座>と云ひて、家族や、さして重くない他からの客の席、主人の席の真向である故に又 hekariso<向座>ともいふ。」(研W241)

※6 原綴 shikeshitaiba

※8 enushikari の複数形か。参考: enushikari「e-nu-sikari」(2項動詞)<でいて・目・丸くなる>~に目を丸くして驚く」(研92)、「Enushkari, エヌシカリ、愕く」(5120)、「不思議に思う」(265) enushikarba [enushikar-pa<enushikari「吃驚する、不思議に思う、目を丸くして驚く」の語幹(複数形語尾)>]

※9 tonchikamani「ton-ci-kama-ni<東北方言トングのトングが・われわれ・またぐ・木>家へ入る時にせひまたいで入る横木、東北方言のトングというもの」(金 I-418)、「敷居」(338)

※10 tane an pirika/sh'oar wenrui 今の「美し」ではいかに悪すぎる(脚注:<今 ある 美しい 自分・全然 悪すぎる>非常に美しいこと。たゞ美しいと言ったのでは、今のこの言葉は悪すぎてあたらぬ、それほど美しいという義。pirka というも平凡すぎて言うもいやの意)。(金 I-343)

7815 kotomkorkaiki,
コトム コカ イキ
似つかわしい けれども+物事 をする
いいのに、

7816 kurka konna
クルカ コンナ
からだ が
からだを

7817 uyanitara※1
ウヤニタラ(←ウヤン イタラ)
身をもむ ~し続ける
もじもじさせながら

7818 hebumba
ヘブムバ
hepuni '顔をあげる'の複数形
顔をあげる

7819 kuni boka
クニ ボカ
つもり さえも
ことさえ

7820 yaikoniukesh kane,
ヤイコ ニウケン カネ
自分に欲しない 状態で
できないで、

7821 kani poshtoko
カニ ポシトコ
金の ほかい
金時絵の行器

7822 eshisembir-
エシ セムビリ
それを自分の 後ろ
を後ろ

7823 amba kane
アムバ カネ
手に持つ 状態で
手に持って

7824 mintar ka ta
ミンタラ カ タ
内土間 上 に
内土間に

7825 shinu kane
シヌ カネ
ずり歩く 状態で
膝まずき

7826 reye kane
レイエ カネ
はう 状態で
這うように進みながら

7827 chikibonewa
チキボネワ
我ら する+(指小辞)であって
もう少しで

7828 "Sapo!"ari
サポ アリ
姉さま と
『お姉さまあ』と

7829 itak-an kane
イタカン(←イタッ アン) カネ
言う・我が 状態で
わたしは言って

7830 a-eshikari anke
ア エシカリ アンケ
我は を掴む 今にもそうしようとする
今にも肩を抱きしめよう

7831 yainu-an korka,
p.174 ヤイヌ アン コロカ
考える・我は けれども
思ったけれども、

7832 okkayo
オクカヨ
男
男性が

7833 unukar itak
ウヌカラ イタク
互いを見る 言葉
会見の辞を

7834 an kush ne
アン クス ネ
ある つもり である
述べようとする

7835 etoka ta
エトコ タ
その前 に
前に

7836 neino ka
ネイノ カ
そのように も
そんなことを

7837 iki-an eaikap.
イキ アン エアイカフ
物事をする・我は それをできない
するわけにはまいりません。

7838 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
この こと 故に
それで

7839 an-eramne
アネラムネ(←アン エラム ネ)
我は それを 心で
わたしの思いを

7840 a-eyainita kane.
ア エヤイニタ カネ
我は ~について 我慢する 状態だ
ぐっと我慢していました。

9-4 流暢な弁論

7841 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が

7842 chirikibuni※2
チリキブニ
自身を高くあげる
立ち上がって、

7843 rorunsoba※3 ta
ロルンソ(←ロロ ウン ソ) バ タ
上座の座 頭 へ
上座に

7844 chishiruture※4
チシルトゥレ
自身が 自分 を寄せる させる
行き、

7845 barshutomap※5
パラシュトマフ(←パラ スツ オマフ)
天井の糊 籠 に置くもの
なげしに置いてあるものを

7846 raekatta,
ラ エカッタ
下 急に~行かせる
ぱっと降ろしました。

7847 Nichi takne op※6
ニチ タクネ オフ
その柄 短い 槍
その柄が短い槍を

7848 ram kuwah※7 ne
ラム クワ ネ
低い 杖 として
杖について

7849 eyaitete,
エヤイ テテ
それで 自身 杖をつく
寄りかかり、

7850 opsar kese
オフ サラ ケセ
槍 尾 の末端
槍の柄へ

7851 notomare
ノトマレ(←ノツ オマレ)
あごを入れる
あごを載せ、

7852 rorunso kurka
ロルンソ(←ロロ ウン ソ) クルカ
上座の座 の上
上座

7853 chieashi kane,
チエ アシ カネ
自身を そこに 立てる 状態で
に立って、

7854 ki charanke
キ チャランケ
する 談判
した弁論は

7855 kakkok hau ne
カクコク ハウ ネ
郭公鳥 声 になる
郭公鳥の声のように

7856 ouseturse※8
オウセ トウルセ
下へ 切れ 落ちこぼれる
高くはつきりと響きわたり、

※1 uyan '真つ直ぐにすわらずに膝をまげる、もちもちして' (研849); kurka konna/uyanitara 'その上(脚注:さうしながらの意。=kurkashike) 身を

揉みでもちもちしたり。(研849); からだがぐたりとなり(金I-389); そのおももち/にこにこやさしく(金IV-534); …

※2 vchir kipuni/hopuni <起つ> のこと。pini は <あげる>, rki は <高く>, chi が添って自動また状態となって高く上がる、即ち起ちあがる。(研937)

※3 [so-pa は <座頭、上座> で委かには rorun-so-pa <横座の頭> すなわち、屋内の炬より奥の部分の称。(金II-59)

※4 shiruture/shi-rutu-re <自身・寄せ・しむ> 自身を寄す > 寄つて来る、寄る。(研846)

※5 [par-sut-oma-p <天井・籠(=なげし)に置く・もの> すなわちくなげしに置くもの> で種・茅のこと)/ぐっと執り(脚注:ra-ekatta <下・強勢態(力をこめてする動作を表す) 語尾>)] (金I-306)

※6 (金I-306) では obkebushbe/eturserel 槍の鞘をは/ぱっと払い(脚注:turse 落ちる etursere 落とす=払い落としたこと) となっている。

※7 [ram kuwa <低い杖> は短い杖、アイヌの山杖(kimun kuwa)は一丈もあるから。(金I-251)]

※8 [o-use-turse <きれぎれに落ちる、したたり落ちる> (金I-344); <聲高く、明瞭に、はきはきと・落ちる> (研W310)]

7857 ineapkus イネ アックス どうしたの故に なんとまあ	7874 ukokatkor-an katu※4 ウコ カツコロ アン カトウ 互いに 振る舞う・我らが その様 皆が行動したことを※5	9-5 感謝し合う一同
7858 kuchiashkai※1 wa クチ アシカイ ワ 喉が上手である して よい声で	7875 shine itak hene p.175 シネ イタク ヘネ 一つの 言葉 でも ひとつ	7882 Eebakita エエバキタ その上に その次に
7859 kuchipirika wa クチ ピリカ ワ 喉が美しい して すばらしい調子で	7876 hopba somokino ホフバ ソモ キノ hopi 置き去る 複数形 (否定)する+副詞語尾) 残らず	7883 Iyochi un kuru イヨチ ウンクル イヨチに住む お方 イヨチびと
7860 hawash nankor'a! ハワシ ナンコラ(←ナンコロ ヤ) 言う だろう か 話されたことでしょうか。	7877 uwatore※6 kane ウワトレ(←ウ アツオレ) カネ 互いに 紐 入る させる 状態で 並べ立て、	7884 kamui rametok カムイ ラメトク 神の 勇者 神の 勇者が
7861 Itak kaisashi(kaisachi?) イタク カイサシ(カイサチ?) 言う (?) その言葉は(?)	7878 ebaronna- エパロンナ(←エ パラ オンナ ワノ) それについて 口の中 から 口の中から	7885 tapne kane タッネ カネ このような 状態で このような
7862 kani mau ne カニ マウ ネ 金の 気 のように、になる 金の風のように	7879 wano chibita※7 ワノ チビタ から 自身 ほどく するすると	7886 sonno nishpa ソノノ ニシパ 本当の 長 まことの 村長
7863 uwetunui se kane, ウ ウェトウヌイセ カネ 互いに 金属音を鳴らす 状態で 美しく響きわたって、	7880 ouseturse オウセトウルセ 下へ 切れ 落ちこぼれる 高くはつきりと	7887 utarpa ne kush, ウタラ パ ネ クス 仲間 頭 である 故に 族長であるから、
7864 isenram kusu イセンラム クス 物事を いつもどおり 故に いつものとおり	7881 kane yeba. カネ イェバ 状態で 言う+(複数形語尾) 響かせて 言い終えました。	7888 a-tureshipo アトゥレシポ 我が・妹+(指小辞) わが可愛い妹を
7865 bawetok ne wa パウエトク(←パ エトク) ネ ワ 口先 である して 雄弁であって		7889 chiraike ne yakka チライケ ネ ヤッカ ~こと 死ぬ である しても 殺すにもことかいて(同じ死ぬにしても)
7866 wayashnukashba※2 ワヤシヌ カシバ 賢い ~し過ぎる なんとまあ才智ゆたかに		7890 semkatune セムカトウネ (否定辞)+平穩である 当たり前でない(異常な)死に方
7867 ramushikarun※3 wa ラムシカルン ワ 記憶力がよい して 物覚えよく		7891 a-ekarkar ア エカラカラ 人が~をする にされ
7868 hawokai ハウオカイ おっ~やる 申し述べたこと		7892 rok okai ko, ロク オカイ コ た いらっしやる と てしまわれ、
7869 nankor'a! ナンコラ(←ナンコロ ヤ) だろう か でしょうか。		7893 chikeutusare wa チケウトウサレ ワ ~のこと 骸を蘇生させる して その命を取り戻して
7870 Tapne tapne タッネ タッネ こう こう かくかくしかじかと		7894 kore rok okai ko, コレ ロク オカイ コ 与える した いらっしやる と さしあげると、
7871 arwen kamui アラウエン カムイ 全く悪い 神 極悪の神から		7895 nubursak kuni p※8 ヌブル サク クニ フ 霊力を欠く はずの 者 霊力のない
7872 chiukokeshke wa, チウコケンケ ワ される 互いに 妬む して 嫉まれ憎まれて、		7896 shiketoko- シケトコ(←シク エトコ 目の先 目さきの
7873 tapne tapne タッネ タッネ こう こう こうこうしかじかと		7897 takne kuni p タクネ クニ フ が短い はずの 者 短い

※1 [v] kuchi-ashkai【形容詞】<喉が・有能>声がよく【語法】、ineapkus/kuchi pirika wa/hawash nankor'a.《萱野茂訳》「なんとまあ、声がきれいであるのだろうか。」(教22-113)

※2 -kaspal-kashu 甚しの意を添へる語尾の複数形、あまりにも~する【研W359】

※3 ramushikarun 記憶力がよい、物忘れをしない【重462】、「記憶スル、v.t. To remember. Syn. Eshkarun.」(B412)、「eshkarun【他動詞】~が恋しい、~を思い出す、~を覚えている」(田123)

※4 原綴はこの後に shine があるが、次頁冒頭の shine と重なる。 ※5《萱野茂訳》「お互いに口論した」(教23-161)

※6 uwatore [u-at-o-re<互・紐・はいつている・せしめる>【金 I-263】、ぐるりと連なり【金 I-279】、うちつついて【金 II-69】

※7 chibitabita が普通。

※8 7882~7885行《萱野茂訳》「霊力のない者/遠くを見えない/私であったそのために」(教XIII-49)、「shiketokotakne/ainu utara《萱野茂訳》「見えた物のみ理解する/その人間」(教XIII-96)

- 7898 a-ne p ne kusu
アネ プ ネ クス
我・である 者 である 故に
我だから
- 7899 ene ashbe ka
エネ アシベ カ
こう 立つ 事 も
こんなことも
- 7900 koikataraye a-ki,
コイカタライエ アキ
に対してその上 にやる 我は・~をする
わからないわれであるが、
- 7901 ebosokusu!
エボソクス
それで書いて、それを通して 故にまあ!
なるほどなあ!
- 7902 a-tureshipo
アトウレシポ
我が・妹-(指小辞)
わが可愛い妹の
- 7903 katun shiri
カトウン シリ
態度 の様
ふるまう様子が
- 7904 a-oyamokte,
アオヤモクテ
我は・不審に思う
怪しい(おかしい、腑に落ちない)。
- 7905 A-rushka wa
アルシカ ワ
我は・~を怒る して
われはそれが面白くなって(不機嫌になって)
- 7906 shukupuru yainu
シュクプクル ヤイヌ
若い人 思い
若者の考えは浅はかな
- 7907 kone p ne kusu,
コネッ ネ クス
(調律、強調)である もの である 故に
ものだから、
- 7908 rakasak
ラカ サク
益を欠く
役にも立たない
- 7909 shinnai chibembak※1
シンナイ チオベムバク
別な ~のこと 見てしまう
別なことを見てとって(見間違いして?)
- 7910 shinnai※2 chikoitaraye
シンナイ コイカタライエ
別な に対してその上 にやる
わからなく(判断に迷い?)
- 7911 a-ekarkar,
アエカカラ
我が・~をする
なり、
- 7912 tu arka itak
トゥ アラカ イタク
二つの 痛い 言葉
幾つもの痛罵
- 7913 re arka itak
レ アラカ イタク
三つの 痛い 言葉
数々の痛い言葉を
- 7914 a-kosuyekar,
アコスイエカラ
我は・に対して 振る+(自動詞語尾)
われは浴びせた。
- 7915 Oshi sui
オシ スイ
その後 再び
その後にもまた
- 7916 a-eramboken kane,
アエラムボケン カネ
我は・憐れむ 状態で
われは可哀想になって、
- 7917 yainu a-ramu humi
p.176 ヤイヌ アラム フミ
その考え 我が・思う そのこと
その考えわれが心に思うことは
- 7918 wen humi
ウエン フミ
悪い そのこと
良からぬことで(?)
- 7919 okai rok awa,
オカイ ロク アワ
あつ た ところが
あつたのに、
- 7920 tapne tapne
タッネ タッネ
こう こう
このような
- 7921 nei katu
ネイ カトウ
その 有様
事情が
- 7922 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神の 意図+(挿入音)+として
神々のお陰で
- 7923 a-eraman ita,
アエラマン イタ
我が・知る 時に
解ったときに、
- 7924 PonTeseu un kuru※3
ボンテセウ ウン クル
小テセウ に住む 男性
ボンテセウ彦
- 7925 Pon a-kor yubi hene
ボン アコロ ユビ ヘネ
小 我・が持つ その兄 でも
わが義兄や
- 7926 lyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 7927 kamui rametok
カムイ ラメトク
神の 勇者
神の勇者の
- 7928 usakor※4 kane hene
ウサコロ カネ ヘネ
互いに 姉を持つ 状態で でも
義兄弟姉妹同士や
- 7929 a-tureshipo hene
アトウレシポ ヘネ
我が・妹+(指小辞) でも
わが可愛い妹だの
- 7930 shineikinne
シネイキンネ(←シネ イキネ)
一列に
一同皆に
- 7931 a-kooitaksak sonno
アコオイタクサク ソンノ
我は・対して 詫げる 本当に
我はあやまり、まことに
- 7932 yainikoroshma※5-an
ヤイニコロシマアン(←ヤイ ニコロ オシマアン)
自分の 隙間に突っ込む・我は
恥じ入り
- 7933 shino yayababu-an
シノ ヤヤバブアン(ヤイ アバブ アン)
真に 自身 悔いる・我は
心からお詫び
- 7934 ruwe taban "
ルウェ タバン(←タッ アン)
事実 これのこととおりにある
申し上げます』
- 7935 ari itak awa,
アリ イタク アワ
と 言う したところが
と言ったところ、
- 7936 I-resuyubi hene
イレス ユビ ヘネ
我を・育てる その兄 でも
育ての兄さまも
- 7937 lyochi un kuru hene
イヨチ ウン クル ヘネ
イヨチに住む お方 でも
イヨチびとも
- 7938 lyochi un mat hene
イヨチ ウム(←ウン) マツ ヘネ
イヨチ に住む 女性 でも
イヨチ姫も
- 7939 shineikinne
シネイキンネ(←シネ イキネ)
一列に
一同皆は
- 7940 tanebo konna
タネボ コンナ
今+(指小辞) こそ
今こそはじめて
- 7941 kamui orushbe
カムイ オルシベ(←オロ ウシベ)
神 所 についているもの
神々の故事や
- 7942 ainu orushbe
アイヌ オルシベ
人間 に関する事柄
人間に関すること、
- 7943 nitnekamui orushbe
ニツネ カムイ オルシベ
凶悪な 神 噂
人を殺す極悪神の噂を
- 7944 nuba kuni p
ヌバ クニ プ
聞く+(複数形語尾) はずの 者
聞いたことには、
- 7945 eashka
エアッカ
本当に
それこそ
- 7946 ukohomatba
ウコ ホマツバ
互いに 尻を挙げる(←homatba) 複
皆が驚き
- 7947 ukoikyunurba p
ウコ イヨクンヌ、バ
一緒に iyokunre '驚き呆れる'の複数形 もの
あきれ合った
- 7948 kone p ne kusu,
コネッ ネ クス
(調律、強調)である もの である 故に
ものだから、
- 7949 uwohumse-
ウウオフムセ(←ウ オフム セ)
互いに そこから フム という氣勢の声
一緒にフムと氣勢の声
- 7950 echiu kane
エチウ カネ
をさす 状態で
を上げながら、
- 7951 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互に ほどに
かわるがわる

※1 openpak【他動】(見るべきでないものを見てしまう)【田474】

※2 shinnai【(視別方言)異なる、ちがふ、別な(研861)、特にすぐれてちがう意(金I-272)、沙流地方の shinna を視別方言ほ、その他の北方方言と共に shin-nai といふ。<異なる、ちがう>という語。<異彩がある>というように、よい意味にいう(金I-363)】【無益、利益がない】(書459)

※3 原綴 ponteseu kuru

※4 usakor【u-sa-kor】<互い・姉を持つ>姉と妹または姉と弟の関係である【(田795)】
※5 yainikoroshma【yai-nikor-oshma】<自身・内部・ぶつかる>恥かしく思う、恥しめる=yainikonare=yaiakatwen(金I-176)、恥する(金I-319)、(金I-72)、「<自身・ひだ・入る>→自分の体にひだを作ってはいる(それほど恥ずかしい)日本語で、穴があったら入りたい」と同じ意味になるがアイヌ語は具体的に聞こえる【(金444)】

7952 ukoyairaike ウコ ヤイライケ 相共に感謝する 感謝し合い、			
7953 ukeuhumshuba. ウケウフムシュバ 互いに魔払いの舞踏行進をする+(複数形語尾) 魔払いの声を発しながら行進しました。		9-6 私の無事を祝う育ての兄	
	7954 Kamui okkaipo hene p.177 カムイ オッカイポ ヘネ 神 男+(指小辞) ども 神の若者や		7971 oman-an chiki, オマナン(←オマン アン) チキ 行く・我は なら 行ったところ、
	7955 turesh turanno トゥレシ トウランノ 妹 と一緒に 御妹ごとも		7972 "Tureshpo !" ari トゥレシポ アリ 妹+(親称辞) と 『かわいい妹よ』と
	7956 a-ukoorkami, アウコ オンカミ 我らは・共に 拝礼する わたしたちは拝礼し合い、		7973 "Sambe !" ari サムベ アリ 心臓 と 『心臓よ』と
	7957 a-ukokewehumshuba アウコケウフムシュバ 我らは・互いに 魔払いの舞踏をする+(複数形語尾) 魔払いの舞踏行進をし、		7974 itak kane イタカ カネ 言う 状態で 兄さまは言って
	7958 a-koyairaikeba アコヤイライケバ 我らは・共に 自身を 恥しめる+(複数形語尾) 感謝し合い、		7975 i-shikoruye, イ シコルイエ 我を・自分 の方へしめつける わたしを抱きしめました。
	7959 a-kobuntekba アコブンテクバ 我らは・共に 喜ぶ、ねぎらう+(複数形語尾) 喜び合い、		7976 "I-resuyubi !" ari イレス ユビ アリ 我を・育てる その兄 と 『お兄さまあ!』と
	7960 a-ukonuiruyeba. アウコルイルイエバ 我らは・共に 撫でさする+(複数形語尾) 皆で撫でさすり合う挨拶を交わしました。		7977 itak-an kane イタカン(←イタカ アン) カネ 言う・我が 状態で わたしは言って
	7961 Utarpa※1 utar ウタラバ ウタラ 仲間 頭 たち 一族の長たちや		7978 temkor kashih※3 テムコロ カシ 手元、両腕の間 の上 兄上の膝に
	7962 rametok utar ラメトク ウタラ 胆力ある 者たち 勇者たちは		7979 a-chiobashbare アチ オバシバレ 我は・自身を opash '駆ける' 複数形+させる まわりつきました。
	7963 eashka エアッカ 本当に それこそ		7980 Shisak rametok シサク ラメトク 滅多にいない 勇者 たぐいまれなる勇者は
	7964 utamteshbare※2 ウタム テシバレ 互い太刀 tesu '反る' の複数形 させる 太刀で斬る動作を真似し合い、		7981 katune kane カトウ ネ カネ 常態 である 状態で ただふつうに
	7965 uopteshbare kane. ウオプ テシバレ カネ 互い槍 tesu '反る' の複数形 させる 状態だ 槍で突く真似をし合いました。		7982 chituyashkarp kuni p チトウヤシカラッ クニッ ~ことを 憐れむ はずの 者 可哀想に思うもの
	7966 Tanebo konna タネボ コンナ 今+(指小辞) こそ 今ようやく		7983 newa ne yakne ネワ ネ ヤクネ であって である ならば であるなら
	7967 shinu-an kane シヌアン カネ ざり歩く・我は 状態で わたしは膝まずき		7984 kotomkorkaiki, コトム コエカ イキ 似つかわしい けれども+物事 をする いいのに、
	7968 reye-an kane レイエ アン カネ はう・我は 状態で 這うように進んで、		7985 i-kurkashike イクルクシケ 我の・身体の上 わたしのからだの上に
	7969 I-resuyubi イレス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄さま		7986 tu nubur nube トゥ ヌブル ヌベ 二つの 濃い 涙 たくさん熱い涙
	7970 samake ta サマケ タ 側 の所 に のそばに		7987 re nubur nube レ ヌブル ヌベ 三つの 濃い 涙 数々の熱い涙をはらはら
			7988 eranke kane エランケ カネ そこに 落とす 状態で 落としながら

※1 utar-pa <族・長> 一堂の首、統領、酋長(金1-378)、頭首、主長(研496)】

※2 opteshpare / tamteshpare 「矛を以て突くまねをする ukewehomshu の式の動作/太刀を以て切るまねをする式の動作(研942)、<刀・tesu 反らす>の複数形・させる」> 刀の背で切るまねをして會釋をする意。この會釋の仕方は、何れの詞曲にも見えることで古い習慣であったものらしい。

※3 a-temkoro / chiobashbare 《萱野茂訳》「私に抱かざっていたと思うと/走り回り(教25-28)、私の膝に私の腕に/まわりつきつつ(教25-31)】

7989 i-keuhumshu.※1
イクウ フムシュ
我に 無事の見舞いを言う
わたしの無事を祝いました。

9-7 育ての兄の詳述

7990 Chise shikno
チセ シクノ
家 いっぱいに
家いっぱいに

7991 okai utar,
オカイ ウタラ
いる 人々
詰めていた人々、

7992 okkayo otta
p.178 オッカヨ オッタ
男子 に於ても
男性陣も

7993 matutar otta
マトウタラ(←マツ ウタラ) オッタ(←オロ タ)
女性 たち の所 で
女性たちも

7994 tanebo konna
タネ ボ コンナ
今+(指小辞)こそ
たった今はじめて

7995 ainu orushbe
アイヌ オルシベ
人間 に関する事柄
人間に関する話を

7996 nuba kuni p
ヌバ クニ フ
聞く+(複数形語尾)はずの 者
聞いた者は

7997 shino ukoiyokunurba
シノ イヨクヌルバ(←イ オクヌレ バ)
本当に 人を 驚きあきれ さす+(複数語尾)
本当に驚きあきれ、

7998 ashirikinne
アシリキンネ(←アシリ イキリネ)
新たな 列 に
またあらためて

7999 i-keuhumshu-an,
イクウ フムシュ アン
我に 無事の見舞いを言う・人々は
わたしの無事を祝し、

8000 inne utar
インネ ウタラ
大勢の 人々
大勢のひとたちが

8001 i-tubeshnu.
イトウベシヌ
我に・同情する
わたしに同情しました。

8002 lyochi um mat
イヨチ ウム(←ウン) マツ
イヨチ に住む 女性
イヨチ姫は

8003 eashka
エアッカ
本当に
それこそ

8004 chish turano
チシ トウラノ
泣く と共に
泣きながら

8005 "Matakpo !"ari
マタッポ アリ
妹+(親称辞)と
『可愛い妹よ!』と

8006 itak kane
イタッ カネ
言う 状態で
言いながら

8007 i-eshikari.
イ エシカリ
我を 抱む 今にもそうしようとする
わたしの肩を抱きしめました。

8008 Aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつ ても
わたしも

8009 'Sapo!'ari
サポ アリ
姉+(親称辞)と
「お姉さまあ」と

8010 itak-an kane,
イタカン(←イタッ アン) カネ
言う・我が 状態で
言って、

8011 utashba
ウタッバ
相互い
お互いに

8012 ueshikarba-an
ウ エシカラバ アン
互い eshikari 'つかまえる'+(複数語尾)・我らは
ひとと抱き合い

8013 uruiruiba-an
ウルイルイバ アン
互いに 撫でさする+(複数語尾)・我らは
撫でさすり合う挨拶を交わし

8014 kane, boronno
カネ ボロンノ
状態で たくさん
ながら、精一杯

8015 a-koyairaike kane,
ア コヤイライケ カネ
我らは・共に 感謝する 状態だ
感謝し、

8016 ashirikinne sui
アシリキンネ(←アシ)イキリネ) スイ
新たな 列 に 再び
あらためてまた

8017 i-keuhumshu,
イクウ フムシュ アン
我に 無事の見舞いを言う
わたしの無事を祝しました。

8018 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは

8019 tuwan onkami
トゥワン オンカミ
二十の 拝礼
何十回もの

8020 rewan onkami
レワン オンカミ
三十の 拝礼
拝礼

8021 ukakushte kane
ウ カクシテ カネ
互いの 上を通過させる 状態で
を重ねて

8022 i-kotchake ta
イコッチャケ タ
我ら・前 で
わたしたちの前で

8023 boronno
ボロンノ
たくさん
大勢の

8024 lyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびとの

8025 usakor kane
ウ サコロ カネ
互い 姉を持つ 状態で
義兄弟姉妹たち

8026 koyairaike,
コヤイライケ
共に 感謝する
に感謝し、

※1「kewe homsu【連他動】<～の体・危なかったことの見舞いを言う>…(なんとか無事に切り抜けたときに)」:(田299)

8027 usa bishkani※1
ウサ ビシカニ
色々な その周囲
いろいろとまわりに

8028 koinne kane.※2
コインネ カネ
に対して、に向って
筋道を立てて詳しく述べました。

※1 「usa bishkani<色々な めぐり>四方の所、あちこちあらゆる周囲のところ」(金 I-347)、usa bishkani/koinne kane「諸般にわたり/条理を尽して」(金 I-380)。

※2 「koinne に対して、に向って」(金 I-347)。

第10章 酒宴の始まり

10-1 盛大な酒宴

- 8029 Tap orowa
タッ オロワ
それ から
それから
- 8030 tanne chikupso
タンネ チクプソ
長い われら 飲む物(=酒) 席
ずらっと酒宴の座が
- 8031 chishiturire.
チシトゥリレ
ている 自分を 伸ばさせ
並びました。
- 8032 Chikupso※1 bake
チクプソ バケ
酒席 上端
うたげの席のかみの端も
- 8033 chikupso kese
p.179 チクプソ ケセ
酒席 下端
うたげの席のしもの端も
- 8034 homar kane
ホマラ カネ
かすかな 状態だ
ぼんやりかすんで見えるほどです。

10-2 主賣の案内

- 8035 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 8036 oshisoun
オシソ ウン
その尻が 右座 に向く
右座の
- 8037 abeteksama※2
アベ テッサマ
火のすぐ傍
炉端に
- 8038 a-earekar.※3
ア エアレ カラ
人々は そこに 座らせる
座らせられました。
- 8039 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8040 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方は
- 8041 pirika ashke
ピリカ アシケ
礼儀正しい 手を
礼儀正しく丁寧に手を
- 8042 a-riknabuni
アリクナブニ
人々が 高い 方へ 持ち上げる
執られ
- 8043 shintoko oshmak
シントコ オシマク
行器 後ろ
行器の後ろの席に
- 8044 a-eainukor.
ア エアイヌコロ
人々は そこで 敬う
主賣として案内されました。
- 8045 Kirsamake
キリサマケ
皿のそば、の側の所
その隣の席に
- 8046 Kurorani un kuru
クローラニ ウン クル
クローラニに住む お方
クローラニウンクル
- 8047 kamui okkaipo
カムイ オッカイポ
神 男+(指小辞)
神の若者が
- 8048 an-eare.
アネアレ(←アン エアレ)
人々は そこに 座らせる
座らせられました。
- 8049 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 8050 hoshki tuk be
ホシキ トウク ベ
最初に 生えた 者
年長者
- 8051 ne i kusu,
ネ イ クス
である こと 故に
故

- 8052 ene ene
エネ エネ
こう こう
かくかくしかじかと
- 8053 hoshkino
ホシキノ
最初に
まず最初に
- 8054 a-nomi kamui
アノミ カムイ
我らが・祈る 神
われらが祭る神々の
- 8055 a-nomi kuni
アノミ クニ
我らが・祈る べき
祭りかたを
- 8056 noeramam be
ノエラムム(←ノ エラムン) ベ
よくわかる 者
充分知っている者
- 8057 kone p ne kusu,
コネ ッ ネ クス
(調律、強調)である ものである 故に
だから、
- 8058 pon a-kor yubi
ボン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者
- 8059 ebakashnu.
エバカシヌ
について教える
に教えました。
- 8060 Pon a-kor yubi
ボン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 8061 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8062 uyaibekare,
ウヤイベカレ
互いに 自身を 向わせる
と向かい合って座り、
- 8063 orowano
オロワノ
それから
それから
- 8064 kamuinomi heashi.
カムイノミ ヘアン
神をまつる 顔を立てる
カムノミが始まりました。

※1 「chi-ku-p<吾々の・飲む・もの>、これがアイヌ語の酒といふ語。…so 席、座、床。chikupsho は酒の席」(研W346)

※2 原綴 Aebe teksama

※3 「a-re-kar<座ら・す・(他動詞語尾)>are のこと。また、are は ante と同じく<置く>である」(金VI-64)

10-3 酌と先祖供養

- 8065 Kanto orbakno
カント オロバクノ
天 内、所にまで
天の神々の所まで
- 8066 kamuinomi-an
カムイノミ アン
神をまつる・我らは
わたしたちは御神酒を捧げて祈禱し
- 8067 inauebuni-an
イナウ エブニ アン
木幣をそこに持ち上げる我らは
イナウ(木幣)を捧げました。
- 8068 Chikupso utur
チクッソ ウトゥル
酒席間
宴席のあいだを
- 8069 an-erututke
アネルトウツケ(←アン エルトウツケ)
我は・そこをまわって行く
わたしはあちこちまわって
- 8070 anipontari
アニ ポンタリ
手に持つほだり
手に持つ片口の鍬子
- 8071 aneshiyarok-
アネシヤラボク(←アン エシ ヤラボク)
我は・それを自分の脇の下に
を自分の胸の脇に
- 8072 amba kane,
アムバ(ani複) カネ
抱え持つ 状態で
ささげ持つて
- 8073 iyomare-an,
イヨマレ(←イ オマレ)アン
物を入れる・我は
酌をして歩きました。
- 8074 Tuima kamui※1
トウイマ カムイ
遠い 神
遠くにいる神々
- 8075 hanke kamui
ハンケ カムイ
近い 神
近くにいる神々
- 8076 a-tukiebishte
アトウキ エビシテ
我は・杯で数を揃える
それぞれにもわたしは盃を贈り
- 8077 a-inauebishte
ア イナウ エビシテ
我は・木幣で数を揃える
木幣を捧げ
- 8078 wa okere.
ワ オケレ
て 終える
終わりました。
- 8079 Okakean ko
オカケ アン コ
後になると
それが済むと
- 8080 makunekashii※2
マクン(←マク ウン) エカシ
奥にいる 祖父、翁
一番奥にいる先祖のお爺さまや
- 8081 makunhuchi※3
マクン(←マク ウン) フチ
奥にいる 祖母、媪
お祖母さま、

- 8082 sankeekashi
p.180 サンケ エカシ
前の方の 祖父、翁
最近亡くなって新しく先祖の列に連なった
- 8083 sanke huchi
サンケ フチ
前の方の 祖母、媪
祖父や祖母など
- 8084 shinrit utar
シンリツ ウタラ
先祖 たち
先祖たち
- 8085 obittano a-ko-
オビッタノ アコ
皆 我らは・共に
すべてへの
- 8086 shinurapba okere,
シヌラパバ オケレ
先祖祀り 終わる
先祖供養を終え、
- 8087 an-eramushinne.
アネラムシンネ(←アン エラムシンネ)
我らは・それについて 安心する
一同ほっとしました。

10-4 楽しい酒宴

- 8088 Tap orowa
タッ オロワ
それ から
それから
- 8089 shisak tonoto※4
シサク トノト
滅多にない 酒宴
楽しい酒宴が
- 8090 a-ukomaktekka
ア ウコ マクテク カ
我ら 相共に maka '開ける' + さつと させる
始めました。
- 8091 Chikupso ka ta
チクッソ カ タ
酒席上で
宴席上では
- 8092 nishpa utar
ニシパ ウタラ
旦那 衆
一家の主人たち
- 8093 utarpa utar
ウタラ パ ウタラ
仲間 頭 衆
族長たちは
- 8094 shino nubetne wa
シノ ヌベツネ ワ
本当に 喜ぶ して
ほんとうに喜んで
- 8095 taban chikuphau※5
タバ(←タフ アン) チクフ ハウ
このような 酒盛り 声
酔えば歌う酒歌
- 8096 kotekarorepba,
コテコロレバ
に対して 手拍子する+(複数形語尾)
に手拍子を打ち、
- 8097 matutar ka ta
マトウタラ(←マツ ウタラ) カ タ
女性たち 上に
女性側は
- 8098 inne kuni p
インネ クニ ヲ
大勢の はずのもの
たくさんの人々が
- 8099 rimse hawe
リムセ ハウエ
舞踏 の声
舞う声々
- 8100 hechiri hawe
ヘチリ ハウエ
踊り、遊び の声
踊る声々
- 8101 oroneambe
オロネアムベ(←オロ ネアンベ)
全く+そのもの(強め辞)
- 元気よく
- 8102 bebunitara.
ベブニタラ(←ベブン イタラ)
ベブン(擬音)+ (状態が続いていることを表す接尾辞)
にぎやかで騒がしい。
- 8103 Anramasu
アンラマス(←アララマス)
全く心を魅了する
まったく面白く
- 8104 a-uwesuye kane.
ア ウウエスイエ カネ
我は・互いに それで 揺らす 状態だ
心楽しくわたしは感じました。

※1 《菅野茂訳》「遠くの神や/近くの神/それぞれに杯を贈りお祈りし」(教22-59)

※2 《梶野》先祖の翁(曾祖父以上の) (A486)

※3 原綴に huchi 欠落。

※4 「shisak tonoto は誰も荒い口をひとつきものなく喧嘩口論もなしに皆愉しく飲む」(研WS43)

※5 chikuphau 酔へは誰も酒歌(注: 沙流方言に sake-ha) 酒歌、酔歌といふもの、男子酒席に交互に起ちて舞ふときに口より發する聲のみありて文句なき一種の操音より成る唄、各人固有のものを有して興來る時にこれを口吟して主客歌を應ずもの」(研7-2)、chikup hau=sake hau は「一同よい気持ちになるとよくやり出す酔歌、必ずしも語にならず声の上下に止まることが多い。」(金 I-139)

- 8105 Tanebo konna
タネ ボ コンナ
今+(指小辞)(韻律を整えるために挿入する助辞)
今度こそ初めて
- 8106 sonno ainu buri
ソノ アイヌ ブリ
本当の アイヌ 作法
真のアイヌのしきたり
- 8107 tonoto buri
トノト ブリ
酒宴の 風習、やり方
酒宴のを仕方を
- 8108 a-nukar.
アヌカラ
我は・~を見る
わたしは見ました。

10-5 酒宴に感心する神々

- 8109 Kurorani un kuru
クローニ ウン クル
クローニ に住む お方
クローニウングル
- 8110 kamui okkaipo
カムイ オッカイ ポ
神 男+(指小辞)
神の若者は
- 8111 turesh turanno
トゥレシ トウランノ
妹 と一緒に
妹とともに、
- 8112 okai utar
オカイ ウタラ
いる 人々
一座の人々
- 8113 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 8114 sonno tanebo
ソノ タネ ボ
本当の 今+(指小辞)
本当に今初めて
- 8115 ainu buri
アイヌ ブリ
アイヌ 作法
アイヌのやり方
- 8116 ainu shinot
アイヌ シノツ
アイヌ 遊び
本式の唄や踊りを
- 8117 nukar※1 wa,
ヌカラ ワ
を見る して
見て、
- 8118 shino ekirorookai※2
シノ エキロロオカイ
本当に それを面白がる(←ekiroroan複数形)
本当に面白がり
- 8119 erayap kuni p
エラヤッ クニ ッ
それを感心する はずの 者
感心している
- 8120 kone p ne kusu
コネ ッ ネ クス
(調律、強調)である もの である 故に
ものだから、
- 8121 ramma sanchaka ta
ラムマ サンチャカ タ
いつも 出る口の上で
いつも唇の上に
- 8122 mina kane
ミナ カネ
笑う 状態で
ほほ笑みを浮かべて
- 8123 inne kuni p
インネ クニ ッ
大勢の はずのもの
大勢
- 8124 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
の上を
- 8125 uwambareba kane.
ウワムバレバ カネ
を観察する+(複数形語尾) 状態だ
眺めていました。
- 8126 Kamui ne kusu
カムイ ネ クス
神 である 故に
神ですから

- 8127 tunne
トゥン ネ
二人で
お二人だけ
- 8128 shinnai chikap ne
シンナイ チカプ ネ
p.181 別な 鳥 のように
違う鳥のように
- 8129 shinnai tori ne
シンナイ トリ ネ
別な 鳥 のように
異彩を放って
- 8130 i-y-eutanne.
イエウタンネ(←イ エ ウタラ ネ)
人と一緒に 仲間 になる
人々の仲間入りをしました。
- 8131 Makan ne ko
マカン ネ コ
どうか なる と
時には
- 8132 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつ ても
わたしも
- 8133 shinot otta
シノツ オッタ(←オロ タ)
歌 の所で
歌舞のところ
- 8134 iyeutanne-an,
イエウタンネアン(←イ エ ウタラ ネ アン)
人と一緒に 仲間 になる・我は
皆の仲間に入り、
- 8135 rimse atba
リムセ アツバ
踊り 初め
踊りの先頭
- 8136 hechiri atba
ヘチリ アツバ
歌を謡う 初め
歌の先頭に立って
- 8137 a-yubu kane.
アユブ カネ
我は・を締める 状態だ
引き締めました。
- 8138 I-bishkanike
イビシカニケ(←イ ビシカンイケ)
我の その周囲
わたしのまわりに
- 8139 kamui imeru
カムイ イメル
神の 稲光
神々しい光が
- 8140 uweshimaka.
ウエシマカ(←ウ エ シ マカ)
互いにそこで 自身 を開く、明るくする
照り輝いています。
- 8141 Chikupso ka ta
チクソ カ タ
酒 席上 で
宴席上では
- 8142 inne kuni p
インネ クニ ッ
大勢の はずのもの
たくさんの人々が
- 8143 katune kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 8144 i-reka kuni p
イレカ クニ ッ
我を・褒める はずのもの
わたしを称賛するの
- 8145 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であつ て である ならば
なら

※1 原綴 Nukarawa

※2 参考:「ekiroroan【他動詞】…複数はekirorooka…古い言葉、今はeramasuと言う。」(田90)

- 8146 kotomorkaiki
コトム コエカ イキ
似つかわしい けれども+物事 をする
いいのに、
- 8147 i-kurkashike
イクルカシケ
我らの・身体の上
わたしを
- 8148 shikomarbare,
シコマラバレ(←シク オマラバレ)
sh'komare 目を~に入れる'複数形
褒めそやし、
- 8149 shinnai chikap ne
シンナイ チカブ ネ
別な 鳥 のように
違う鳥のように
- 8150 shinnai tori ne
シンナイ トリ ネ
別な 鳥 のように
別な鳥のように
- 8151 iyeutanne-an.
イイエウタンネアン(←イ エ ウタラ ネ アン)
人と一緒に 仲間 になる・我は
わたしは皆と一緒に 謹い踊りました。

第11章 結ばれる一族

11-1 親類となり、飲み食いし合う

- 8152 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
さて、いまはもう
- 8153 chikup noshkike
チクッ ノシキケ
酒宴 真ん中の 所
宴たけなわまで
- 8154 chiomante kane.
チオマンテ カネ
自身を行かせる 状態だ
進んで来ました。
- 8155 Pon a-kor yubi
ポン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 8156 tuki rikikur-
トゥキ リキクル
杯 高所に-(助辞)
杯を
- 8157 bumba kane
ブムバ カネ
puni 'を持ち上げる' 複数形 状態で
高々と掲げて
- 8158 Iyochi um mat
イヨチ ウム(←ウン) マツ
イヨチ に住む 女性
イヨチ姫
- 8159 hotuyekar.
ホトウイエ カラ
叫び声をあげる-(他動詞化語尾)
を呼びました。
- 8160 Iyochi um mat
イヨチ ウム(←ウン) マツ
イヨチ に住む 女性
イヨチ姫は
- 8161 shino hornatu
シノ ホマトウ
本当に 驚く
本当に驚きましたが
- 8162 onibak rui be
オリバク ルイ ベ
懐み 激しい 者
懐み深い
- 8163 kone p ne kusu
コネッ ネ クス
(調律)-である 物 である 故に
ものだから、
- 8164 shinu kane
シヌ カネ
ずり歩く 状態で
膝まずき
- 8165 reye kane
レイエ カネ
はう 状態で
這うように進んで
- 8166 paye wa,
パイェ ワ
行く して
行って、
- 8167 tuki kurbok
トゥキ クルボク
杯 影下
杯の下
- 8168 koheboki
コヘ ボキ
に頭を下げる
に身をかがめ
- 8169 tuki uina
トゥキ ウイナ
杯 を取る
杯を受け取りました。

※1 この a が誰を指すのか不明。誤記と判断した。

- 8170 Tuki kurka
トゥキ クルカ
杯 の上
杯の上を
- 8171 a※1-koruiruye kane,
アコルイルイェ カネ
(?) に対して 何度もなでさする 状態だ
なでさすりながら
- 8172 Pon a-kor yubi
ポン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 8173 ene itaki;
エネ イタキ(←イタッ イ)
こう 言う こと
こう言いました。
- 8174 *Koninkar kusu!
コニンカラクス(←コン インカラ クス)
早く! 見る +(感嘆の助詞)
「これこれ、
- 8175 Iyochi um mat
イヨチ ウム(←ウン) マツ
イヨチ に住む 女性
イヨチ姫
- 8176 kamui katkemat!
カムイ カツケマツ
神の 淑女
神の淑女よ。
- 8177 Itak-an chiki
p.182 イタカン(←イタッ アン) チキ
言う・我が から
われの言うことを
- 8178 pirikano nu wa
ピリカノヌ ワ
よく 聞いて
よく聞いて
- 8179 i-kore yan!
イコレ ヤン
我に・与える なさい
ください。
- 8180 Tapne kane
タッネ カネ
このような 状態で
このように
- 8181 usa ikkewe
ウサ イクケウエ
色々な その原因
色々わけが
- 8182 okai rok kusu,
オカイ ロク クス
あつ た 故に
あつて
- 8183 uamkir-an.
ウアムキラ アン
互いに 見知る・我らは
われらは知り合った。
- 8184 Arkehe ta
アケヘ タ
半分-(所属形語尾) で
心の一方で
- 8185 sonno kamui
ソンノ カムイ
本当に 神の
まことに神々の
- 8186 renkaine ne
レンカイ ネ
意図+(挿入音)+として である
お陰である
- 8187 ari yainu-an wa
アリ ヤイヌ アン ワ
と 考える・我は して
とわれは考えて
- 8188 shino nubetne-an
シノ ヌベツネ アン
本当に 喜ぶ・我は
本当にわれは喜んだ

※2 uwebe「uwepe 親交する」(語法)

- 8189 ruwe ne.
ルウェ ネ
その事実 である
のです。
- 8190 Ikor ari
イコ アリ
宝物 でもって
刀や首飾りなどの
- 8191 tomi ari
トミ アリ
富 でもって
家宝の宝を
- 8192 echi-koyayattasa-
エチコヤヤッタサ
汝らに 返礼する
お礼に差し上げる
- 8193 an kasuno
アン カスノ
我が 以上に
よりも、
- 8194 otusui konna
オトゥスイ コンナ
幾つも重なる 二回 (語調)
何度も
- 8195 oresui konna
オレスイ コンナ
幾つも重なる 三回 (語調)
何度も
- 8196 a-ye i korachi
アイエ イ コラチ
我が・言う こと のごとく
われが言ったように
- 8197 neita bakno
ネイタ バクノ
どこ までも
いつまで
- 8198 ne yakka
ネ ヤッカ
であつても
も
- 8199 shineutanne
シネウタンネ(←シネ ウタラ ネ)
一つの 同胞 になる
親類として
- 8200 shineirwakne
シネ イリワクネ
一つの 兄弟姉妹 になる
義兄弟姉妹に
- 8201 okai-an wa,
オカイ アン ワ
ある・我らは して
なつて、
- 8202 uwebe※2-an
ウエベ アン
互いに 食べる・我らが
飲み食いしあい
- 8203 uwekatarotke-an i
ウエカタロツケ アン(←アン イ)
互いと仲がよい・我らは こと
仲良くして行くことが
- 8204 iyotta pirika
イヨッタ ピリカ
いちばん 良い
最もいい
- 8205 ruwe ne
ルウェ ネ
その事実 である
のです。
- 8206 Sonno ambe※3 anakne
ソンノ アムベ(←アン ベ) アナクネ
本当に あるもの、事 は
本当のところは、
- 8207 a-tureshipo
アトゥレシ ポ
我が・妹(指小辞)
わが可愛い妹が

※3 sonno ampe「本当のことは」(金 1-176)

8208 PonTeseu un kuru ボン テセウ ウン クル 小 テセウ に住む 男性 ボンテセウ彦一	8226 ramu yan ! ⁷ ari ラム ヤン アリ 思う なさい と され。こと	11-2 義姉と喜び合う私
8209 pon a-kor yubi ボン アコ ユビ 小 我・が持つ その兄 わが義兄の	8227 hawash chiki, p.183 ハワシ チキ 言う から おっしゃったから、	8241 I-resuyubi イレス ユビ 我を・育てる その兄 育ての兄さまは
8210 chibaroshuke チ バラ オ シュケ こと(名詞句形成接辞)+口 そこに 炊ぐ 煮炊き	8228 Iyochi um mat イヨチ ウム(←ウン) マツ イヨチ に住む 女性 イヨチ姫は	8242 inu rok be イヌ ロク ベ ものを聞いたもの わたしの婚約者の言葉を聞いて
8211 ekarkar kusu エ カラカラ クス ~をする ため をしてさしあげる	8229 sonno ramoshiwano ソンノ ラモシワノ(←ラム オシ ワノ) 本当に 心の中 から 本当に心から	8243 shino nubetne kuni p シノ ヌベツネ クニ ヲ 本当に 喜ぶ はずのもの ほんとうに喜んでいる
8212 ne p ne ruwe ネ ヲ ネ ルウエ である こと、もの である 事実 はずで	8230 nubetne rui be ヌベツネ ルイ ベ 喜び 強い もの 嬉しくてならない	8244 kone p ne kusu, コネ ヲ ネ クス (調律、強調)である もの である 故に ものだから、
8213 ne a koroka, ネ ア コロカ であった けれども あったが、	8231 kone p ne kusu, コネ ヲ ネ クス (調律)である もの である 故に ものだから、	8245 ikkeu konna*3 イクケウ コンナ 腰骨 が 腰のなかばまで
8214 panno ikkewe ボンノ イクケウエ 少し の原因 少々わけが	8232 yaisembir wa ヤイ セムビル ワ 自身の 陰 から 心の中で	8246 komkosamba コム コサムバ 折れ曲がる kosan. '急に~する'の複数形 深く曲げて
8215 an kusu, アン クス ある 故に あって、	8233 omina kane, オミナ カネ そこから 笑う 状態だ にこにこしながら	8247 mateonkami. マテオンカミ(←マツ エ オンカミ) 妻、嫁取りに関する 礼拝をする 妻に迎える承諾の礼拝をしました。
8216 a-renkaine ア レンカイネ 我が 意図+ (挿入音)+として われが勝手に	8234 tuki uina, トゥキ ウイナ 杯 を取る その杯を受け取り、	8248 Iyochi un kuru イヨチ ウン クル イヨチに住む お方 イヨチひと
8217 tapne irenka タツネ イレンカ このように 主張する このような考えを	8235 rikunruke*1 リクンルケ(←リク ウイルケ) 上 に置く 高きさげ	8249 kamui ne am be カムイ ネ アム(←アン) ベ 神 のように ある 者 神のようなお方
8218 kor-an yakka コラン(←コロ アン) ヤッカ を持つ・我が しても 持つても	8236 raunruke ラウンルケ(←ラ ウイルケ) 下 に置く 低きさげ	8250 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であった にしても も
8219 kamui bak カムイ バク 神 罰、罰する、が気に入らない 神罰が下ることは	8237 koonkami, コ オンカミ に 拝礼する 拝礼し、	8251 eashka sonno エアシカ ソンノ 本当に 真に それこそ本当に
8220 somoki nankor. ソモキ ナンコロ (否定)+する だろう ないでありましょう。	8238 ponno barkotukka ボンノ バラ コトゥッカ 少し 口をくっつける ほんの少し口をつけて	8252 keutum oshiwano ケウトウム オシ ワノ 心 その中 から 心から
8221 Tambe kusu タムベ(←タン ベ) クス このこと 故に それゆえ	8239 tap orowa タツ オロワ それ から から	8253 toiko nubetne shiri トイコ ヌベツネ シリ ひどく 喜ぶ その様 とても喜んでいることが
8222 pon a-kor yubi ボン アコ ユビ 小 我・が持つ その兄 わが義兄に	8240 emetu*2 エメトゥ 残す 土産用に飲み残しました。	8254 a-noeraman, アノ エラマン 人々はよくわかる はっきりわかり、
8223 tantewano タン テワノ 今 ここ から これからは		8255 tuwan onkami トゥワン オンカミ 二 十の 拝礼 何十回もの
8224 chibaroshuke wa チ バラ オシュケ ワ こと(名詞句形成接辞)+口 そこに 炊ぐ して 煮炊きして		8256 rewan onkami レワン オンカミ 三 十の 拝礼 拝礼
8225 i-kore kunak イコレ クナツ(←クン ヤツ) 人に・与える べきである ということ さしあげてくだ		8257 arukakushte. アルカクシテ(←アラウ カクシテ) 全く 互いの上を通過させる を重ねました。

*1 「unruke」とあるは、金成マツ女史のくせ(金 I -333)

*2 「酒席で大将から女性が呼ばれて pakeskore(一口飲んだ盃を差し戻されること)されると、女性は盃の下に頭をさげて受け取り、高く低く礼拝してから少し盃に口をつけ、その残りを emetu(土産に持ち帰る)するために postoko に空けてから空の盃を大将に返す。」(金 I -110~1)

*3 他の同文例(金 I 387)、(教25-57、120)では、konna が noshki(半ば、中央)となっている。

- 8258 Aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしも
- 8259 sonno chish turanno
ソノ チシ トウランノ
本当に泣くと一緒に
本当に泣いて
- 8260 nubetne-an.
ヌベツネ アン
喜ぶ・我は
喜びました。
- 8261 Ene hetapne
エネ ヘタッネ
こう かこれはまあ
なんとまあ
- 8262 a-koyairaike!
アコヤイライケ
我は・共に感謝する
ありがたいこと!
- 8263 Kashikeunsui
カシケ ウン スイ
その上に・(感動の強調)+ また
その上さらに
- 8264 pirika kashba ruwe
ピリカ カシバ ルウェ
美しい 過ぎる その様
あまりにも良すぎることに
- 8265 chioshiknuka
チ オシクヌカ
(名詞句を作る接頭辞、~こと)+恋慕う
お互いに親しみ
- 8266 a-kateomare humi
ア カテオマレ(←ア カツ エ オマレ) フミ
我らは 姿そこに入れる そのこと
好意をもって
- 8267 okai rok be,
オカイ ロク ベ
あつ たもの
いたお方を、
- 8268 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 8269 sonno a-kor sapo
ソノ ボン アコ サポ
本当の 小 我・が持つ 姉
まことの義姉
- 8270 ne hawe. Sonno
ネ ハウエ ソノ
になる という 本当に
なるそうです。本当に
- 8271 an-eyaikobuntek
アネヤイコブンテク(←アン エヤイコブンテク)
我は・~について 自分 のことを喜んでねざらう
わたしは喜んで
- 8272 "pon a-kor sapo!"
ボン アコ サポ
小 我・が持つ 姉
『お義姉さまあ』
- 8273 ari itak-an kane
アリ イタカン(←イタッ アン) カネ
と 言う・我は 状態で
と言って
- 8274 a-eshikari.
p.184 ア エシカリ
我は を抱む
義姉を抱きしめました。
- 8275 I-eshikari
イ エシカリ
我を を抱む
義姉はわたしを抱きしめ
- 8276 "Matakpo!" ari
マタクポ アリ
妹 と
『妹よ』と

- 8277 ashirikinne sui
アシリキンネ(←アシリ イキレ ネ) スイ
新たな 列 に 再び
あらためてまた
- 8278 uruiruye-an
ルイルイェ アン
撫でさする・我らは
撫でさすり合う挨拶を交わし
- 8279 uwenubetne-an.
ウウェヌベツネ アン
互いと共に 喜ぶ・我らは
喜び合いました。

11-3 クロラニびとの語り

- 8280 Kannaruino
カンナ ルイノ
再び+(強意)
ふたたびまた
- 8281 pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 8282 tuki rikikur-
トウキ リキクル
杯 高所に+(助辞)
杯を
- 8283 bumba kane,
ブムバ カネ
puni 'を持ち上げる' 複数形 状態で
高々と掲げて、
- 8284 Kurorani um mat
クロラニ ウム(←ウン) マツ
クロラニ に住む 女性
クロラニの
- 8285 pom menoko
ポム(←ボン) メノコ
若い 女
若い女性を
- 8286 hotuibakar
ホトウイバカラ
hotuyekar '呼び声をあげる' 複数形
を呼びました。
- 8287 Pom menoko shino
ポム(←ボン) メノコ シノ
若い 女 本当に
若い女性是非常に
- 8288 oribak kuni p
オリバク クニ プ
へりくだる べき 者
慎み深い
- 8289 kone p ne kusu
コネ ヲ ネ クス
(調律、強語)である ものである 故に
ものだから、
- 8290 shinu kane
シヌ カネ
ずり歩く 状態で
膝まずき
- 8291 reye kane
レイェ カネ
はう 状態で
這うように進んで
- 8292 baye wa
バイエ ワ
行く して
行って
- 8293 tuki uina.
トウキ ウイナ
杯 を取る
杯を受け取りました。
- 8294 Sui tuki kurka
スイ トウキ クルカ
再び 杯 の上
わたしの婚約者は再び杯の上を
- 8295 koruye kane
コルイェ カネ
に向かって なる 状態で
なでさすりながら
- 8296 ene itaki;
エネ イタキ(←イタッ イ)
こう 言う こと
こう言いました。
- 8297 "Koninkar kusu!"
コンインカクス(←コン インカラ クス)
早く! 見る +(感嘆の助詞)
『これこれ、

- 8298 Kurorani um mat
クローニ ウム(←ウン) マツ
クローニ に住む 女性
クローニ姫、
- 8299 kamui tureshpo !
カムイ トウレシポ
神の 妹+(親称辞)
神の妹よ。
- 8300 Itak-an chiki
イタカン(←イタッ アン) チキ
言っ・我が たら
われの言うことを
- 8301 pirikano nu yan !
ピリカノ ヌ ヤン
よく 聞く なさい
よくお聞きなされ。
- 8302 Kamui echi-ne kusu
カムイ エチ ネ クス
神 汝ら・である 故に
そなたらは神であるから
- 8303 sonno keutum pirika
ソノノ ケウトウム ピリカ
本当に 精神が 立派だ
まこと心根が立派で
- 8304 ormaskinno
オロ マシキンノ
全くあまりにも
あまりにも
- 8305 ainu kateomare
アイヌ カテオマレ(←カッ エ オマレ)
人間 姿 そこに入れる
人間を好きに
- 8306 echi-kiba shiri
エチ キバ シリ
汝らが・する+(複数形語尾) その様
なってきたことを
- 8307 sonno ramoshiwano
ソノノ ラモシワノ(←ラム オシワノ)
本当に 心の中 から
まことに心の底から
- 8308 a-eyairaike
ア エ ヤイライケ
我は・について 感謝する
われは感謝する
- 8309 ruwe ne.
ルウェ ネ
その事実 である
のであります。
- 8310 Kamui echi-ne a yakka,
カムイ エチネ ア ヤッカ
神 汝ら・である た としても
そなたらが神であつても、
- 8311 boro ikkewe
ボロ イッケウエ
大きな その原因
大きなわけが
- 8312 okai rok kusu,
オカイ ロク クス
あつ た 故に
あつて、
- 8313 tantewano
タン テワノ
今ここから
これからはもう
- 8314 lweutanne-an
ウエウタンネ(←ウ エ ウタラ ネ) アン
互いに それで仲間になる・我らは
仲間になり味方同士になる
- 8315 ruwe ne yakun,
ルウェ ネ ヤクン
その事実 である ならば
のであるならば、
- 8316 kamui buri
カムイ ブリ
神の 習慣
神々の風習や

- 8317 ainu buri
アイヌ ブリ
アイヌ 作法
人間のやり方は
- 8318 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなこと
- 8319 kone p ne kusu
p.185 コネ ッ ネ クス
(調律)であるもの である 故に
なので
- 8320 utomnukar
ウトム ヌカラ
互いの 体を見る
結婚し
- 8321 uhekotba ne kusu,
ウヘコツバ ネ クス
互いに 頭 kote 'をつなぐ' 複数形 である 故に
一緒に暮らすのだから、
- 8322 katkemat buri※1
カツケ マツ ブリ
高貴な 女性 の作法
淑女ぶりを
- 8323 pirika keutum kor wa,
ピリカ ケウトウム コロ ワ
立派な 精神 を持つ して
発揮して、
- 8324 lyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8325 shisak rametok
シ サク ラメトク
滅多にいない 勇者
たぐいまれなる勇者の
- 8326 chibaroshuke wa
チ バラ オシユケ ワ
こと(名詞句形成接辞)+ロ そこに 炊ぐ して
煮炊きをして
- 8327 chiomumbekare※2
チ オムムベカレ
~のこと 世話をする
お世話
- 8328 ekarkar wa
エカラカラ ワ
をする して
して
- 8329 i-kore kunak
イ コレ クナッ(←クン ヤッ)
人に・与える べきである ということ
くだ
- 8330 ramu yan !
ラム ヤン
思う なさい
され。
- 8331 Tap eashiri
タッ エアシリ
今 初めて
こうして今こそ
- 8332 kamui hoku
カムイ ホク
神の 夫
神の夫を
- 8333 e-kor kuni,
エ コロ クニ
汝が・を持つ べき、はず、
そなたが持てば、
- 8334 tu okkashi ta
トゥ オッカシ タ
ニ まだその上 に
何倍も
- 8335 re okkashi ta
レ オッカシ タ
三 まだその上 に
数倍も

- 8336 e-epirika※3 kusu ne
エ エピリカ クス ネ
汝がそれによってよくなる 筈 である
幸福になるはず
- 8337 ruwe taban. " ari
ルウェ タバン(←タッ アン) アリ
事実 これのことおりある と
なのだよと
- 8338 hawash awa,
ハワッ アワ
言う たところが
おっしゃったところ、
- 8339 pom menoko eashka
ポム(←ポン) メノコ エアシカ
若い 女 本当に
若い娘は本当に
- 8340 yayeramishkare※4 bakno
ヤイエラミシカレ(←ヤイ エラミシカレ) バクノ
自身 知らない ほど
今まで経験がないほど(?)
- 8341 shino nebetne
シノ ネベツネ
本当に 喜び
ほんとうに喜んでいる
- 8342 kone p ne kusu,
コネ ッ ネ クス
(調律、強語)であるもの である 故に
ものだから、
- 8343 yaisembirka-
ヤイセムビリカ
自身の 陰 上
心の中で
- 8344 omina kane
オミナ カネ
そこから 笑う 状態だ
ニコニコしながら
- 8345 tuki uina,
トゥキ ウイナ
杯 を取る
その杯を受け取り、
- 8346 rikunruke
リクンルケ(←リク ウイルケ)
上 に置く
高くささげ
- 8347 raunruke
ラウンルケ(←ラ ウイルケ)
下 に置く
低くささげて
- 8348 koonkami,
コオンカミ
に 拝礼する
拝礼し、
- 8349 ponno ku orowa
ボンノ ク オロワ
少し 飲む それから
ほんの少し口をつけてから
- 8350 iemetu
イエメトゥ
人に 残す
土産用に飲み残して
- 8351 utut ta arki.
ウトウツ(←ウトウル) タ アラキ
下座 に 来る
下座にきました。

※1「katke-mat puri<高貴な・婦人の風>淑女の振り合い」(金 I-412)

※2 chiomumbekare「めんどろを見てやる、世話をしてくれる」(金 I-412)、「オモンベカレ 大事にする」(金 182)

※3 原綴 Epiri のみ。

※4 参考: a-eramishkare「われ・知らない」(金 I-7)

11-4 喜び妻を迎えるイヨチびと

- 8352 Konepkeukata!
コネッ ケウ カタ
「調平」何 体 上 「感歎」
ああ、お可哀想に!
- 8353 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8354 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方は
- 8355 ene hetapne!
エネ ヘ タッネ
こう か これはまあ
あんなにもまあ
- 8356 a-wenrenkabi
ア ウェンレンカビ
我が・悪い 所存
わたしの行い
- 8357 okai kusu,
オカイ クス
ある 故に
のせいで、
- 8358 shukup okkaipo
シュクブ オッカイ ポ
若い 男(指小辞)
若者が
- 8359 arorkeshne※1
アロケシネ(←アラオロケシネ)
全く内末になる
ひそかに
- 8360 i-eyaikautum
イエ ヤイケウトウム
我に それで自分の 心情
わたしへの気分を
- 8361 wente ruwe
ウェンテ ルウェ
悪くする その様
害していることを
- 8362 arorkeshne
アロケシネ(←アラオロケシネ)
全く内末になる
そつと
- 8363 keutum otta
ケウトウム オツ タ(←オロ タ)
心 の所で
心の中で
- 8364 chituyashkarap
チ トウヤシカラフ
~ことを 憐れむ
あわれみ
- 8365 chieramboken
チ エラムボケン
~ことを 憐れむ
可哀想に
- 8366 a-ekarkar wa
ア エカラカラ ワ
我が・~をする して
わたしは思つて
- 8367 a-eramusarak humi
ア エラムサラク フミ
我は・それについて 気がかりだ その事
そんな心配事が
- 8368 okai rok awa,
オカイ ロク アワ
あつ た ところが
あつたのに、

- 8369 sonno kamui renkaine
ソノ カムイ レンカイ ネ
真に 神の 意図(挿入音)として
まこと神々のお陰で
- 8370 i-kor kuni i
イ・コロ クニ イ
我を・持つ はずの こと
わたしと結婚することとは
- 8371 poombebo ne,
ポオムベボ(←ポオンベボ) ネ
赤ん坊(強詠形)+(指小辞) のようだ
比べものにならないほどで、
- 8372 tu okkashi ta
トゥ オッカシ タ
ニ まだその上 に
それより何倍も
- 8373 re okkashi ta
レ オッカシ タ
三 まだその上 に
数倍も
- 8374 sonno tap eashiri
ソノ タッ エアシリ
本当に 今 初めて
本当にこれこそ
- 8375 ukotomnanka※2
ウコトム ナンカ
相 匹敵する 顔
お似合いのお顔
- 8376 ukotomshirika
ウコトム シリカ
相 匹敵する 容貌
お似合いのお姿で
- 8377 eikushtek※3
エイクシテク
それで物が通る ちよつと~する(?)
あまりにも(?)
- 8378 matepirika shiri
マテピリカ(←マッ エピリカ?) シリ
女性がそれで美しい? その様
お似合い(?)のご様子を
- 8379 a-nukar chiki,
アヌカラ チキ
我が・~を見る なら
見れば、
- 8380 shisak ramentok
シサク ラメトク
滅多にいない 勇者
たぐいまれなる勇者
- 8381 sonno keutumu
ソノ ケウトウム
真に その精神
精神のいいお方
- 8382 pirika p sone kusu,
ピリカ ヲソネ クス
いい 者 真である 故に
にちがいない、
- 8383 kamuikoinkar
カムイコ インカラ
神が ~に恵みを与える、守護する
神に守られている
- 8384 shiri nei katu
シリ ネイ カトウ
その様 その 有様
事情が
- 8385 a-noeraman.
アノエラマン
我は・よくわかる
はっきりわかりました。
- 8386 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと

- 8387 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方は
- 8388 inu rok be
イヌ ロク ベ
ものを聞いたもの
その言葉を聞いて
- 8389 sonno ne wa
ソノ ネ ワ
本当 である して
本当に
- 8390 kurka konna
クルカ コンナ
からだ が
頭の上が
- 8391 charkosamba
チャラコサムバ
まき散らす kosanu '急に~する' 複数形
ぼつとはじけ散つた
- 8392 semkorachi
セム コラチ
(強め辞)の如く
みたいに
- 8393 yainu kotomno
ヤイヌ コトムノ
思う らしい
思つたらしく
- 8394 a-ramu.
アラム
わたしが・思う
わたしには思われました。
- 8395 Ikkeu noshki
イクケウ ノシキ
腰骨 半ば、中央
イヨチびとは腰なかばまで
- 8396 komkosamba
コムコサムバ
折れ曲がる kosanu '急に~する' の複数形
深く曲げて
- 8397 mateonkami.
マテオンカミ(←マッ エ オンカミ)
妻、嫁取りに関する 礼拝をする
妻を迎える承諾の礼拝をしました。
- 8398 Shino nubetne ruwe
シノ ヌベツネ ルウェ
本当に 喜ぶ その様
ほんとうに喜んでいる様子が
- 8399 a-koeraman chiki,
アコエラマン チキ
人々は・~に對して 知る したら
一同に解つたから、
- 8400 tanebo konna
タネ ボ コンナ
今(指小辞)こそ
今こそはじめて
- 8401 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしも
- 8402 heseituriri※4-an
ヘセイトウリリアン
息を伸ばす伸ばしする・我は
ほつとしてフーツと息をつき
- 8403 sonno nubene-an,
ソノ ヌベツネ アン
本当に 喜ぶ・我は
ほんとうに喜び、
- 8404 boronno ramushinne-an
ボロンノ ラムシンネ(←ラム シリネ)・アン
たくさん 安心する(その心 大地になる)我は
大いに安心し、

※1 arorkeshne [ar-or-kes-ne <全く・内・末・になる> 全く内密に] (語彙)

※2 [u-kotom-nanka <相・匹敵する・顔/相・匹敵する・容貌>。…(研286)、似合いの夫婦だ(金Ⅲ278)]

※3 eikushtek [餘り過分ノ…例セバ、エイクシテクボロ、餘リ大キイ… Svr: Mashkin, Kashpa, J: B108]

※4 [hese-turi-ri <息を・伸ばし伸ばしする>《幌別、沙流、近文》安心して溜息をつ] (人39)

8405 shino a-kotuwashi※1 p.187 シノ アコトウシ 真に 我は・大丈夫だと思 もう大丈夫だと思いました。	8423 reye kane レイエ カネ はう 状態で 這うように進んで	8441 Ainu buri アイヌ ブリ アイヌ 作法 人間のやり方や
8406 Kamui okkaipo カムイ オッカイポ 神 男+(指小辞) 神の若者	8424 baye wa バイエ ワ 行く して 行って	8442 kamui buri カムイ ブリ 神の 習慣 神々の風習では
8407 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であった にし ても も	8425 tuki kurbok トゥキ クルボク 杯 影下 杯の下	8443 ene okai i エネ オカイ イ こう ある こと このようにして
8408 nebetne rui be ヌベツネ ルイ ベ 喜び 強い もの 嬉しくてならない	8426 kohebokiki kane コヘボキキ カネ に頭を下げる する 状態で 頭をさげて	8444 utomnukar ウトムヌカラ 互いの体を見る 結婚する
8409 kone p ne kusu, コネ ラ ネ クス (調律)である もの である 故に ものだから、	8427 tuki uina. トゥキ ウイナ 杯 を取る 杯を受け取りました。	8445 ne kusu, ネ クス である 故に のだから、
8410 oribak tura オリバク トウラ 畏れ慎むと共に 畏れかしこみつつ	8428 Tuki kurka トゥキ クルカ 杯 の上 わたしの婚約者は杯の上を	8446 Kurorani un kuru クローニ ウン クル クローニ に住む お方 クローニウングル
8411 tuwan onkami トゥワン オンカミ 二十の 拝礼 何十回もの	8429 koruye kane, コルイエ カネ に対して なでさする 状態で なでさすりながら、	8447 kamui okkaipo カムイ オッカイポ 神 男+(指小辞) 神の若者と
8412 rewan onkami レワン オンカミ 三十の 拝礼 拝礼	8430 "Koninkar kusu! コニンカラクス(←コン インカラ クス) 早く! 見る+(感嘆の助詞) 「これこれ、	8448 hekote wa ヘコテ ワ 頭をつなぐ して 連れ添って
8413 arukakushte. アルカクシテ(←アラウカクシテ) 全く 互いの上を通過させる を重ねました。	8431 a-tureshipo! アトゥレシポ 我が・妹+(指小辞) わが可愛い妹よ。	8449 pirikano ピリカノ よく 立派な
8414 Kannaruino カンナ ルイノ 再び(強意)- (副詞語尾) さらにまた	8432 e-nu korachi エヌ コラチ 汝が・を聞く ごとく そなたが聞いたように	8450 ainu buri アイヌ ブリ アイヌ 作法 人間の作法や
8415 pon a-kor yubi ポン アコエ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者は	8433 e-nukar korachi エヌカラ コラチ 汝が・を見る ごとく そなたが見たごとく	8451 katkemat buri p.188 カツケ マツ ブリ 高貴な女性 の作法 淑女ぶり
8416 tuki rikikur- トゥキ リキクル 杯 高所に+(助辞) 杯を	8434 tapne tapne kusu, タッネ タッネ クス これのように これのように 故に このとおりのわけで、	8452 kor wa コロ ワ 持つ して でもって、
8417 bumba kane ブムバ カネ puni 'を持ち上げる' 複数形 状態で 高々と掲げて	8435 tantewano タンテワノ 今ここから これからは	8453 chibaroshuke チバラオシユケ こと(名詞句形成接辞)+口 そこに 炊ぐ 煮炊き
8418 Otasam um mat オタサム ウム(←ウン) マツ 砂浜 側 に住む 女性 オタサム姫	8436 kamui ne okai be カムイ ネ オカイ ベ 神 のように ある 者 神のような方々と	8454 e-ekarkar kusu エエカラカラ クス 汝は・~をする ため をして
8419 a-matakipo アマタキポ 我・の妹-(親称接尾辞) わたしの義妹	8437 irwak ne イリワク ネ 兄弟姉妹 になる 義兄弟姉妹になり	8455 ki kusu ne na. キ クス ネ ナ する べきである ぞ さしあげるのだよ。
8420 hotuyekar ホトウイエ カラ 叫び声をあげる+(他動詞化語尾) を呼びました。	8438 a-kor utar ne アコロ ウタラ ネ 我が持つ 同族として わが一族に	8456 Okake ta オカケ タ 後 で その後で
8421 A-matakipo アマタキポ 我・の妹-(親称接尾辞) わたしの義妹は	8439 a-kon ruwe アコン(←アコロ) ルウエ 我は・を持つ その様 なるそのことを	8457 shinnaichise シンナイチセ 別な家 新婚用の別家を
8422 shinu kane シヌ カネ ずり歩く 状態で 睦まじき	8440 shino a-eyaikobuntek. シノ アエヤイコブンテック 真に 我は・~について 自分 のことを喜んでねぎらう 本当にわれは喜んでい	8458 chashi※2 tura チャシ トウラ 柵構えと共に 柵と一緒に

※1 kotuwashi「これなら大丈夫だとたのみに思つての意」(金Ⅲ-79)、otuwashi「誇りとする、e-kotuwashi-an われが汝に誇りとさせる」。(金Ⅰ-395)
 ※2 参考:「…chashi」は、chise「家」の叙事詩語のように言われもするけれど、ここにchiseとchashiとをならべて言っているch'seの方は震起する建物の方すなわち家屋で、chashiの方は昔の豪族の家が丘上に柵をめぐるしてあったその柵のことである。…chasniはchi-ashi-i<われわれ>が・建てた・もの>、すなわち「柵」(金Ⅰ314)

- 8459 atomtekar wa,
アトム テカラ ワ
人々が輝くさせる(他動詞語尾)して
美しく飾り付けさせて、
- 8460 orota echi-
オロタ エチ
そこに 汝らを
そこにそなたたちを
- 8461 okaite※1-an wa
オカイテ アン ワ
いさせる(?)・我らがして
住まわせて(?)
- 8462 rametok enishte※2
ラメトク エニシテ
勇者 それで強い
勇者をあてにし
- 8463 utarpa enishte
ウタarpa エニシテ
首領 それで強い
首領を頼りにして
- 8464 a-ki kuni i
アキ クニ イ
我らは・をする はずの こと
安心していること、
- 8465 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
われも
- 8466 shino nubetne-an
シノ ヌベツネ アン
本当に 喜ぶ・我は
本当に喜ぶ
- 8467 ruwe ne. ari
ルウェ ネ アリ
その事実 である と
のであります。【と
- 8468 hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
おっしゃったから、
- 8469 a-matakipo
アマタキ ポ
我・の妹+(親称接尾辞)
わたしの義妹は
- 8470 eashka nubetne rui
エアツカ ヌベツネ ルイ
本当に 喜び 強い
本当に非常に喜んで
- 8471 kuni p ne kusu,
クニ ヲ ネ クス
害なものである 故に
いるものだから、
- 8472 yaisembirka-
ヤイセムビリカ
自身の 陰 上
心の中で
- 8473 omina kane
オミナ カネ
そこから 笑う 状態だ
にこにこしながら
- 8474 tuki rikunruke
トゥキ リクンルケ(←リク ウイルケ)
杯 上に置く
受け取った杯を高くささげ
- 8475 raunruke
ラウンルケ(←ラ ウイルケ)
下に置く
低くささげて
- 8476 koonkami,
コオンカミ
に 拝礼する
拝礼し、
- 8477 ponno ku orowa
ボンノ ク オロワ
少し 飲む それから
ほんの少し口をつけてから
- 8478 emetu
エメトゥ
残す
土産用に飲み残し
- 8479 utut ta arki.
ウトウツ(←ウトウル) タ アラキ
下座 に 来る
下座に来て
- 8480 uwenubetne-an.
ウウエヌベツネ アン
互いと共に 喜ぶ・我らは
わたしたちは喜び合いました。
- 8481 Kurorani un kuru
クロラニ ウン クル
クロラニ に住む お方
クロラニウングル
- 8482 kamui okkaipo
カムイ オッカイポ
神 男+(指小辞)
神の若者も
- 8483 shino nubetne
シノ ヌベツネ
本当に 喜び
ほんとうに喜びが
- 8484 rui kuni p
ルイ クニ ヲ
激しい はずの もの
激しい
- 8485 kane p ne kusu,
コネ ヲ ネ クス
(調律)である ものである 故に
ものだから、
- 8486 tuwan onkami
トゥワン オンカミ
二十の 拝礼
何十回もの
- 8487 rewan onkami
レワン オンカミ
三十の 拝礼
拝礼
- 8488 arukakushte kane
アルカクシテ(←アラ ウカクシテ) カネ
全く 互いの上を通過させる 状態で
を重ねて
- 8489 mateonkami.
マテオンカミ(←マツエ オンカミ)
妻、嫁取りに関する 礼拝をする
妻を迎える承諾の礼拝をしました。

※1 okaite—文例にshikookaite<自分・の方に・an' いる'の複数形・させる> Tap okai be/kamui ewaki ta/a-shikookaite/eaikap. 「こんな者は/神居に/置いて/おけない。」(教34-48)一がある。a-shikoante ka/eoribak《萱野茂訳》「一緒に置くのが/済まないの」(教XVI-148)

※2 enishte【他動詞】e-niste<〜で・強い>〜を頼りに(あてに)して安心している」(田100)、「力にする、頼りにする」(置146)、rametok enishte/utarpa enishte/a-ki ruwe okai chiki《萱野茂訳》「勇者たちが力になる者/首領たちが/いることを知り」(教23-133)

第12章 宴の終幕

12-1 私へと詫びるオタサムびと

- 8490 *lyotta iyoshino sui*
イヨッタ イヨシノ(←イ オシ ノ) スイ
いちばん 人の後から+副詞語尾: また
一番最後に再び
- 8491 *pon a-kor yubi*
ポン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 8492 *tuki rikikur-*
トウキ リキクル
杯 高所に-(助辞):
杯を
- 8493 *bumba kane*
p.189 ブムバ カネ
puni 'を持ち上げる' 複数形 状態で
高々と掲げて
- 8494 *i-hotuyekar.*
イ ホトウエイ カラ
我に・叫び声をあげる+(他動詞化語尾):
わたしを呼びました。
- 8495 *Oribak tura*
オリバク トウラ
畏れ慄むと共に
畏れかしこみつづ
- 8496 *shinu-an kane*
シヌ アン カネ
ずり歩く・我は 状態で
わたしは膝まづきながら
- 8497 *reye-an kane*
レイエ アン カネ
はう・我は 状態で
這うように進んで
- 8498 *oman-an wa,*
オマナン(←オマン アン) ワ
行・我は して
行って、
- 8499 *tuki kurbok*
トウキ クルボク
杯 影下
杯の下
- 8500 *kohebokiki kane*
コヘ ボキキ カネ
に頭を下げる する 状態で
で頭をさげて
- 8501 *tuki a-uina.*
トウキ アウイナ
杯 我は・を取る
わたしは杯を受け取りました。
- 8502 *Tuki kurka*
トウキ クルカ
杯 の上
わたしの婚約者は杯の上を
- 8503 *i-koruiruye kane,*
イ コルイルイェ カネ
我に向かってなでさする 状態で
なでさすりながら、
- 8504 *"Koninkar kusu!*
コニンカラクス(←コン インカラ クス)
早く! 見る+(感嘆の助詞):
「これこれ、
- 8505 *a-tureshipo!*
アトウレシポ
我が・妹+(指小辞)
わが可愛い妹よ。
- 8506 *Nekona tapne*
ネコナ タプネ
どのように こう
どんなにかまあ

- 8507 *keutum otta*
ケウトウム オッタ(←オロ タ)
心 の所で
心の中で
- 8508 *e-i-ebokba※1 humi*
エイエボクバ フミ
汝は・我を・憎む そのこと
そなたはわれを恨んだり
- 8509 *chikoyayomap*
チコヤヨマフ(←チ コ ヤイ オマフ)
~ことに対して 自身 を愛する
わが身をなさけなく
- 8510 *e-i-yekarkar humi*
エイエカカラ(←エイ エカカラ) フミ
汝が我にそれをする その事
思うことが
- 8511 *okai nankor'a!?*
オカイ ナンコラ(←ナンコ ヤ)
ある だろう か
あったのではないだろうか。
- 8512 *Nep ne yakka*
ネッ ネ ヤッカ
何であつても
何であれ
- 8513 *annitnekamui*
アン(←アラ) ニツネ カムイ
全く 頑固な 神
全く極悪な神
- 8514 *wen sermaka※2*
ウエン セレマカ
悪い sermak '守り神'+(所属形語尾):
悪い守護神が
- 8515 *chinubure※3*
チヌブレ
自身を現すさせる
現れてそなたに憑き(?)、
- 8516 *tambe kusu*
タムベ(←タン ベ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 8517 *ene ouse itak*
エネ オウセ イタク
こう ただの 言葉
あのようにただ言葉だけで
- 8518 *iki a yakka,*
イキ ア ヤッカ
それをした としても
あったにしても、
- 8519 *chieramunishte*
チエラム ニシテ
こと~について 心を堅くさせる
そなたが強情を張つ
- 8520 *e-ekarkar*
エエ カカラ
汝は・~をする
汝
- 8521 *haweokai roki*
ハウエオカイ ロキ(←ロク イ)
声ある た ところ
しゃべったことを
- 8522 *tane ne yakka*
タネ ネ ヤッカ
今 である しても
今でも
- 8523 *a-oira somoki.*
アオイラ ソモキ
我は・を忘れる しない
われは忘れない。
- 8524 *Sonno chituyashkarap*
ソンノ チトウヤシカラ
本当に ~ことを 憐れむ
まこと可哀想なことを

- 8525 *e-ekarkar-an*
エエカカラ アン
汝に・~をする・人が
そなたにさせた(?)
- 8526 *ruwe ne.*
ルウェ ネ
その事実 である
のだ。
- 8527 *lyochi un kuru*
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8528 *shisak rametok*
シサク ラメトク
滅多にいない 勇者
たぐいまれなる勇者
- 8529 *newa ne yakka*
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
も
- 8530 *keutum kashi*
ケウトウム カシ
気持ち の上
気持ちの上では
- 8531 *sonno a-eyakataikap*
ソンノ アエヤカタイカフ
本当に 我は・それについて 気の毒だ
まことにお気の毒で
- 8532 *sonno a-eramboke yakka*
ソンノ アエラムボケン ヤッカ
本当に 我は・憐れむ しても
本当にお可哀想に思うが、
- 8533 *tumunchi buri*
トウムンチ ブリ
戦さ 風習
戦いのやりかた
- 8534 *rorumbe buri*
ロルムベ ブリ
戦い 習慣
戦さの方法とは
- 8535 *ene okai i*
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなものだから
- 8536 *kamui ne yakka*
カムイ ネ ヤッカ
神 である しても
神々はもとより
- 8537 *a-obittano*
アオビッタノ
我ら・全て
われらすべてが
- 8538 *a-keutumu*
p.190 アケウトウム
我が・その心
わが気持ちを
- 8539 *eramokai*
エラムオカイ(←エラム オカイ)
~に関して 心ある
ご承知な
- 8540 *ruwe ne.*
ルウェ ネ
その事実 である
のです。
- 8541 *Tane anakne*
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 8542 *kamui renkaine*
カムイ レンカイネ
神の 意図-(挿入音)+として
神のお陰で(神の意志によって)

※1 e-i-epokpa humi「お身がわたしを怨むこと(脚注: epokpa<責める, 憎む>…」(金I-156)
 ※2 sermaka「(名詞)~の背後」(脚注: moshir sermaka/nitne kamui「國の護りの/魔の神」(脚注: 777))
 ※3 chinupure「chi-nupure「みずから起こってくる」(金III-253); chi-nupure<自身・預言させる>預言に出る、あられる。日高方言なら chi-shi-pusure<自身取り出さず>また起こってくる」(金IV-134)Teeta arap sanri kese chinupure wa nawash hawe ne-ni tapan na「むかし有りたる事の 世の末に また起こり来たれる」(研

- 8543 nep ne yakka
ネ ヌ ヤッカ
何であつても
何ごとでも
- 8544 ikkewe an
イクケウエ アン
理由、訳、原因 ある
わけがあり、
- 8545 eraman wa
エラマン ワ
わかる して
それが判明してから
- 8546 tap korachi
タッコラチ
このごとく
このように
- 8547 kamui ne yakka
カムイ ネ ヤッカ
神 である しても
神でも
- 8548 irwak ne
イリワク ネ
兄弟姉妹 として
義兄弟姉妹に
- 8549 a-kor eashkai
アコロ エアシカイ
我らを持つ ~でできる
持つことができる。
- 8550 Eikushtek
エイクシテク
それで物が通る ちよつと~する(?)
あまりにも(?)
- 8551 kamuikoinkar-an
カムイコ インカラ アン
神が ~に恵みを与える、守護する・人が、我らが
神のご加護があり
- 8552 kasui, tapne
カスイ タッネ
過ぎる このように
過ぎるこのような
- 8553 nei katu anakne
ネイ カトゥ アナクネ
その有様 は
出来事は、
- 8554 a-obittano
アオビッタノ
我ら・全て
われらすべてが
- 8555 pirika keutum
ピリカ ケウトウム
立派な 精神
よい精神を
- 8556 a-kor wa kusu ne.
アコロワ クス ネ
我ら・を持つ して 故 である
持っていたからだ。
- 8557 Chinomikamui※1 utar
チノミカムイ ウタラ
我らが拝む 神 たち
われらが拝む神々が
- 8558 nisap hosarba
ニサプ ホサラバ
急に 振り向く(複数形語尾)
急に振り向き
- 8559 nisap inkar
ニサプ インカラ
急に 見る
急に見ることが
- 8560 somoki wa
ソモキ ワ
(否定) する して
無かつ
- 8561 ne a yakka,
ネ ア ヤッカ
であつた としても
たととしても、
- 8562 annitnekamui utar
アン(←アラ) ニツネ カムイ ウタラ
全く凶悪な 神 たち
極悪な神たちが
- 8563 nekona hene
ネコナ ヘネ
どのように でも
たとえどのように
- 8564 atanan ainu utar
アタナン アイヌ ウタラ
普通の 人間 たち
ありきたりの人間たち
- 8565 orun irara
オルン イララ
の方へ 悪さをする、悪戯する、なめてかかる
に悪戯し
- 8566 chikoramnukar※2
チコラムヌカラ
~こと ~に 心を見る(ためす、試みる)
その力量を試
- 8567 iyekarkar yakka,
イイエカラカラ(←イ エカラカラ) ヤッカ
人に~をする ても
しても、
- 8568 moire yakka
モイレ ヤッカ
遅く ても
遅くはなつたが
- 8569 tap korachi※3
タッコラチ
このごとく
このように
- 8570 pirika kuni ne ne.
ピリカ クニ ネ ネ
良い よう になる
いいあんばいに収まった。
- 8571 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 8572 e-i-koirushka
エイコイルシカ
汝がわれに対して 怒る
そなたがわれを怒つて
- 8573 a yakka,※4
ア ヤッカ
た しても
いたとしても、
- 8574 chisaurere※5
チサウレレ
~こと 緩くなる させる
勸弁して
- 8575 chitusare※6 wa
チトウサレ ワ
~こと 蘇る させる して
許して
- 8576 shinrit itak
シンリツ イタク
祖先の 言葉
先祖の言葉
- 8577 kone p ne kusu,
コネ プ ネ クス
(調律、強調) であるもの である 故に
なのだから、
- 8578 katkemat keutum
カツケマツ ケウトウム
淑女 精神
淑女の心構え
- 8579 ainu buri
アイヌ ブリ
アイヌ 作法
アイヌのしきたりを
- 8580 eashkai wa,
エアシカイ ワ
に関して上手だ して
見事にやりこなして、
- 8581 taban tewano
タバ(←タッ アン) テワノ
今ここにある ここ から
これからはもう
- 8582 shinrit chise
シンリツ チセ
祖先の 家
先祖の家
- 8583 upsoroho
ウッソロホ
その懐
の奥深く
- 8584 ehorari wa,
p.191 エホラリ ワ
そこに 居る して
に落ち着いて居て、
- 8585 chibaroshuke
チバラオシユケ
こと(名詞句形成接辞) 口 そこに 炊ぐ
煮炊きをして
- 8586 chiomumbekare
チオムムベカレ
~のこと 世話をする
われの世話
- 8587 i-ekarkar wa
イエカラカラ ワ
我に~をする して
をして
- 8588 i-kore kunak
イコレ クナク(←クン ヤク)
我に~与える べきであるということ
くだ
- 8589 ramu yan !¹⁾ ari
ラム ヤン アリ
思う なさい と
され。』と
- 8590 hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
おっしゃったから、
- 8591 konepkeukata !
コネケウカタ
(調律) 何 体 上 (感動)
おおあわれ、
- 8592 konepkashita !
コネカシタ
(調律) 何 上 (感動)
ああ何と !
- 8593 Arwen kamui
アラウエン カムイ
全く悪い 神
極悪の神から
- 8594 kowenrenkabi
コウエン レンカビ
に對する悪い 裁量、意志
悪い術を
- 8595 okai kusu,
オカイ クス
ある 故に
かけられたせいで、
- 8596 chiukokeshke
チウコケシケ
~のこと 互いに 妬む
わたしたちが互いに妬み憎

※1 chinomi kamui 「ci-nomi-kamuy<われわれの・拝む・神>祭祀神」(金 I 193)、毎日礼拝する本當の神(火神・家神・口神・水神などを普通に祭祀神と呼ぶ。(金 I 207))

※2 ko-ram-nukar 「試む、ためす(研687)、心見る(金 I-164)。

※3 原綴 tapkora のみ。 ※4 原ノート綴りは「yak-」のみ。

※5 chisaurere 《菅野茂訳》「chi-saurere<私たち・ゆるめる>私を許す」(教24-132)。

※6 参考; chitusare wa/chihonnere wa…《菅野茂訳》「どうかお許し(分解訳:ch-i-tusare wa<私・治す して>)」(教VI-22)

8597 a-i-yekarkar,
アイエカラカラ(←ア イ エカラカラ)
人々が・我に・それを
み合うことをさせされ、

8598 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
かわるがわる

8599 a-ukokatun※1 shiri
アウコ カトウン シリ
我らは・互いに～のような態度をする その様
あのようなふりをさせられていたことを

8600 tap ene ene
タッ エネ エネ
今 こう こう
今ようやく

8601 nei katu
ネイ カトウ
その 有様
そのわけを

8602 a-eraman
ア エラマン
我が・知る
わたしが解った

8603 ruwe okai ko,
ルウェ オカイ コ
その様 ある と
のであつて(?)、

8604 rabokita
ラボキタ
その間に
そのうち

8605 Pon a-kor yubi
ボン アコ コビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が

8606 wen an shiri
ウエン アン シリ
みじめに ある その様
つまらない

8607 otui an shiri
オトウイ アン シリ
尻 切れている ある その様
取り柄のないわたしの様な者に

8608 chikoyayababu
チコヤヤバブ(←チ コ ヤイ アバブ)
～のこと～に 自身 悔いる
お詫びの

8609 i-yekarkar
アイエカラカラ(←イ エカラカラ)
我にそれを
言葉を

8610 haweokai chiki,
ハウエオカイ チキ
声 ある なら
おつしやるから、

8611 chikibonewa
チキボネワ
我ら する(指小辞)であつて
もう少しで

8612 "yuppo!" ari
ユッポ アリ
兄(親称接尾辞)と
『兄上さまあ!』と

8613 itak-an kane
イタカン(←イタッ アン) カネ
言う・我が 状態で
わたしは言つて

8614 temkor※2 kurka
テムコロ クルカ
腕 持つ 上
兄さまの両腕の間

8615 a-koyeyapkir
アコイエヤブキ(←ア コ エ ヤブキ)
我は・に向かつて そこへ 投げる
へ今にも飛び込み

8616 anke yainu-an,
アンケ ヤイヌアン
今にも～しように 考える・われは
そうになり、

8617 a-nanka konna
アナンカ コンナ
わが・顔 上 が
顔面に涙が

8618 chiunu※3 kane.
チウヌ カネ
水流 豊かな 状態だ
滝のように流れました。

12-2 兄から受ける酌

8619 Tam boro tuki
タム(←タン) ボロ トウキ
この 大きな 杯
兄さまはこの大きかつきが

8620 ikakashi
イカ カシ
越える 上
溢れんばかりに

8621 moinatara
モイナタラ
ゆっくり+(状態が続いていることを表す接尾辞)
なみなみと

8622 sake o kane.
サケ オ カネ
酒 を入れる 状態だ
酒を注ぎました。

8623 Oribak tura
オリバク トウラ
畏れ 慎む と共に
畏れかしこみながら

8624 a-uina wa
アウイナ ワ
我は を取る して
わたしは杯を受け取つて

8625 a-rikunruke
アリクンルケ(←リク ウイルケ)
我は 上 に置く
高くさげて

8626 a-koonkami
アコ オンカミ
我は・～に 拝礼し
拝礼し

8627 ponno a-ku orowa
ボンノ アク オロワ
少し 我は・飲む それから
ほんの少し口をつけてから

8628 a-emetu.
アエメウ
我は・残す
土産用に飲み残しました。

8629 Shisembir beka
シセムビル ベカ
自分の 後ろ で、から
振り向いて

8630 inkar-an ko,
p.192 インカラン(←インカッ アン) コ
眺める・我が と
見ると、

8631 konepkeukata!
コネッケウカタ
(調律)何 体 上(感動)
おお何と、

8632 konepkashita!
コネッカシタ
(調律)何 上(感動)
ああ可哀想に!

8633 pon a-kor yubi
ボン アコ コビ
小 我・が持つ その兄
わたしの兄さま

8634 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
も

8635 i-echutkonno
イエチュッコノ
我に それについて 異なる
わたしと違う

※1 ukokatun 《萱野茂訳》「u-ko-kat-un<互い・それ・ふり>ukokatun hawe口論したその拳げ句に(教23-12)、<互い・それ・姿・ある>いろいろないきさつ」(巻24-166)

※2 [tem-kor] <腕・持つ>両腕の間にもつ、抱擁する、手元(金Ⅱ-144)、腕をもつてかゝる、ひとかゝる(研W462)、胸と両腕の間(研692)。(人386)、(田711)

※3 chiunu|chiu-nu<潮・たくさん>顔の上が大水のやうになる(研769)、…顔の上をさんとぬらしたり、涙をながすこと(研944)、(金Ⅲ96)。「<波を・もつ>《近文》波立つ」(地22)

8636 yainu kuni p ヤイヌ クニ ヲ 思う はずの もの 考えをお持ち	8654 i-reka kuni p イレカ クニ ヲ 我を・憂める はずの もの わたしを称賛するの	8672 shum kina ne シユム キナ ネ しおれる 草 のように 萎れた草のように
8637 newa ne yakne ネワ ネ ヤクネ であって である ならば であったなら	8655 newa ne yakne ネワ ネ ヤクネ であって である ならば であるなら	8673 a-noikosanu, p.193 アノイ コサヌ 我は・よれる パツとする パツツと倒れ伏し、
8638 kotomkorkaiki, コトム コカ イキ 似つかわしい けれども+物事 をする いいのに、	8656 kotomkorkaiki, コトム コカ イキ 似つかわしい けれども+物事 をする いいのに、	8674 semkorachi セムコラチ そのような それと同時に
8639 sonno i-neno korachi ソノノ イ・ネノ コラチ 本当に 我に・同じである ように まるでわたしと同じ	8657 i-tukarikebo イトウカリケ ボ 我の・その手前+(指小辞) わたしの顔は直視せずに	8675 montumkiror ka モントウムキロロ カ 手力、腕力 も(上?) 腕の力も(?)
8640 yainu kuni p ヤイヌ クニ ヲ 思う はずの もの 気持ちな	8658 koshikerana- コシケラナ に向かって その目を 低い 方に 目を	8676 a-yaibosore※3 アヤイ ボソレ 我は・自身 を通る させる 抜けていって(?)
8641 kone p ne kusu, コネ ヲ ネ クス (調律、強語)である もの である 故に ものだから、	8659 atte kane アツテ カネ 掛ける 状態で 伏せていて、	8677 a-montum※4 konna アモントウム コンナ 我は・手力 こそ 何を する 力も
8642 an-an ruwe アナン(←アナン アン) ルウェ いる・我が その様 わたしの態度や	8660 utut ta※2 ek-an. ウトウツタ(←ウトウル タ) エクアン 下座 に 来る・我は 入口と炬との間の座席わたしは来ました。	8678 koshumnataru, コシユムナタラ 共に すぼむ+(持統懸語尾) 失せてしまい、
8643 iki-an shiri イキ アン シリ それをする・我が その様 しぐさを	8661 Pon a-kor yubi ボン アコロ ユビ 小 我・が待つ その兄 わたしの兄さまが	8679 tu beken nube トゥ ベケン(←ベケレ) スベ 二つの 清い 涙 わたしはいくつもの涙
8644 nukar chiki, ヌカラ チキ 彼が・を見る なら 見ると、	8662 tanebo konna タネ ボ コンナ 今+(指小辞) こそ 今こそはじめて	8680 re beken nube レ ベケン(←ベケレ) スベ 三つの 明るい 涙 たくさんの涙を
8645 shisak rametok シ サク ラメトク 滅多に いない 勇者 たぐいまれなる勇者の	8663 sonno keutum- ソノノ ケウトウム 本当に 心 ほんとうに心	8681 a-yaikoranke※5 tu beken nube 我は・自身 と共に 落とす はらはらと流しました。
8646 shikshut kashi シクシュツ(←シク スツ) カシ 眼・元 の上 目元が	8664 oshiwano オシ ワノ その中 から(?) から	
8647 ekobuyuse エコブユイセ そこから 共に 湿っていく、潤んでいく 見る見るうちに潤んできて	8665 ramoshiwano ラモシワノ(←ラム オシ ワノ) 心の中 から 心底	
8648 nubeo※1 kane. ヌベオ カネ 涙 が入る、が~にある 状態だ 涙があふれ出てきました。	8666 chisonnoramu チ ソノノラム こと 本当に 思う、考える 本当にわたしを想い	
8649 Tuki a-rura トゥキ アルラ 杯 我は・運ぶ 杯をわたしが持って来たときに	8667 chitoikoomap チトイコ オマツ こと ひどく 可愛がる わたしを大変愛して	
8650 tanebo konna タネ ボ コンナ 今+(指小辞) こそ 初めて	8668 i-yekarkar katu イイエカラカラ(←イ エカラカラ) カトウ 我に・をする その有様 くださっていることが	
8651 nohankeno ノハンケノ ごく近い+(副詞語尾) 間近に	8669 a-noeraman chiki, アノエラマン チキ 我は・よくわかる したら はっきりわかったから、	
8652 i-toikonukar be イトイコ ヌカラ ベ 我を+(強意)+見る 者 わたしを見たものの、	8670 sonno ramushinne- ソノノ ラムシンネ(←ラム シリネ)・ 本当に 安心する(その心 大地 になる) わたしはすっかり安心	
8653 katune kane カトウ ネ カネ 常態 である 状態で ただふつうに	8671 an kasui wa アン カスイ ワ 我は 過ぎる して しきって	

※1 nubeol 垂ふ[久178]、参考:nupe-ot「<涙(が)・たくさんある>涙がにじみ出る(語法)、「<涙(そこ)に出てくる>涙ぐむ、涙をためる」(田443)

※2 原綴はututのみで改行されていて、次行冒頭にtaは欠。

※3 yaibosore|yai-poso-re<自身を・通らしめる=通る>[金I-191]

※4 shinki montum/émontum konna/sumnataru。「疲れた腕ちから(脚注:<手・力>腕力)腕の力こそしびれてしまった。」[金II-380~1[金日一筆録、日言・沙流、銀沢ワカル(妻タウク/所伝カムイオイナ)、「mon-tum<手(?)・の中>体の具合/調子」(田393~4)]

※5 a-yaikoranke「<われ・自身と共に・落とす>はらはらと涙をながした意。(金I 74)、peken nupe…は nupun nupe<濃い 涙>すなわち熱涙滂沱などの熱涙の対。(金II 183)」

12-3 兄の謡う酒盛り歌

- 8682 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 8683 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 8684 Pon akor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの兄さまが
- 8685 kiba kusu ne p
キバ クス ネ ヲ
する+(複数語尾) べきであること
すべきことは
- 8686 obittano
オビッタノ
全部
すべて
- 8687 ki okere p
キ オケレ ヲ
する 終わる もの
やり終えたもの
- 8688 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、
- 8689 shino ramshinne.
シノ ラムシンネ(←ラム シリネ)
本当に 安心する(その心 大地 になる)
すっかり安心し
- 8690 shino nubetne kuni p
シノ ヌベツネ クニ ヲ
本当に 喜ぶ はずの もの
本当に喜んでる
- 8691 kone p ne kusu,
コネ ヲ ネ クス
(調律、強調)である もの である 故に
ものだから、
- 8692 rorunso kurka
ロルソノ(←ロロ ウンソ) クルカ
上座の上
- 8693 chiesanke
チエサンケ
自身をそこへ出す
に出てきて、
- 8694 ki chikuphau
キ チクフハウ
する 酒盛り 声
兄さまが謡う酒盛り歌は
- 8695 eraunkuchi-
エラウンクチ
それで下の喉
その喉奥で
- 8696 kamuinoye※1
カムイノイエ
神の如くひねる
節を面白くうねらせ、
- 8697 esambar kashi
エサムバラ カシ
それで口元、唇の上
唇の上から
- 8698 kamui riwak※2 ne
カムイ リワク ネ
神 が還る ように
神が昇天する時のように
- 8699 uwetunuisse,
ウエトウヌイセ
互いに 金属音を鳴らす
美しく響き合い、

- 8700 erorun wa
エロルン(←エ ロロウン) ワ
頭が横座へ から
横座から
- 8701 eurturun wa
エウトウルン(←エ ウトウルウン) ワ
頭が下座へ から
下座へと
- 8702 otu tapkaru
オトウ タフカラル
幾つも重なる二つの 舞踏 跡
何度も同じ動作を繰り返し
- 8703 ore tapkaru
オレ タフカラル
幾つも重なる二つの 舞踏 跡
幾度も繰り返し繰り返し
- 8704 arukakushte,
アルカクシテ(←アラウ カクシテ)
全く 互いの上を通過させる
次々と舞踏が重ねられ、
- 8705 horibi humi
ホリビ フミ
尻を上げる その音
飛び跳ねて踊るその音
- 8706 tumba humi
トウムバ フミ
刀の鐸 その音
刀鐸が触れ合う音は
- 8707 kani maine
カニ マイネ
金の 金属性の音響 のように
金のひびきのように
- 8708 tununitara.
トウヌニタラ(←トウトウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
澄んだ高い音を響かせています。
- 8709 Katkemat utar
カツケマツ ウタラ
淑女 たち
婦人たちは
- 8710 tun ren
トウン レン
二人 三人
二人三人と
- 8711 Pon akor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの兄さまの
- 8712 oshmake ush
オシマケ ウシ
背後 につく
後ろについて
- 8713 ehoripba,
エホリフバ
そこで horip '踊る' 複数形
踊り、
- 8714 euwohumse-
エウウオフムセ(←エ ウ オ フム セ)
そこで 互いにそこから フム という氣勢の声
一緒にフムと上げる
- 8715 echiuba hawe
エチウバ ハウエ
をさす+(複数語尾) その声
氣勢の声は
- 8716 oroneambe
オロネアムベ(←オロ ネアンベ)
全く+そのもの(強め辞)
元氣よく
- 8717 bebunitara.
ベブニタラ(←ベブン イタラ)
ベブン(発音)+状態が続いていることを表す接尾辞)
にぎやかで騒がしい。

12-4 婚約者の美しき歌舞

- 8718 Chikupso ka ta
チクフソ カタ
酒席上で
宴席上では
- 8719 utarpa utar
ウタラ バ ウタラ
仲間 頭 衆
族長たちが
- 8720 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者
- 8721 kurkashike
クルカシケ
身体の上
の方
- 8722 shikomarbare kane,
シコマラバシ(←シク オマラバシ) カネ
目を~に入れる させる 状態で
を見ながら
- 8723 tekoro repba,
テコロレフバ
手拍子する+(複数語尾)
手拍子を打ち、
- 8724 irhumsehau
イリフムセ ハウ
一続きのフムフム という声
一斉に挙げるおたけびや
- 8725 irhetchehau
イリヘツチエ(←ヘツセ) ハウ
一連のヘツヘツという声
一緒に挙げる鼓舞の声を
- 8726 ukoturba※3kane,
ウコトルバ カネ
互いに turi '伸ばす' 複数形 状態だ
差し伸べ合っていて、
- 8727 anramasu
アンラマス(←アララマス)
全く心を魅了する
まったく面白く
- 8728 a-uwesuye.
アウウエスイエ
我は・互いにそれで 揺らす
心楽しくわたしは感じました。
- 8729 Iyainumare!
イヤイヌマレ
我に自ら起き上がら せる
まあ驚いた!
- 8730 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者の
- 8731 pirika ruwe
ピリカ ルウエ
美しい その様
美しく立派なご様子は
- 8732 sonno riwak kamui ne
ソンノ リワク カムイ ネ
本当に 還る 神 のように
まこと祀られて 天に還っていく神
- 8733 riwak bito ne.
リワク ビト ネ
還る お方 のように
飾り祀られて昇天するお方のです。
- 8734 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が

※1 eraunkuchikanuinoye 「e-raun-kut-i-kamu'-noye <それで・下の・喉の・ところ/美しく・響る>とは、面白くふしをつけて歌う意」(金II-408)

※2 riwak 「傳承者自身の説明には riwak は還る、即ち神々が自分の役目が済んで自分の居る所へ帰る時には、よい音をたてて帰るそのやうにの意なりと。」(研624)

※3 原綴は行末が「ukotur-」だが次行冒頭にはすぐ「anramasu」と続く。(金II-190)を参照してba kaneを補填した。

- 8735 tapkar okere ko,
タップカ オケレ コ
舞踏 終ると
舞踏を終えると、
- 8736 onitasa※1
オニタサ
交代して
交代して今度は
- 8737 I-resuyubi hemem
イレス ユビ ヘネ
我を・育てる その兄 も
育てての兄さまや
- 8738 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8739 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方
- 8740 hemem
ヘメム
でも
も
- 8741 uwosakarba
ウオサカラバ
互いに尻 前 kari'を回る'複数形
代わるがわる交代
- 8742 wa tapkar.
ワ タプカラ
して 舞踏する
して踊りました。
- 8743 Inkinebe※2
インキネベ(←インキ ネ ッヘ)
どれである者か
どちらが
- 8744 shiretok otta
シレトク(←シラ, エトク) オッタ(←オロタ)
容子 先端 の所で
器量においても
- 8745 shibopke otta
シ ボッケ オッタ(←オロタ)
自身を 暖くする の所 で
衣装においても
- 8746 urabokkari wa
ウラ ボッカリ ワ
互いに低い所 下 回る して
優り劣り
- 8747 shiran nankor'a ?
シラン(←シリ アン)ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
様子 ある だろう か
するでしょうか。
- 8748 Ubak kamui ne
ウバク カムイ ネ
同じ程度の 神 になる
優劣つけがたい神のように
- 8749 ubakno
ウバクノ
互い ほど+(副詞語尾)
両方とも同じくらい
- 8750 pirika kashba,
ピリカ カシバ
美しい 過ぎる
たいそう立派で、
- 8751 an-eyaikiro-
アネヤイキロ(←アン エ ヤイ キロラン テ)
我ら・それについて 自身 を喜ば せる
わたしたち一同楽しい
- 8752 rante kane.
ランテ カネ
状態だ
思いをしました。

12-5 宴の終わり

- 8753 A-yubutari
アユブタリ(←ア ユブ ウタリ)
我が・兄 たち
わたしの兄さまたちは
- 8754 senne bakesh※3
センネ バケシ
決して~しない 飲み差しの盃
一口飲んだ盃を
- 8755 iyesarareba.
イイエサラレバ(←イ エ サラレ バ)
我に・それでもって 明ける させる(複数形語尾)
たえずわたしに差し出します。
- 8756 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8757 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方も
- 8758 senne bakesh
センネ バケシ
決して~しない 飲み差しの盃
口をつけた盃が
- 8759 iyesarare,
イイエサラレ(←イ エ サラレ)
我に・それでもって 明ける させる
空にならないようにわたしに差し出し、
- 8760 tuki kurka
トウキ クルカ
杯 の上
杯の上を
- 8761 i-koruye kane,
イコルイエ カネ
我に向かつて なる 状態で
なでながら、
- 8762 tu pirika itak
p.195 トウ ピリカ イタク
二つの 良い 言葉
たくさんのいい言葉
- 8763 re pirika itak
レ ピリカ イタク
三つの 良い 言葉
幾つものいい言葉を
- 8764 i-yekarkar,
イイエカラカラ(←イ エカラカラ)
我にそれを する
言ったださり、
- 8765 eashka
エアシカ
それこそ
本当に
- 8766 a-eramushinne.
ア エラムシンネ
我は・それについて 安心する
わたしはほっとしました。
- 8767 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育てての兄さまも
- 8768 senne bakesh
センネ バケシ
決して~しない 飲み差しの盃
たえず盃を

※1 onitasa「反対に(漢注 onitasa<反対に、逆に>か)」「(金Ⅵ-309)」「onuytasa ①~に代わる、~と交代する。…②交代して今度は」(田472)、「オヌイタサ 反対に…代わり(に~と交代して)」(産176)

- 8769 iyesarare,
イイエサラレ(←イ エ サラレ)
我に・それでもって 明ける させる
わたしに差し出し、
- 8770 okkeukurkan-
オクケウ クルカン
首 影上
首骨も見えなくなるほど
- 8771 isam※4 kane,
イサム カネ
無くなる 状態で
何度もうなずきながら、
- 8772 ponram otta
ボンラム オッタ(←オロタ)
小さい心 の所 で
幼いころ
- 8773 korachi
コラチ
の如く
のように
- 8774 otu henkuror
オトウ ヘンクロロ(←ヘン クルオロ)
重なる二つ 顔 陰の内
何度も何度も
- 8775 ore henkuror
オレ ヘンクロロ(←ヘン クルオロ)
重なる三つ 顔 陰の内
たくさんの笑顔を
- 8776 i-koanukar
イコ アヌカラ
我に・対して 置く
にこにこわたしに見せながら
- 8777 i-henkotba,
イヘンコツバ
我に・うなづく
うなづき、
- 8778 otusui konna
オトウ スイ コンナ
幾つも重なる 二回 (語調)
何度も
- 8779 oresui konna
オレスイ コンナ
幾つも重なる 三回 (語調)
何度も
- 8780 i-shikoruye,
イシコルイエ
我を・自分の方へ なでさせる
わたしをなでさせり、
- 8781 tu pirika kuni p
トウ ピリカ クニ ッ
二つの 良い はずの こと
たくさんのよきこと
- 8782 re pirika kuni p
レ ピリカ クニ ッ
三つの 良い はずの こと
いくつものよかるべきことを
- 8783 i-ebakashnu.
イエバカシヌ
我に・それについて 教える
わたしに教えました。
- 8784 Iyochi um mat
イヨチ ウム(←ウン) マツ
イヨチ に住む 女性
イヨチ姫
- 8785 pon a-kor sapo hene
ボン アコ サポ ヘネ
小 我・が持つ 姉 でも
わたしの義姉も

※2 inkinebe「…ものを意味する p 或は pe が、語尾に添ふ時、母音で終る語へは -p、子音で終る語へは pe である。此處 ne の後故 p でよい。pe になつてゐるのは、he が添つた為。但し、その h が前の子音 p に吸収されて聞こえなくなるのである。…」(研W413)」「研W572」(研821)」「研680」(研670)

※3 pakesh「pa-kesh<口・尻、末>飲みさしの杯。…神祈が終わったあとの酒杯は、乏を、その家の主婦に、或はそれからその祭の女等に、順々に女へ差して飲ます…(研W401)、大將は大盃の酒を一々飲み干さず、一口飲んで、その盃を女性に与えるのが儀礼(金1-03)、pakesh は酋長たちが愛する、あるいは敬愛する婦人へ差し与えるもの。それが pakesh-kore <盃を・与える>である。…」(金1103)」

※4 okkeukurkanisam「okkeu-kur-kan-isam<頸骨・影・末・無い><頸骨も無い>とは非常な誇張的表現で、実ほあごをもちやくちやに上下して、頭骨が折れてしまうほど振ったこと、愛情の深いさまの表現(金1-302)、<首・ほね・影・うら>首骨もなくなるほど首を上下してにこにこ顔を見せたこと(金Ⅱ-73)」

8786 Kurorani um mat hemem
クローニ ウム(←ウン) マツ ヘMEM
クローニ に住む 女性 も
クローニ姫も

8787 a-matakipo hemem
ア マタキ ポ ヘMEM
我・の妹+(親称接尾辞)も
義妹も

8788 obittano
オビッタノ
皆
全員が

8789 ukaun ukaun
ウ カウン ウ カウン
互に上にある 互に上にある
重ね重ねくり返し(?)

8790 a-kobakeshkorba p
ア コバケシ コロバ プ
人々が・に対し 盃を 与える+複数形語尾:もの
飲み差しの盃を与えられたもの

8791 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、

8792 bakesh uina kusu
バケシ ウイナ クス
飲み差しの盃 を受け取る ために
飲み差しの盃を受け取って

8793 semosoro(?)
セモンロ
(?)
(?)

8794 oshirika un kane.
オシリカ ウン カネ
(?) つく ている
(?)

8795 Tane shiribeker
タネ シリベケレ
今は 辺りの様子 明るい
今はもう夜明け

8796 ehanke.
エ ハンケ
そこに 近い
に近づきました。

8797 Inne utar
インネ ウタラ
大勢の 人々
一座の人々は

8798 tuwan onkami
トゥワン オンカミ
二十の 拝礼
何十回もの

8799 rewan onkami
レワン オンカミ
三十の 拝礼
拝礼

8800 arukakushteba kor
アルカクシテバ(←アラウカクシテバ)
全く 互いの 上を通過させる+(複数語尾)
をたくさん重ね

8801 kor boronno
コロ ボロンノ
ながら たくさん
て大いに

8802 yayiraikeba
ヤユイライケバ
感謝する+(複数語尾)
感謝し、

8803 obittano
オビッタノ
皆
一同が

8804 iwak okerba.
イワク オケンバ
帰る 終える
帰宅し終えました。

8805 Okake ta
オカケ タ
後 で
その後で

8806 sonno heru
ソンノ ヘル
本当に ただ~だけ
本当にただ

8807 shine utanne
シネ ウタンネ(←ウタラネ)
一 族 になる
一族だけに

8808 okai-an.
オカイアン
いる・我らは
なりました。

12-6 女性だけの語らい

8809 Okkai utar
オッカイ ウタラ
男 たち
男性たちとは

8810 shinnai kane,
シンナイ カネ
別な異なる 状態である
別々に、

8811 menoko utar
メノコ ウタラ
女 たち
女性陣

8812 a-ne wa
p.196 アネ ワ
我である して
のわたしたちは

8813 shinnai kane,
シンナイ カネ
別な異なる 状態である
また別になって、

8814 pirika iku
ピリカ イク
よい 酒宴
たのしい酒宴

8815 keran ibe
ケラン(←ケラアン) イベ
味 ある 食事
おいしい食事をし、

8816 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事 のすぐ上 で
食べながら

8817 pirika p hene
ピリカ プ ヘネ
良い もの でも
良いことも

8818 wembe hene
ウエムベ(←ウエン ベ) ヘネ
悪い もの でも
悪いことも

8819 a-uweneusar.
ア ウウエネウサラ
我らは・互いに 話を楽しむ
話し合いました。

8820 Tu mina itak
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
たくさんの冗談や

8821 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
笑えるような出来事を

8822 a-utashbare.
ア ウタシバレ
我らは・互いに tase '交換する' 複数形 させる
話し合いました。

8823 Ineapkusū
イネ アックス
どうした もの 故に
なんとまあ、

8824 I-resuyubi hene
イレ ス ユビ ヘネ
我を・育てる その兄 でも
育ての兄さまや

8825 Iyochi um mat
イヨチ ウム(←ウン) マツ
イヨチ に住む 女性
イヨチ姫

8826 pon a-kor sapa
ポン アコロ サポ
小 我・が持つ 姉
わたしの義姉は

- 8827 *pirika ruwe*
ピリカ ルウエ
いい その事実
美しいご様子
- 8828 *okai nankora !?*
オカイ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
ある だろう か
だったでしょうか。
- 8829 *Sonno tap eashiri*
ソノノ タ ヲ エアシリ
本当に 今 初めて
本当にそれこそ
- 8830 *ukotom nanka*
ウコトム ナンカ
相 匹敵する 顔
お似合いのお顔
- 8831 *ukotom shirka.*
ウコトム シリカ
相 匹敵する 容貌
お似合いのご夫婦です。
- 8832 *lyochi un kuru*
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8833 *kamui ne am be newa*
カムイ ネ アム(←アン) ベ ネワ
神 のように ある 者と
神のようなお方と
- 8834 *Kurorani um mat*
クローニ ウム(←ウン) マツ
クローニ に住む 女性
クローニ姫
- 8835 *newa ne yakka*
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 8836 *arukorachi*
アルコラチ(←アラウ コラチ)
全くお互い 同様に
また同じ様に
- 8837 *eashka ubak shiretok*
エアシカ ウバク シレトク
それこそ 相 比べる 器量
それこそ同じくらいのご器量
- 8838 *ukotomshirka ne.*
ウコトム シリカ ネ
相 匹敵する 容貌 である
お似合いの美貌です。
- 8839 *Kurorani un kuru*
クローニ ウン クル
クローニ に住む お方
クローニウンクル
- 8840 *kamui okkaipo newa*
カムイ オクカイポ ネワ
神 男+(指小辞) と
神の若者と
- 8841 *Otasam um mat*
オタサム ウム(←ウン) マツ
砂浜 側 に住む 女性
オタサム姫
- 8842 *newa ne yakka*
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 8843 *arubak nanka*
アルバク(←アラウバク) ナンカ
全く同程度 顔
まったくお似合いのお顔
- 8844 *arubak shirika※1*
アルバク(←アラウバク) シリカ
全く同程度 容貌
お似合いの器量
- 8845 *ne ruwe*
ネ ルウエ
である 事実
であること
- 8846 *eashka a-erayap*
エアシカ ア エラヤッ
本当に 我は・それに 感嘆する
とても素晴らしく、
- 8847 *utashba bakno*
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
かわるがわる
- 8848 *ureka-an kane.*
ウレカ アン カネ
互いをほめる・我は 状態だ
わたしは感心して眺めていました。
- 8849 *Ineapksusu !*
イネアックス
どうしたもの 故に
なんとまあ
- 8850 *utarpa utar*
ウタラ パ ウタラ
仲間 頭 衆
族長たちと
- 8851 *rametok utar*
ラメトク ウタラ
胆力ある 者たち
勇者たちは
- 8852 *ukateomarba*
ウカテオマレ(←ウ カツエ オマレ)
互いに 姿 そこに入れる
好意を抱き合い
- 8853 *uoshiknuka wa*
ウオシクヌカ ワ
互いに そこに 目 を持つ+(他動詞化語尾)して
親しみ深く
- 8854 *hawash nankor'a !*
ハワシ ナンコラ(←ヤナンコロ ヤ)
言う だろう か
歓談していたことでしょうか。
- 8855 *Ubakno uwohumse*
ウバクノ ウウオフムセ
互いほど(副 詞語尾) 互いに そこから フムという声
一緒にフムツフムツと氣勢の声を上げ
- 8856 *uorebushi kane.*
ウオレブシ(←ウオ レブ ウシ) カネ
互いにそこから 拍子 をつける 状態だ
手拍子を打っています。

※1 原綴 shiriのみ。

第13章 夫婦となる二人

13-1 新築の祝い

- 8857 Tutko bakno
p.197 トウッコ バクノ
二日 ほど
二日ほど
- 8858 sonno ramushiwano
ソノノ ラモシワノ(ラムオシワノ)
本当に 心の中 心から
本当に心の底から
- 8859 uwar eusar-an,
ウワネワサリアン
互いに話を楽しむ・我らは
わたしたちは歓談し合い、
- 8860 tap orowa
タ、オロワ
それ から
それから
- 8861 Pon a-kor yubi
ボン アコ、ユビ
小 我々が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 8862 ane itaki i
エネ イタ、イ
こう 言う こと
こう言いました、
- 8863 "Tantewano
タンテワノ
今ここから
『これでもう
- 8864 Kurorani un kuru
クローラニ ウン クル
クローラ に住む お方
クローラ ウンクル
- 8865 a-ak tonoke
メグットノケ
我が弟 殿、君
わが兄弟どのが
- 8866 awak kuni chise
エワケ クニ チヤ
住む はずの家
住まうべき館を
- 8867 a-ukasui wa
メウカスイ ワ
我らは 互いを助ける して
われらは手伝い合って
- 8868 a-kar wa
アカワ
我らは 逆る して
造り終えたから、
- 8869 a-eramushinne
アエラムシンネ
我は それについて 安心する
一安心する
- 8870 kusu ne." an
クス ネ アリ
つもりである と
ことにしよう。』と
- 8871 hawash chiki,
ハワン チキ
言う から
おっしゃったから、
- 8872 rametok utar
ウタ、バ ウタラ
仲間 頭 衆
族長たちは
- 8873 shineikinne
シネイキンネ(一シネ イキリネ)
一列 になる
皆いっせいに

- 8874 "Ohaine ohaine" ari
オハイネ オハイネ アリ
恐るべきかな おそろしや と
[]なるほど成る程[と
- 8875 haweokai kane
ハウエオカイ カネ
声 ある 次第で
言って
- 8876 chirikibumba.
チリキブムバ
自身を上に向かって
起ち上がり来た。
- 8877 Aokai utar
アオカイ ウタ
我 たち
わたしたち
- 8878 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
も
- 8879 shino nubetne tura
シノ スベツネ トウラ
本当に 喜び と共に
ほんとうに喜びながら
- 8880 uwesoyum※1)ba-an
ウエソユムバ(一ウエソユムバ)アン
互い以外に在る・複数形語尾・我らは
家の外に出ました。
- 8881 Pon a kor yubi sui
ボン アコ、ユビ スイ
小 我々が持つ その兄 再び
わたしの婚約者はまた
- 8882 yaikotamba ne
ヤイコタムバ ネ
自分の村エネで
自分の村のかみでから
- 8883 yaikotankest ne
ヤイコタンケシ ネ
自分の村末端で
下端に向かって
- 8884 hawoture.
ハウオトワイレ(一ハウオトワイレ)
声 そこから切り落とさる
声高に呼びかけました。
- 8885 Isenram kusu
イセンラム クス
物事をいつもどおり 故に
いつものとおり
- 8886 nishpa utar
ニシパ ウタラ
旦那 衆
一家のあるじたちも
- 8887 katkemat utar
カッケマツ ウタラ
淑女 たち
婦人たちも
- 8888 uitaknu wa
ウイタクヌ ワ
互いの詞を聞く して
なんと聞きわけがよかった
- 8889 shiriki nankor'a !?
シリキ ナンコーパーナンコロ ヤ)
その様をし だろう か
ことでしようか。
- 8890 Ponso shirantek ko
ボンノ シラン(一シ、アン) テッ コ
少し 時空 ある ちよっと~すると
またたく間に
- 8891 inne utar
インネ ウタラ
犬駝の 入々
大笑のひとたちが

- 8892 uwokarba,
ウウエカッパ
相共に それ 互い・ほわる 複数形
集まり出てきて、
- 8893 orowan
オロワノ
それから
それから
- 8894 mina tura
ミナ トウラ
笑い と共に
笑いながら
- 8895 erutomtatarkere※2,
アルトムタリケレ(一アルトムタレケレ)
全く互いこ身中に 跳ねる させる
あちこち駆け回って、
- 8896 ni tuye p
ニ トウイェ ヲ
木 を切る 者
木を伐る者は
- 8897 ni tuiba
ニ トウイバ
木 tuiba 'を切る' 複数形
木を伐り、
- 8898 mose kuni p
モセ クニ ヲ
音を切る べき 者
カヤを切る者は
- 8899 moseba. Orowano
モセバ オロワノ
音を切る (複数形語尾) それから
音を切りました、それから
- 8900 ni keure p
ニ ケウレ ヲ
木 を削る 者
木を削る音や
- 8901 ni tokba※3 p
ニ トクバ ヲ
木 トントン音を立てる 者
木に刻み目を入れる者は
- 8902 orone kuni p
オロネ クニ ヲ
甚だである べき こと
猛烈に、
- 8903 yaknatara※4
ヤクナタラ
潰す音し続ける
ガラガラメリメリ、
- 8904 toknatara※5
トクナタラ
トンという音 し続ける
コツコツコツ、
- 8905 kimui kar be
キムイ カッ ベ
音 束 を作る 音
音を束ねる者は
- 8906 kimui kar kana,
キムイ カラ カネ
音 束 を作る 状態で
音を束ねて
- 8907 oroneambe
p.196 オロネアムベ(一オロネアンベ)
全くそのもの(強辞)
元気よく
- 8908 kosashnatara
コサン ナタラ
共に サツサツという音 し続ける
サツサツサツと
- 8909 a-umombok-
アウモムボク
人々は・互いに手の下
皆は忙しく

※1 soyun【形容詞】soy-un<外に、に在る、に在る、についている>「逆ら」
 ※2 utoirta tenke 右往左往して(脚注u-toni-te berke<互・身中に 跳ねる、跳ねる。[p.V. 252])
 ※3 tokba【tok-pa<toki トントンと音を立てる、トンと音をさせる。複数形語尾>刻み目をつける。】(p.196)
 ※4 yaknatara「大木を折るやうきさき(抄研W316)、割る」が如し(研723)、わめどたりけり(研830)、かりかりめりめり(研W504)、くわらくわらめりわたる(研W514)、くわらくわらくわらくわら(研W591)。
 ※5 toknatara「<コツコツといふ音、啄む音、つつく音、小さく叩く音>(研9C3)、とんとんとん(研794)。

- 8910 tushmak kane.
トウシマク カネ
を競う 状態だ
立ち働いています。
- 8911 Tutko kane
トウツコ カネ
二日 して
二日
- 8912 rerko bakno
レレコ バクノ
三日 ほど
三日
- 8913 ne ko, eashka
ネ コ エアシカ
なると 本当に
たつと、それこそ
- 8914 arashit chise
アラシツ(←アラ アシリ) チセ
全く新しい 家
全く新しい館
- 8915 arashit chashi
アラシツ(←アラ アシリ) チャシ
全く新しい 岩
全く新しい山城が
- 8916 uworeroshki,
ウウォレロシキ(←ウ オエ ロシキ)
互いの中 そこにたくさん立てる
重なり立ち、
- 8917 oshke sama
オシケ サマ
腹 の側
館の内部や
- 8918 soike sama
ソイケ サマ
外の所 の側
外観も
- 8919 a-tomte,
アトム テ
人々が・光ら せる
美しく飾られ、
- 8920 chise upsoro
チセ ウソソロ
家 その様
家の中には
- 8921 moyotek※1 iyoibe※2
モヨ テク イヨイベ(←イ オ イ ベ)
少数の ちよつと 物を入れる所のもの
よりぬきの容器
- 8922 a-etomte kane.
アエトム テ カネ
人々が・でもって 光ら せる 状態だ
で飾りつけてあります。
- 8923 Ashiri inau
アシリ イナウ
新しい 木幣
新しいイナウ
- 8924 a-etomte
アエトム テ
人々が・でもって 光ら せる
で飾られた
- 8925 upsoro ta
ウソソロ タ
その様 で
館の中で
- 8926 chisenomi-an kusu,
チセノミアン クス
家を祀る・我らが 故に
新築祝いをするので、
- 8927 pon tonotobo
ボン トノトボ
少々の 御酒(指小辞)
いささかの御神酒
- 8928 a-shikupka wa
アシクッ カ ワ
我らは・成長する させる して
醸して

- 8929 usa shito boronno
ウサ シト ボロンノ
色々な 団子 たくさん
様々な団子をたくさん
- 8930 a-kar hine
アカラ ヒネ
我らは・作る して
作ってから
- 8931 chisenomi-an,
チセノミアン
家を祀る・我らが
新築祝いをし、
- 8932 kannaruino
カンナ ルイノ
再び(強意)(副詞語尾)
さらにまた
- 8933 utat turanno
ウタツ(←ウタラ) トウランノ
同族 と共に
一族同士でも
- 8934 uwenubetne-an.
ウウエヌベツネ アン
互いと共に 喜ぶ・我らは
喜び合いました。

13-2 三人きりになる

- 8935 Tutko bakno
トウツコ バクノ
二日 ほど
二日
- 8936 rerko bakno
レレコ バクノ
三日 ほど
三日ばかり
- 8937 ki tap orowa
キ タ オロワ
する それ から
してから
- 8938 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さま
- 8939 umurek newa
ウムレク ネワ
夫婦 と
夫妻と
- 8940 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 8941 umurek newa
ウムレク ネワ
夫婦 と
夫妻は共に
- 8942 nubetne tura
ヌベツネ トウラ
喜び と共に
喜びながら
- 8943 shino ramushinne
シノ ラムシンネ(←ラム シノ ネ)
本当に 安心する(その心 大地になる)
すっかり安心し
- 8944 koro hoshippa.
コロ ホシッパ
ながら 帰る
て帰って行きました。
- 8945 Okake ta
オカケ タ
後 で
その後
- 8946 an-ewak ushike ta
アネワク(←アン エワク) ウシケ タ
我らが・住む いつも～する所 で
わたしたちの住まいで
- 8947 tanebo konna
タネ ボ コンナ
今(指小辞)こそ
今度こそようやく
- 8948 Pon a-kor yubi
ボン アコエ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者
- 8949 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方
- 8950 turanno ouse
トウランノ オウセ
と一緒に ただ～だけ
とたった
- 8951 tun ane-wa,
トゥン アネ ワ
二人 我らである して
二人きりで、
- 8952 oainusakno※3
オアイヌ サクノ
そこに 人 無い(副詞語尾)無しに
他に誰ひとり居ない

※1 moyotek「少しばかり、少数の。いう心は、精選した品を少数での意」(金 I-77)数が少ない・ちよつと～する

※2 iyoibe「上座の東の隅の宝壇の上につんである宝物、宝器」(金 II 349)

※3 oainusakno/samashiksakno「【副詞句】あたりに人なくて、水入らずで」(語法)、「他にだれひとり居ない/側に見る目なしに」(金 V-320)

<p>8953 samashiksakno サマ シク サクノ その側に 人目 無い+(副詞語尾) はた目無しの状態に</p> <p>8954 okai-an. p.199 オカイ アン いる・我らは なりました。</p> <p>8955 Pon a-kor yubi ボン ア コロ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者は</p> <p>8956 i-raukotabu イラウコタブ 我を 捕え わたしの肩を押さえて</p> <p>8957 i-eshikari, イエシカリ わたしを 掴む しっかりつかみ、</p> <p>8958 "Tureshpo!" ari トウレシポ アリ 妹+(親称辞) と [かわいい妹よ]と</p> <p>8959 "Sambe!" ari サムベ アリ 心臓 と [心臓よ]と</p> <p>8960 itak kane, イタク カネ 言う 状態で 言いながら、</p> <p>8961 i-shikoruye. イ シコルイエ 我を・自分 の方へしめつける わたしを抱きしめました。</p> <p>8962 Kurkashike クルカシケ その上面一帯 そうしながら</p> <p>8963 itakomare hawe イタクマレ(=イタク オマレ) ハウエ 言葉 を入れる その声 言葉をはさんで</p> <p>8964 ene okai i; エネ オカイ イ こう ある こと こうおっしゃるには;</p> <p>8965 "Nepkeukata! ネッケウカタ 何 体 上 (感動) [おおあわれ、</p> <p>8966 nepkashita! ネッ カシタ 何 上 (感動) あんなさけない。</p> <p>8967 Ene hetapne! エネ ヘ タッネ こう か これはまあ あんなにもまあ</p> <p>8968 shikup tuika ta シクッ トウイカ タ 生涯 最中 に これまでの生涯で</p> <p>8969 eeyaisembir※1 エエヤイ セムビ 〇〇自身の 陰 心の中で(陰ながら、密かに?)</p> <p>8970 yaitursakka ヤイトウル サッカ 自身に垢 無くさせる わが身を純潔に</p>	<p>8971 a-ki kane, ア キ カネ 我は・~をする 状態で 保ちながら、</p> <p>8972 hetaktausa! ヘタクタウサ 早く+(感嘆の接尾辞)+色々 さあ早く</p> <p>8973 okkayo bakno オクカヨ バクノ 男 ほどに 一人前の男や</p> <p>8974 menoko bakno※2 メノコ バクノ 娘 までに 一人前の娘に</p> <p>8975 shikup-an wa シクッ アン ワ 育つ・我らが して なって</p> <p>8976 pirika unukar ピリカ ウヌカラ よい 会見 よい見合い</p> <p>8977 ratchi unukar ラッチ ウヌカラ 静かな 会見 落ち着いたお見合いを</p> <p>8978 a-ki orowa, ア キ オロワ 我らは・する それから してから、</p> <p>8979 uhekotba-an ウヘコツバ アン 互いに 頭 kote 'をつなぐ' 複数形・我らは 結婚して一緒に暮ら</p> <p>8980 kuni batek クニ バテク べさと ばかり そうとばかり</p> <p>8981 a-chibachiba kane ア チバチバ カネ 我は・望む 状態で 待ち望んで</p> <p>8982 shikup-an awa, シクッ アン アワ 育つ・我は たところが 日々暮らしていたのに、</p> <p>8983 annitnekamui アン(=アラ) ニツネ カムイ 全く凶悪な 神 全く極悪な神</p> <p>8984 sonno wen kamui ソンノ ウエン カムイ 真に 悪い 神が まことに悪い神が</p> <p>8985 chiukokeshke チ ウコ ケシケ ~こと互いに 妬む 嫉み憎んだこと</p> <p>8986 newa ne yakka,※3 ネワ ネ ヤッカ であった にしても であったにしても、</p> <p>8987 orsaureko オロ サウレコ 全く 緩い+(否定) まったくとんでもないことを</p> <p>8988 i-yekarkar shiri イイエカラカラ(=イ エカラカラ) シリ 我らに・をする その様 われらにしたことで</p>	<p>8989 sonno e-etuyashkarap-an. ソンノ エ エトツヤシカラフ・アン 本当に 汝を・それで・憐れむ・我は まことにそなたが可哀想でならぬ。</p> <p>8990 Tanebo konna タネ ボ コンナ 今+(指小辞) こそ 今こそ</p> <p>8991 chikewehumshu チ ケウエフムシュ ~こと その骸を 弄ぐ そなたの無事をお喜び</p> <p>8992 e-ekarkar-an na. エ エカラカラ アン ナ 汝に・~をする・我は ぞ 申し上げますぞ]</p> <p>8993 ari itak kane, アリ イタク カネ と 言う 状態で と言って、</p> <p>8994 otusui konna オトスイ コンナ 幾つも重なる 二回 (語調) 何度も</p> <p>8995 oresui konna オレスイ コンナ 幾つも重なる 三回 (語調) 何度も</p> <p>8996 i-shikoruye, イ シコルイエ 我を・自分 の方へ までさせる までさすり、</p> <p>8997 a-sannaka ta ア サンナカ タ 我 ほしい 上 に わたしのほしいの上に</p> <p>8998 i-echupnure※4 イ エ チュフ ヌレ 我に・そこで チュツという音 を聞かせる 接吻してくれました。</p> <p>8999 Shisak rametok シ サク ラメトク 滅多にいない 勇者 たぐいまれなる勇者が</p> <p>9000 katune kane カトゥ ネ カネ 常態 である 状態で ただふつうに</p> <p>9001 i-omap kuni p イ オマッ クニ ヲ 我を 愛する はずの もの わたしを可愛がるの</p> <p>9002 newa ne yakne ネワ ネ ヤクネ であって である ならば であるなら</p> <p>9003 kotomkorkaiki, コトム コカ イキ 似つかわしい けれども・物事をする いいのに、</p> <p>9004 i-kurkashike p.200 イクルカシケ 我の・身体の上 わたしのからだの上に</p> <p>9005 tu nubur nube トゥ ヌブル ヌベ 二つの 濃い 涙 たくさんの熱い涙</p> <p>9006 re nubur nube レ ヌブル ヌベ 三つの 濃い 涙 数々の熱い涙をはらはら</p>
---	--	---

※1 参考:sembirkashi/eyaitursakka aki「陰ながらもわが身を純潔にし」(金 I-123)

※2 原綴 menokono

※3 原綴 newa neyakke

※4 echupnure|e-chop-nu-re=chop-chop-se<チューチューいわず> chop は接吻する音(金IV340); e-cop-ne-rel <そこで・キスの音・になら・せる>《幌別》《雅語》くちづけする、せつぐんする(人130)「(その顔のおもてへ)接吻し(研781)、(神のかんばせに)接吻す(金IV-340)」(→チヨフ)

9007 erankekar. エランケ カラ そこに 落とす 作る 落としました。	9025 yaikeutum ka ヤイケウトウム カ 自分の 心情 も 自分の心も	9043 re pirika itak レ ビリカ イタク 三つの 良い 言葉 いくつものいい言葉や
9008 ltasa bakno イタサ バクノ それへの 返し までに わたしの方からもまた	9026 a-koshitnere アコシツネレ 我は・に対し 悩む させる 悩まされた	9044 a-usambeka- アウサムベカ 我らは・互に 心臓 の上に 良いことも悪いことも
9009 tanebo konna タネ ボ コンナ 今(指小辞) こそ 今度こそ	9027 katu hene カトウ ヘネ その様 でも ことだのを	9045 omare※4 kane オマレ カネ を入れる 状態で 肝に銘じ合って
9010 "Yuppo chhai※1!" ユッポ オハイ 兄(親称接尾辞) よ 『お兄さまあ!』と	9028 arobittano a-ye, アロビッタノ(←アロオビッタノ) アイ 全く 全部、みんな(亂語尾) 我は・を言う すっかり話し、	9046 a-uweramushinne. アウウエラムシンネ(←アウエラムシンネ) 我らは・互いに それについて 安心する 二人とも一安心しました。
9011 a-raikotenke, アライコテンケ 我は・烈しく 共に 呼ぶ わたしは絶叫し、	9029 tantewano タンテワノ 今ここから 「もうこれからは	
9012 a-chishhau konna アチシハウ コンナ 我が・泣く声 が わたしの泣き声が	9030 nep ka ashtoma p ネブ カ アシトマ プ 何 も 恐ろしい もの 何も恐れることは	
9013 tununitara. トゥヌニタラ(←トゥントウン イタラ) 澄んだ高い音 ~鳴り続く 響きわたりました。	9031 shinep ka isam, シネブ カ イサム 一つ も ない 一つもなく、	
9014 Chinki kese チンキ ケセ 裾 その端 兄さまの衣の裾に	9032 sonno ukor※3 ソンノ ウコロ 本当に 互いを持つ 真の結婚をし、	
9015 a-ukoraiba※2 アウコライバ 我は・相共に raye 'やる' 複数形 わたしは取りすがり、	9033 shino umurek シノ ウムレク 本当の 夫婦 真の夫婦	
9016 sankokkasaba サンコッカ サバ 前へ出た 膝 頭 兄さまのひざがしらや	9034 a-neba wa アネバ ワ 我らは・になる(複数形語尾) して になって、	
9017 santek kashi サンテク カシ 前へ出た 手 の上 手の甲を	9035 shinrit chashi シンリツ チャシ 先祖の 砦 先祖の山城	
9018 a-koruiruye kane, アコルイルイエ カネ 我は・共に 何度もなでさせる 状態で わたしはなでさすりながら、	9036 upsoroho ウッソロホ その懐 の奥深く	
9019 aokai ne yakka アオカイ ネ ヤッカ 我 であつても わたしも	9037 a-emokonno kane アエモコンノ(←アエモコロノ) カネ 我らは・そこで 眠る よく 状態で でぐっすり眠って、	
9020 tane bakno タネ バクノ 今 まで 今まで	9038 a-benkirechiu アベンキレチウ(←アベンキリエチウ) 我らは・上流に 脚 を刺す 上流から	
9021 wen nitnekamui ウェン ニツネ カムイ 悪い 凶悪な 神 人殺しの凶悪なニツネカムイ	9039 a-bankirechiu アバンキレチウ(←アバンキリエチウ) 我らは・下流に・脚・を刺す 下流を治める	
9022 wenrenkabi ウェンレンカビ 悪い 所存、せい の呪術	9040 kusu ne.† ari クス ネ アリ つもりであると ことにしましょう。と	
9023 okai rok kusu, オカイ ロク クス あつ た 故に のせいで、	9041 utashba ウタシバ 互いに tasa '交換する' 複数形 お互いに	
9024 ene ene エネ エネ こう こう かくかくしじか	9042 tu pirika kuni p トゥ ビリカ クニ ッ 二つの 良い はずのこと たくさんのいいこと	

※1 ohai 慕い呼ぶ時に添える語、"hapo ohai" <母よ!> [金Ⅰ-309]

※2 「uko-raye <相共に・やる>、裾を uko-raye するとは、女が男性の裏裾を両手につかんで両手を左右から寄せるとような格好をするもの。これは非常に丁寧な女礼の風」(金Ⅰ-183)、… [金Ⅲ-138]

※3 ukor | u-kor <互いに・持つ> 結婚す [研W447]、† <お互を・持つ> 《雅語》結婚する。ホロボツの日常語でわ"交接する"の意 [金Ⅰ-516]

※4 usambekaomare! 善いことも悪いことも互に肝に入れ合って。sampe 肝、omare 入れる [金Ⅴ-156]

<p>13-3 婚約者との食事</p> <p>9047 Tap orowa タッ オロワ それ から それから</p> <p>9048 utut ta oman-an, ウトウツ(=ウトウツル) タ オマナン(=オマン・アン) 下座 に 行く・我は わたしは下座に行き、</p> <p>9049 otubechirbe※1 p.201 オトウベチリベ 幾つも重なる 二つの 水滴 滴る もの 水をざあざあ</p> <p>9050 orebechirbe オレベチリベ 幾つも重なる 三つの 水滴 滴る もの ざあざあ</p> <p>9051 a-yaikarire※2 kane, アヤイカリレ カネ 我は・自身を回すさせる 状態で 流して手をすすぎ、</p> <p>9052 pirika ponshu ピリカ ポン シュ(=ス) よい 小さな 鍋 美しい小鍋の</p> <p>9053 komsutnawano※3 コムスツナワノ 鍋の耳元方から 取っ手の元の方から</p> <p>9054 a-obekarbare, アオベカラバレ 我は・そこに 水 をかける(複数形語尾)させる 水をかけて洗ってから</p> <p>9055 oro wakka a-o オロ ワッカ アオ 中に 水 我は・を入れる 鍋に水を入れ、</p> <p>9056 hoka tuikan※4 ホカ トウイカン 炉の火 上 炉の上に</p> <p>9057 an-eterkere※5 アネテケレ(=アン・エテケレ) 我は・そこに 投げとばす さっと掛け、</p> <p>9058 shu charbak シュ チョロボク 鍋 下 炉鉤にかけた鍋の下</p> <p>9059 an-eusheush※6 kane アネウシエウシ(=アン エウシ エウシ)カネ 我は・何度も頭をかかめる 状態で をわたしはフウフウ何度も吹いて</p>	<p>9060 abeare-an. アベアレアン 火を座るさせる・我は わたしは火を起しました。</p> <p>9061 Umso※7 birke※8 ウムソ ビルケ 蓄えていた 精米 しまっておいた精米を</p> <p>9062 shu wonna wano シュ(=ス) ウオンナ ワノ 鍋 中 に 鍋の中に</p> <p>9063 an-echobobo※9 アネチヨボボ(=アン・エチヨボボ) 我が・そこに ザザア ザアと空けると、</p> <p>9064 taban ponshu タバ(=タラアン) ポン シュ こう ある 小さな 鍋 この小鍋に</p> <p>9065 bopbirkan-※10 ポッピリカン 煮だつ 湯 上 泡が</p> <p>9066 hokushitara ホクシタラ(=ホクシイタラ) ひっくり返る ～し続ける 煮え立ってきて、</p> <p>9067 pirika pom meshi ピリカ ポム メシ よい 小さな 飯 美味しいご飯が</p> <p>9068 a-yaikokarkar kane. アヤイコカラカ カネ 我は(?)・自分で作る(反復)状態だ おのずと炊きあがりました(?)。</p> <p>9069 Pirika meshi ピリカ メシ 良い 飯 おいしそうなご飯を</p> <p>9070 a-perakokiru, アペラコキル 我は・籠 共に返す わたしが籠でもってかき回すと、</p> <p>9071 pirika meshi※11 ピリカ メシ 良い 飯 よく炊きあがったご飯が</p> <p>9072 pera tuika ta※12 ペラ トウイカタ 籠 すぐ上 に へらの上で</p> <p>9073 mau-chimimi※13 マウ チミミ 空気が 崩れる、うごく、ふるえる 湯気がふるえ</p>	<p>9074 mau-samama※14 マウ サママ 空気が横になる 湯気が横にたなびくのを</p> <p>9075 a-butauunu アブタウヌ 我は・蓋をする わたしは鍋に蓋をして</p> <p>9076 rik-a-oraye※15 リクア オライエ 上・我は・そこへ やる そのまま蒸らしておきました(?)。</p> <p>9077 Ponna shirantek ko ポンノ シラン(=シリアン) テク コ 少し 時空 ある ちよっと～すると 少し経つと</p> <p>9078 a-yanke, アヤンケ 我は・上げる わたしは鍋を炉から降ろし、</p> <p>9079 kabarbe ochike カバラベ オチケ 薄いもの 折敷 薄造りのお膳に</p> <p>9080 kabarbe※16 itanki カバラベ イタンキ 薄いもの 椀 薄造りの椀を</p> <p>9081 a-sanasapte アサナサプテ 我は・前方へ sanke '出す'の複数形 取り出して来て</p> <p>9082 a-urunu※17 アウルヌ 我は・不明 (?)</p> <p>9083 herashi iyoi※18 ヘラシ イヨイ(=イヨイ) 下方へ 物+(挿入音)+入れる 所 椀の中へ</p> <p>9084 pon kane ポン カネ 小さい 状態で 小さく盛って</p> <p>9085 herikashi iyoi ヘリカシ イヨイ(=イヨイ) 上方へ 物+(挿入音)+入れる 所 椀の外へ</p> <p>9086 boro kane ボロ カネ 大きい 状態で 大きく盛って</p> <p>9087 shikankitai シカンキタイ 自分の 頭の頂 うやうやく高く</p>
---	---	---

※1「炊事にとりかかる時にいつも出る詞である。pe-onir-pe<水・したたる・もの>、yai-karpa-re(自分に～する、水をざあざあやった)とは二説あり、《金成マツ説》手を洗ったこと、《知里ナミ説》顔を洗ったこと(金Ⅲ-267)、yaikarpare 行ふ、済ます。自分を云々させる意。即ちざあと水汲んで手さきを洗ひ清めることをした。此は幌別の伝承(研923)、《知里ナミ説》つつしんで炊事する意をいつもこういうのは貴人のために顔を洗って炊事にかゝるといふのだ(金Ⅲ-140)。

※2 (研923)と(金Ⅲ-141,267)では yaikarpare、(金Ⅳ-44)は yaikarapare となっている。

※3 (脚注)「底だけでなく鍋のどつてから洗う」(金Ⅵ137)。 ※4 (金Ⅵ137)では hoka tuikashi となっている。

※5 「重い鍋を掛けることをいつでも投げ掛けると表現する」(金Ⅵ137)。

※6 eusheushl = eushpa (研409)、eus-eus (e-us の反復形)～が自分の顔を幾度も～に付ける(火を吹く動作) (研278)。

※7 umso とつておいた、しまつておいた、古い(研465)、貯えた精米、…umsu pirkep が正しい。pirkep は精米、もみを去った穀(金Ⅰ-427)、…音貫つてきた米を洗って干して貯えておいたもの(金Ⅲ267)(金Ⅲ371)。

※8 birke—正しくはpirkep

※9 e-chopopo「<そこ・擬音語chopo-(cho)po という反復形>穀物を鍋の中へ入れる音、ざあざあっと入れた意」(金Ⅲ371)。

※10 popbir konna/hokushitara「煮えたつあわがむくむく湧き上る」(金Ⅰ427)、泡のうすがぐらぐら沸きかえる(金Ⅱ202)。

※11 pirika meshi「粥ではない、水気のない良い米飯のできたさま」(金Ⅲ268)。

※12 pera tuika ta「籠の上」(金Ⅲ268)、籠を使いながら(金Ⅰ-425)。

※13 mau-chimimi「湯気が盛り上がり」(脚注)《知里説》chimim 左右に分け分ける」(金Ⅰ-426)。

※14 mau-samama「湯気をかき分けかき分け」(脚注)《知里説》samama 種になびかせなびかせする」(金Ⅰ-428)。

※15 (金Ⅰ-428)では rikoraipaで「わたしは掻き上げ掻き上げた」(脚注)に「rik-o-raye<上へ・やる>」とあり、(金Ⅵ137)では原綴 rikoraipa 訳文「王にあげて」となっている。

※16 原綴 parbe

※17 (金Ⅰ-429)では、ここが auweroroshki「わたしが相かきさし」(教Ⅱ-72)では auweroroshki「揃えて載せ立て」?

※18 「高盛りの形容。i-o-i<物を・入れた・こと>は飯をよそったこと」(金Ⅰ-429)。

9088 a-eimekani,
ア エ イメク アニ
我はそこに分配の食物を持つ
わたしは持ち上げ、

9089 onbak tura
オリバク トウラ
畏れ慎むと共に
畏れかしこみつつ

9090 shirorke un
シ ロロケ ウン
自分の上座の所にいる
自分の上座にいる

9091 pon a-kor yubi
ボン アコエ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者

9092 a-koibuni※1 chiki,
ア コ イブニ チキ
我は・に対して 持ち上げる なら
にわたしが捧げたなら、

9093 uina wa
ウイナ ワ
取る して
婚約者は杯を受け取って

9094 rikunruke
リクンルケ(←リク ウイルケ)
上 に置く
高くささげ

9095 raunruke
ラウンルケ(←ラ ウイルケ)
下 に置く
低くささげて

9096 koonkami.
コ オンカミ
に 拝礼する
拝礼しました。

13-4 真の夫婦となる

9097 Orowano
オロワノ
それから
それから

9098 moireibe※2
p.202 モイレ イベ
ゆっくりした食事を
ゆったりしたしぐさ

9099 koyaikurka-
コ ヤイクルカ
一緒に自身の体
で食べ

9100 oma kane,
オマ カネ
に入れる 状態で
ながら、

9101 shuke-an
シュケ アン
煮炊きする・我が
わたしは料理が

9102 eashkai manu
エ アシカイ マヌ
に関して上手だ という
上手だといひ、

9103 pirika aep
ピリカ アエフ
良い 我が食べるもの
上手にできた食べ物を

9104 ohapsekur-
オ ハフ セクル
そこに「うまい、ありがとう。」と(助辞)
うまいうまいと

9105 echiu kane
エチウ カネ
それをする 状態で
舌鼓を打って

9106 ibe aine,
イベ アイネ
食べる それから
食べてから、

9107 imek arke
イメク アラケ
分配の食物 半分
その高盛の残り半分を

9108 i-koturiri※3
イコトウリリ
我に対して 取り伸べる
わたしに差し出しました。

9109 Oribak tura
オリバク トウラ
畏れ慎むと共に
畏れかしこみつつ

9110 a-uina wa
ア ウイナ ワ
我はを取る して
わたしは杯を受け取って

9111 a-rikunruke
ア リクンルケ(←リク ウイルケ)
我は 上 に置く
高くささげ

9112 a-raunruke a-e.
アラウンルケ(←ラ ウイルケ) ア エ
我は 下 に置く 我は・食べる
低くささげて食べました。

9113 Ineapkusū!
イネ アックス
どうしたもの 故に
なんとまあ、

9114 Pon a-kor yubi
ボン アコエ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者の

9115 pirika mekarep※4
ピリカ メカレフ
よく 分与した物
結構な分け前は

9116 keran wa
ケラン(←ケラ アン) ワ
味 ある して
美味しかった

9117 humash nankor'a !?
フマシ(←フム アシ) ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
気がする だろう か
ことでしょうか。

9118 Shino kera pirika
シノ ケラ ピリカ
本当に 味 よく
本当に美味しく

9119 a-eokere.
ア エ オケレ
我は・食べる 終わる
わたしは食べ終わりました。

9120 Orowano
オロワノ
それから
それから

9121 tanepo konna
タネ ポ コンナ
今(指小辞) こそ
今こそはじめて

9122 Pon a-kor yubi
ボン アコエ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者

9123 a-eyaimakna-
ア エ ヤイ マクナ
我は・それ 自身の 後方に
の後ろの座にわたしは

9124 horari※5
ホラリ
座る
座り、正式に妻となりました。

9125 Pon a-kor yubi
ボン アコエ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの夫は

9126 eashka
エアッカ
本当に
それこそ

9127 esambeetok-
エ サムベ エトク
そこで心臓の先
心臓の先に

9128 i-omare※6
イ オマレ
我を・入れる
わたしを入れるほど

9129 i-omap,
イ オマフ
我を・可愛がる
わたしを可愛がり、

9130 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互に ほどに
かわるがわる

9131 uweomap-an.
ウ ウエ オマフ アン
互いに愛する・我らは
わたしたちは愛し合いました。

※1 akobuni の誤記?

※2 「ゆっくりした食事を/われみづから/とりて」(新345)、(金 I-429)、(金 III-548)《萱野茂訳》「ゆつくりとした食べ方/で食べて」(教 IV-17)

※3 「i-ko-turiri<われに・に対して・取りのべる>」こうして三三九度の盃ごと同様にこれ(uwechiu ipe<互いに差す 食事>)が結婚の式なのである。」(金 I-429)

※4 「男子の差した半分の椀を押し頂いて恭しく食べ終わると、めでたく式が終る。」(金 I-429)

※5 aeyaimaknahorari「わたしはその後ろに坐った。」(脚注「a-eyaimakna+torar<われ・そこ(えらいかたの)・自身・後方・すわる>これが妻となる」という語である)。(金 I-431)

※6 「sampe-etok-omare<心臓の先・に入れる>」《脚注》「かわいがる」(入824)、sambe-etok ne/aomare「胆のさき/われ入れて」(脚注:かわゆくて、大事に思ふ差の表現)。(金 III-316)

9132 Pon a-kor yubi
 ホン アコ_レ ユビ
 小 我_レが持つ その兄
 わたしの夫を

9133 a-obenkarkar※1
 ア オ ベン カラカラ
 我は_レそこで上の方 を作る+(重複)
 わたしは上から

9134 a-obankarkar
 ア オ バン カラカラ
 我は_レそこで下の方 を作る+(重複)
 下まで

9135 a-tomte chiki,
 アト_ム テ チキ
 我が 光ら せる から
 大事にお世話したから、

9136 boo hene
 ボオ ヘネ
 もっと でも
 なおさら

9137 i-henkotba※2 kane
 イ ヘンコツバ カネ
 我に_レうなづく 状態で
 わたしに笑顔をみせて

9138 "A-tureshipo
 アトウレン ポ
 我が_レ妹_レ(指小辞)
 『わが愛しい妻は

9139 ebosokusu!
 エ ボソクス
 それで買いて、それを通して 故にまあ!
 なるほどなあ!

9140 naanika
 ナアニカ
 すんでのことに
 危うく

9141 arwen kamui
 ア_ラ ウエン カムイ
 全く悪い 神
 極悪の神から

9142 iyekeshke p
 イイエ ケシケ(←イエ ケシケ) プ
 人を それで 妬む 者
 見込まれた者

9143 ne kusu,
 ネ クス
 である から
 だけあって(?),

9144 usa shiretak
 ウサ シレット(←シ、エトッ)
 色々 容子 先端
 器量がいいばかりか

9145 usa ashkai
 ウサ アシカイ
 色々 上手だ
 何でも上手に

9146 ki ruwe
 キ ルウエ
 する その様
 できることには

9147 irayapka!"
 イラヤッ カ
 人を 賞嘆させる
 驚いたなあ!』

9148 ari itak kane.
 アリ イタッ カネ
 と 言う 状態で
 とおっしゃいました。

9149 Makan ne ko
 マカン ネ コ
 どうか なる と
 またある時は

9150 pombe kishma
 ポムベ(←ボン ベ) キシマ
 小さい子 を抱く
 子供を抱きしめ

9151 teinep kishma
 p.203 テイネ プ キシマ
 濡っている 者 を抱く
 赤ん坊を抱きしめるように

9152 i-yekarkar, sonno
 イイエカラカラ(←イエ カラカラ) ソンノ
 我に それをする 本当に
 わたしを抱きしめ、本当に

9153 a-enubetne kane.
 ア エ ヌベツネ カネ
 我は それについて 喜ぶ 状態だ
 わたしは嬉しく思いました。

※1 a-openkarkar/a-opankarkar『萱野茂訳』「私は大切にするので(教XIV7c)、上からも/内側のものを/丁寧に着せると(教25-137)」

※2 inennkotpa「i-hen-kotpa<われに・顔・koteの目的物複数形、結びつける>われににここに顔をむける」(金II-73)

第14章 一族のウバシクマ
14-1 平穏無事な暮らし

- 9154 Rabokita※1
ラボキタ
その間に
そのうち
- 9155 soike※2ta okai
ソイケ タ オカイ
外の所 にいる
他所にいる
- 9158 pon umurek
ボン ウムレク
少ない 夫婦である
わずかな夫婦
- 9157 utar hene
ウタラ ヘネ
人々 でも
たちも
- 9158 katune kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 9159 uwekatarotke kuni p
ウウエカタロツケ クニ プ
互いと仲がよい はずの もの
仲が良いだけ
- 9160 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
なら
- 9161 kotomkorkaiki,
コトム コカイキ
似つかわしい けれども+物事をする
いいのに、
- 9162 chise oboso
チセ オボソ
家 貫通する
家を突き抜け
- 9163 chashi oboso
チャシ オボソ
山城 貫通する
山城を突き抜けて
- 9164 uwomina-
ウウオミナ(←ウ オミナ)
互いにそこから 笑い
朗らかに笑い
- 9165 ushiba hawe
ウシバ ハウエ
付ける+(複数語尾) その声
合う声が
- 9166 a-nu chiki, sonno
アヌ チキ ソンノ
我が・聞く から 本当に
聞こえるから、本当に
- 9167 ramushinne-an kane.
ラムシンネ(←ラム シンネ)・アン カネ
安心する(その心 大地になる)・我は 状態だ
わたしは安心しました。
- 9168 PonTeseu un
ボン テセウ ウン
小テセウ に住む
ボンテセウの
- 9169 I-resuyubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さま
- 9170 umurek hene
ウムレク ヘネ
夫婦 でも
ご夫妻も

※1 原綴 raboketa

※3 ikutasa「iku-tasa<飲む・返す>(金I119)、<飲酒・献酬>(金IV84)」

※4 原綴 tam-のみ。似た文例に「Otasam sake an ko/batek shinki apkash/a-ki kane.『萱野茂訳』オタサムの村で酒があると/そこへ行くのが疲れるぐらいな/ものであった。」(教文Ⅷ191)がある。

- 9171 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 9172 umurek utar hene
ウムレク ウタラ ヘネ
夫婦 たち でも
ご夫妻たちも
- 9173 uwepirika
ウウエピリカ
互いと一緒によくなる
幸せに
- 9174 uwekata-
ウウエカタ
互いと仲が
仲良く暮らし
- 9175 rotkeba hawe
ロツケバ ハウエ
がよい+(複数形語尾) その声
ていると言う声が
- 9176 kamui asun ne,
カムイ アスン(←アスル) ネ
神の 噂、評判 になる
神々の評判となって、
- 9177 tu kotan kama
トゥ コタン カマ
二つの 村 を越える
いくつもの村々
- 9178 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 を越える
たぐさんの村々を越えて
- 9179 chihobumbare.
チホブムバレ
自身を hopuni '立ち上がる' 複数形 させる
いっせいに聞こえてきました。
- 9180 Neikorachi sui
ネイコラチ スイ
その所と同様に 再び
それと同時にまた
- 9181 aokai utar
アオカイ ウタラ
我 たち
わたしたち
- 9182 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
も
- 9183 a-asuru ash kane,
アアスル アシ カネ
我らの・評判 が立つ 状態だ
評判になって、
- 9184 PonTeseu ta
ボン テセウ タ
小 テセウ で
ボンテセウ村で
- 9185 tonoto an ko
トト アン コ
酒宴 ある と
酒宴がある時は
- 9186 orota a-obittano
オロタ ア オビッタノ
そこに 我ら・全部
そこにわたしたち全員が
- 9187 ikutasa※3-an wa
イクタサ アン ワ
飲む 返す・我らは して
酒宴へ呼ばれて行って
- 9188 unukar-an,
ウンカラ アン
互いを見る・我らは
会見し、
- 9189 Iyochi ta
イヨチ タ
イヨチ で
イヨチで
- 9190 tonoto an ko sui
トト アン コ スイ
酒宴 ある と 再び
酒宴があると、また
- 9191 orota a-obittano
オロタ ア オビッタノ
そこに 我ら・全部
そこにわたしたち全員が
- 9192 ikutasa-an
イクタサ アン
飲む 返す・我らは
招かれ
- 9193 uwenubetne-an.
ウウエヌベツネ アン
互いと共に 喜ぶ・我らは
喜び合いました。
- 9194 Aokai utar otta
アオカイ ウタラ オッタ(←オロタ)
我 たち の所 で
わたしたちの館で
- 9195 tonoto a-kar otta
トト アカラ オッタ(←オロタ)
酒 我ら・造る の所 で
酒を造ったときは
- 9196 a-utari obittano
アウタリ オビッタノ
我が・同族 全部
一族すべてが
- 9197 arki wa
アラキ ワ
来る して
やって来て
- 9198 maraptoneba,
マラプトネバ
賓客 になる(複数形語尾)
招待客になり、
- 9199 ramma kane
ラムマ カネ
いつも のように
いつもいつも
- 9200 katkor kane
カツコカ カネ
行動する 状態で
すこやかに平穏無事に
- 9201 okai-an.
オカイ アン
いる・我らは
わたしたちは暮らしていました。
- 9202 Ukomaraptane
ウコマラプトネ
互いに 賓客 になる
お互いに酒宴に招き
- 9203 utashba kane a-ki,
ウタシバ カネ アキ
互いに tessa'交換する' 複数形 状態で 我ら・する
招かれ合い、
- 9204 tambe※4 kusu
タムベ(←タンベ) クス
このこと 故に
それ(酒宴への往来)で
- 9205 shinkiapkash
シンキ アッカシ
疲れる 歩み
疲れるほど
- 9206 a-ki kane.
アキ カネ
我ら・する 状態だ
でありました。

※2 原綴 Isoiketa

14-2 談笑の絶えぬ日々

- 9207 Pon a-kor yubi
ボン アコ_レ ユビ
小 我_レが持つ その兄
わたしの夫は
- 9208 kamui kokowe
カムイ ココウエ
神 の婿
神の婿殿を
- 9209 ramma shino
ラムマ シノ
いつも 真に
いつも不当に
- 9210 omap kane
オマ_レ カネ
可愛がる 状態で
可愛がって
- 9211 enesar kane
エ ネウサラ カネ
と共に 飲談する 状態で
談笑しながら
- 9212 tura wa
トゥラ ワ
同伴する して
連れ立って
- 9213 rep ta koiki p※1
レ_レタ コイキ_レフ
沖 で 殺す もの
沖でとった獲物を
- 9214 eyanarutba,
エ ヤナルツバ
それで 陸の方に rutu '押す' 複数形
どしどし陸へ持ち帰り、
- 9215 kim ta koiki p
キムタ コイキ_レフ
山 で 殺す もの
山でとった獲物を
- 9216 esanarutba,
エ サナルツバ
それで 前の方に rutu '押す' 複数形
どしどし里へ持ち帰り、
- 9217 shisakbe batek
シサクベ バテク
滅多に無いもの ばかり
御馳走ばかり
- 9218 kirbu batek
キ_レブ バテク
脂身 ばかり
脂身ばかり
- 9219 shito batek
シト バテク
団子 ばかり
お団子ばかり
- 9220 meshi batek
メシ バテク
白米 ばかり
ご飯ばかりを
- 9221 a-e kane.
アエ カネ
我らは・食べる 状態だ
食べていました。
- 9222 A-matakipo
アマタキポ
我_レの妹-(親戚接尾辞)
わたしの義妹は

- 9223 shino i-ekatarotke,
シノ イエカタロツケ
本当に 我_レと仲がよい
本当にわたしと仲が良く、
- 9224 shine to
シネ ト
一 日
一日の内に
- 9225 tu sui ahun
トゥ スイ アフン
二 回 入る
何度も
- 9226 re sui ahun,
レ スイ アフン
三 回 入る
わが家に入ったりして
- 9227 sunkeashbe※2
スンケ アッベ
嘘の 事、話
うそばなしや
- 9228 soneashbe
ソネ アンベ
真の 事、話
ほんとの話を
- 9229 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
かわるがわる
- 9230 a-ubaroka-
アウ バロカ
我らは・互いに その口上
おしゃべり
- 9231 tata kane,
タタ カネ
叩く 状態で
しあつて、
- 9232 mina-an hawe
ミナ アン ハウエ
笑う・我らが その声
たくさんの笑い声や
- 9233 itak-an hawe
イタク アン ハウエ
話す・我らが その声
話し声で
- 9234 keshtoan ko
ケシト アン コ
毎日 ある と
毎日毎日
- 9235 chise upsooro
チセ ウソロ
家 その懐
家の中が
- 9236 bebunitara.
ベブニタラ(=ベブン イタラ)
ベブン(擬音)・状態が続いていることを表す接尾辞)
にぎやかで騒がしい。
- 9237 Utur an ko
ウトウル アン コ
間 ある と
その合間に
- 9238 toita-an ko
トイタ アン コ
地を掘る・我らが と
わたしたちは畑を耕して
- 9239 tu bu a-ebumba
トゥ ブ アエブムバ
二つの 倉 我らはそこに・puni '持ち上げる' 複数形
幾つもの倉

- 9240 re bu a-ebumba kane,
レ ブ アエブムバ
三つの 倉 我らはそこに・puni '持ち上げる' 複数形
たくさんの倉をいっぱいにして、
- 9241 usa kina ratashkep※3
ウサ キナ ラタシケ_レフ
色々 草 混ぜ煮
さまざまな野草
- 9242 mun ratashkep
ムン ラタシケ_レフ
雑草 混ぜ煮
雑草を
- 9243 uwesamanno
ウエサマンノ(=ウエ サム アン ノ)
お互い それについてそばに 在る+(副詞語尾)
皆でいっしょに
- 9244 haruhu a-kar,
p.205 ハルフ アカラ
その収穫物 我らは・を作る
料理し、
- 9245 sonno ibeno-an.
ソノノ イベノ アン
本当に 食べる よく、充分に・我らは
たっぷりいただきました。

※1 原綴 okaiqip

※2 sunkeashbe/soneashbe「女子の多辯の癖…口を叩く…(研784)、…いろいろな、取りとめもないようなことまでも、うれしげに、おしゃべりになって話した。…(金1-428)、e-u-paro-ka-tata<それについて・互いに・その口・上・叩く>おしゃべりすること(金185)、「そらごとや/真実の噂話を/口に/まかせて/話しあつて」(聖445、久201)

※3 rataskep「胆振、日高沙流、手塩」食用野草、またわその料理。=retashkep.ch'karipe。(植281)、《北海道南西部》野草の根や果実などを主な材料にして作る料理で、その中に調味料として獣魚油と共に chietoi '食用粘土'を少量入れて作った」(語法)、「①野草や野菜のませ煮…ごはん(mesi)の代わりにたべる、現代は…」(田564)

14-3 子を授かる

- 9246 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 9247 uwesamanno
ウエサマンノ(←ウ エ サム アン ノ)
お互い それについて そばに 在る+(副詞語尾)
義妹と揃って
- 9248 po tum a-o.
ポ トウム アオ
子 中(?) 我は・に在る(?)
子供が生まれました。
- 9249 A-po utari
アポ ウタリ
我の・子 たち
わたしの子供たちは
- 9250 pirikano
ピリカノ
良く
元気に
- 9251 a-reshba rokine.
アレシバ ロキネ(←ロク ヒネ)
我は 育てる た して
育て、
- 9252 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 9253 obittano rupne.
オビッタノ ルフネ
皆 大きくなる
みんな大きくなりました。
- 9254 A-po utari
アポ ウタリ
我の・子 たち
わたしの子供たちは
- 9255 okkayo hene
オッカヨ ヘネ
男 でも
男の子も
- 9256 menoko utar hene
メノコ ウタラ ヘネ
娘 たち でも
女の子たちも
- 9257 obittano
オビッタノ
皆
みんな、
- 9258 umurek a-ne wa
ウムレク アネ ワ
夫婦 我らが・になる して
わたしたち夫婦が
- 9259 uben-an ita
ウベン アン イタ
若い 我らが 時に
若い時は
- 9260 ene shiretokkor-an
エネ シレトクコロ アン
このように 器量がよい・我らは
あんなにもまあ、器量が良かった
- 9261 roki korachino
ロキ(←ロク イ) コラチノ
た 時 のように
たように、
- 9262 e-i-koheraiiba p
エイコヘライイバ プ
それについて・我らに・似ている もの
わたしたちによく似ているもの
- 9263 ne kusu
ネ クス
である 故に
だから、
- 9264 inkinebe
インキネベ(←インキ ネラ ヘ)
どれである者か
どちらに

- 9265 urabokkari wa
ウラ ボクカリ ワ
互いに 低い所 下 回る して
優劣をつけられる
- 9266 shiran nankor'a !?
シラン(←シリ アン)ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
様子 ある だろう か
でしょうか。
- 9267 Arobittano sonno
アロビッタノ(←アラ オビッタ ノ) ソンノ
全く全部、みんな+(副詞語尾) 本当に
皆まさしく
- 9268 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様子 をなす
神のように
- 9269 pirika ruwe okai.
ピリカ ルウェ オカイ
いい その事実 ある
美しい様子でした。

14-4 親孝行な子ら

- 9270 Okkai utar
オッカイ ウタラ
男 たち
男の子たちの
- 9271 hoshki tukba p
ホシキ トウカバ プ
先に 出る+(複数形語尾) 者
先に生まれた者は
- 9272 pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの夫を
- 9273 ramkobashte wa
ラムコバシ テ ワ
心を その方へ 走らせる して
手助けして、
- 9274 ekimneba hene
エキムネバ ヘネ
山へ行く でも
山仕事に行く時でも
- 9275 reba hene
レバ ヘネ
漁に出る でも
沖漁に出る時でも
- 9276 euramkobashte,
エウラムコバシ テ
そこで 互いに心を その方へ 走らせる
お互いに手助けし合い、
- 9277 menoko ne ike
メノコ ネ イケ
娘 である 方
娘たちの
- 9278 hoshki rupne
ホシキ ルフネ
先に 大きくなる
先に成長した
- 9279 ike utar
イケ ウタラ
の方 たち
者たちは
- 9280 i-ramkobashte.
イラムコバシ テ
我に・心を その方へ 走らせる
わたしを手助ってくださいます。
- 9281 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 9282 obittano
オビッタノ
全部
全員が
- 9283 i-kotcha
イコッチャ
我・の前
わたしのそばに来て
- 9284 ehobumba,
エホブムバ
そこに 立ち上がる
わたしを手伝い、
- 9285 nep ka a-teke-
ネフ カ アテケ
何 か 我が・その手を
何かわたしが手を
- 9286 kerereba kuni
ケレレバ クニ
触らせる+(複数形語尾) と
出そうとすると
- 9287 kobamba kane
コバムバ カネ
拒否する+(複数形語尾) 状態で
それを断って
- 9288 i-ukonunukeba.
イウコヌヌケバ
我に・共に 孝行する+(複数形語尾)
わたしに親孝行しました。

14-5 年若い、孫に囲まれる

- 9289 Aine a-po utari
アイネ アポ ウタリ
したあげく 我が子たち
やがて息子たちは
- 9290 obittano matkor,
p.206 オビッタノ マツコロ
皆 妻を持つ
皆妻を迎え、
- 9291 a-matnepo utar
アマツネポ ウタラ
我が女である子たち
娘たち
- 9292 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であったにしても
も
- 9293 obittano hokkorba,
オビッタノ ホッコロバ
全部 夫を持つ(複数形語尾)
皆結婚し、
- 9294 tane anakne
タネ アナクネ
今は
今はもう
- 9295 nitpo tumu a-o.
ニツポ トウム アオ
孫 その中 我らはに入る
たくさんの孫がわたしたちにいます。
- 9296 Umurek a-ne wa
ウムレク アネ ワ
夫婦 我らがになるして
わたしたち夫婦は
- 9297 tane anakne
タネ アナクネ
今は
今はもう
- 9298 kemabase-an,
ケマバセアン
足重い我らは
年若い足腰が弱り、
- 9299 mono chise otta
モノ チセ オッタ(一オロタ)
静かに家 の所で
静かに家の中に
- 9300 okai-an wa,
オカイアン ワ
いる我らはして
いて、
- 9301 a-nitpo utar
アニツポ ウタラ
我らの孫たち
孫たちを
- 9302 a-ukoomap
アウコオマフ
我らは一緒に ~を可愛がる
可愛がりました。
- 9303 Neino sui
ネイノ(一ネノ) スイ
そのように また
同じようにまた
- 9304 a-irwaki utar
アイリワキ ウタラ
我らの兄弟姉妹たち
わたしたちの兄弟姉妹も
- 9305 uwesamanno
ウエサマンノ(一ウエサムアンノ)
お互いそれについてそばに在る(副詞語尾)
共に揃って
- 9306 po utari
ポ ウタリ
子供たち
子供たちや
- ※1 原綴 utara

- 9307 nitpo utari
ニツポ ウタリ
孫たち
孫たち
- 9308 turanno
トゥランノ
と一緒に
ともども
- 9309 uwepirika
ウエピリカ
互いと一緒によくなる
幸せに暮らしている
- 9310 asuru utashba
アスル ウタシバ
噂 互いに
評判をお互いに
- 9311 a-nu kane,
アヌ カネ
我らは聞く状態
聞きながら、
- 9312 too PonTeseu wano
トオ ポンテセウ ワノ
遠い ポンテセウ から
はるか遠いポンテセウ村や
- 9313 lyochi wano
イヨチ ワノ
イヨチ から
イヨチ村から
- 9314 a-karku utari
アカラク ウタリ
我らの甥たち
甥たちや
- 9315 a-matkarku utari
アマツカラク ウタリ
我らの姪たち
姪たちの
- 9316 tobaha uwesamanno
トバハ ウエサマンノ(一ウエサムアンノ)
の群れ 互いそれについてそばに在る(副詞語尾)
一軍がみな揃って、
- 9317 a-sak be korachi
アサク ベ コラチ
我らが無いものように
まるでわたしたちが持っていないみたいに
- 9318 usa shisakbe
ウサ シサクベ
色々 滅多に無いもの
珍しいもののだの
- 9319 usa toiharuru
ウサ トイハル
色々 土の食料
畑の作物のだの
- 9320 boronno
ボロンノ
たくさん
どっさり
- 9321 i-kaose wa,
イカオセ ワ
我らの上そこに背負うして
わたしたちの所へ背負って持ってきて、
- 9322 obittano
オビッタノ
皆
みんなを
- 9323 boronno
ボロンノ
たくさん
せいっぱい
- 9324 a-omap
アオマフ
我らは可愛がる
わたしたちは可愛がり、
- 9325 a-henkotba kane
アヘンコツバ カネ
我らはうなづく状態
にこにこ笑顔を見せて

- 9326 Umurek a-ne wa
ウムレク アネ ワ
夫婦 我らがになるして
わたしたち夫婦は
- 9327 a-kobuntekba.
アコブンテクバ
我らは共に喜ぶ、ねぎらう(複数形語尾)
喜び合いました。
- 9328 Itasa sui
イタサ スイ
それへの返しに 再び
お返しにまた
- 9329 a-poho utar
アポホ ウタラ
我の子たち
わたしたちの息子や
- 9330 a-matnepo utar
アマツネポ ウタラ
我が女である子たち
娘たちが
- 9331 pirika koikip
ピリカ コイキッ
よい 撃つ、殺す物
いい獲物や
- 9332 pirika kar be
ピリカ カラ ベ
良い作るもの
よく出来たものを
- 9333 PonTeseu un
ポンテセウ ウン
ポンテセウ へ
ポンテセウ村や
- 9334 lyochi un
イヨチ ウン
イヨチ へ
イヨチ村へ
- 9335 se wa achaha
セ ワ アチャハ
背負うして 叔父
背負って、叔父さん
- 9336 umurek utar
ウムレク ウタラ
夫妻たち
夫婦たちの
- 9337 hotanukarba.
p.207 ホタヌカラバ
を見舞う(複数形語尾)
ご機嫌伺いに出かけました。
- 9338 Aokai utar※1
アオカイ ウタラ
我たち
わたしたちは
- 9339 tane anakne
タネ アナクネ
今は
もはや
- 9340 tuima apkash
トゥイマ アフカシ
遠い 歩み
遠くまで歩け
- 9341 a-koyaikush koroka,
アコヤイクシ コロカ
我らはできないけれど
ないけれど、
- 9342 a-po utari
アポ ウタリ
我らの子たち
わたしたちの子供たちは
- 9343 ukobayekai
ウコバイエカイ
お互いに行く、歩き回る
行き来しています。
- 9344 Tambe kusu
タムベ(一タンベ) クス
このこと 故に
それで

- 9345 ramma uorushbe
ラムマ ウオルシベ
いつも 互いに関する事柄、話、噂
いつもお互いの事を
- 9346 nu-an koro
ヌアン コロ
聞く・我らは しながら
聞きながら
- 9347 okai-an.
オカイアン
いる・我らは
暮らしていました。

14-6 語り継がれるウバシクマ

- 9348 Hoshkino
ホシキノ
最初に
初めの頃
- 9349 ene ikichi-
エネ イキチ
こう 物事をする・
わたしたちがし
- 9350 an i korachi
アニ(←アン イ) コラチ
我らが こと のように
たように、
- 9351 kanna kanna
カンナ カンナ
上の・方へ 上の・方へ
何度も何度も
- 9352 tonoto karba hine
トノト カラバ ヒネ
酒 造る+(複数形語尾)した時に
酒を造ったときは
- 9353 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
お互いに
- 9354 a-utari
ア ウタリ
わが・同族
親戚身内
- 9355 utar turanno
ウタラ トウランノ
たち と一緒に
と一緒に
- 9356 ukoshineuba
ウコ シネウバ
互いに・shinewe '訪れる'複数形
遊びに行つて
- 9357 shino uwekatarotkeba,
シノ ウウエカタロツケバ
本当に 互いと仲がよい+(複数形語尾)
本当に仲が良く、
- 9358 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 9359 uwesamanno
ウウエサマンノ(←ウ エ サム アン ノ)
お互いそれについてそばに 在る+(副詞語尾)
共に揃つて
- 9360 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 の世界
人間界を
- 9361 nubetneno
ヌベツネ ノ
喜ぶ(副詞語尾)
喜んで
- 9362 a-koishi.
ア コイシ
(?)
(?)
- 9363 A-poho utari
ア ポホ ウタリ
我・子 たち
わたしの子供たち
- 9364 a-nitpo utari
ア ニツポ ウタリ
我らの・孫 たち
孫たちを

- 9365 obittano
オビツタノ
皆
全部
- 9366 a-uwekarbare wa
ア ウウエカラバシ ワ
我が・相共に そこ 'kari'まわる'複数形 させる して
呼び集め、
- 9367 tapne kane
タツネ カネ
このような 状態で
かくかくしかじかのことがあつて
- 9368 shukup tuika ta
シュクフ トウイカ タ
生涯 最中 に
これまでの生涯に
- 9369 wen chironnup
ウエン チロンヌフ
悪い 狐
悪狐
- 9370 nitnei
ニツネ イ
悪い神、鬼・(所属形語尾?)
極悪の奴が
- 9371 naanihonka※1
ナアニ ホンカ
すんでのことに (?)
危うく
- 9372 shikurone-※2
シクロ ネ
物に憑かれた状態 に
何かが
- 9373 i-kar wa,
イカラ ワ
我を・する して
わたしに憑いて、
- 9374 a-ramachi
アラマチ
我が・その魂
わたしの魂を
- 9375 uk kush ne
ウケ クス ネ
奪う つもり である
奪おうとし
- 9376 a koroka,
ア コロカ
た けれども
たけれども、
- 9377 kamui nubur i
カムイ ヌブル イ
神 霊力 所、こと
神の霊力の方が
- 9378 eikaun hemem ki,
エイカウン ヘメモ キ
それを越える も する
優っていたこともあり、
- 9379 naa sama ta
ナア サマ タ
尚、まだ そのほか に
まだそのほか
- 9380 a-obittano
ア オビツタノ
我ら・皆
わたしたち全員が
- 9381 nishpa keutum
ニシパ ケウトウム
身分高い男性 精神
裕福で身分ある男性や
- 9382 utarpa keutum
ウタラバ ケウトウム
仲間 頭 精神
族長の精神、

※1 「na-ani-honko 危うく、危険だった」(巻339)

※2 shikuronekar | si-kur-o <本当の・魔が・附いている>《幌別》何かにばかされてほうとしている者、うかつ者、阿呆、ほか。…sikuron ne a-kar <物に憑かれた状態 に させられる>《幌別》ばかになる」(人311:shikurone-a-kar,[わたしに憑いてボウツとさせ](教66-72)

9383 katkemat keutum カッケマツ ケウトウム 淑女 精神 優れた婦人の精神	9401 neita bakno ネイタ バクノ どこ までも いつまで	9419 kamuionne カムイ オンネ 神の老死 神のような死に方
9384 kamui keutum カムイ ケウトウム 神 精神 神の精神を	9402 ne yakka ネ ヤッカ であつても も	9420 pirika onne ピリカ オンネ よい 老死 りっぱな老い方を
9385 a-korba wa kusu p.208 アコロバ ワクス 我ら・持つ+(複数形語尾)した 故に 持っていたから、	9403 itekki oirano イテッキ オイラノ 決してしない 忘れる+(副詞語尾) 決して忘れずに	9421 uwesamanno ウエサマンノ(←ウエサムアンノ) お互い それについて そばに 在る+(副詞語尾) 共に揃って
9386 kamui-i-koinkar wa, カムイコ インカラ ワ 神が 我らに 恵みを与える、守護する して 神のご加護があつて、	9404 utashba uwe- ウタシバ ウウエ 相互い 互い お互いに	9422 a-ki kushtapne アキ クシタフネ 我らが・した 故にこれのように して、これのように生涯を終えようとして
9387 uwesamanno ウエサマンノ(←ウエサムアンノ) お互い それについて そばに 在る+(副詞語尾) みんな揃って	9405 katarotke, uomap カタロツケ ウオマフ と仲がよい 互いを 可愛がる 仲良く	9423 a-eyayetuitak アエヤイエトウイタク(←アエヤイエトウイタク) 我は それで自分についての 事実談を語る わたしは事実あつた話を
9388 moshit tuika ta モシツ(←モシリ) トウイカ タ 国土 上 に この世の中に	9406 utashba uomumbekare ウタシバ ウオムムベカレ 相互い 互い 世話をする お互い大切に世話をし合う	9424 hawean. 'ari ハウエ アン アリ 声 ある と したのですよ」と
9389 isam hosaochiwe※1 イサム ホサオチウエ ない 前へ出る いない前に倒れることも	9407 echi-ki koanake, エチキ コアナッケ(←コアンヤッケ) 汝ら・する とある すれば ならば、	9425 PonTeseu um mat ポンテセウ ウム(←ウン) マツ 小テセウ に住む 女性 ポンテセウに住む女性が
9390 homakochiwe※2 ka ホマコチウエ カ 後ろへ下がる も 後ろへ下がることも	9408 konep wen コネフ ウエン (調律、強調) 何 悪い 何の悪い	9426 yayeyukar ヤイエユカラ(←ヤイエユカラ) 自分のことを 謡う 自分のことを謡った
9391 eaikap bakno エアイカフ バクノ できない ほど できないほど	9409 nitnekamui 凶悪な 神 人を殺して食べる凶悪な神が	9427 hawean. ハウエ アン 声 ある ということです。 (了)
9392 okai horarba オカイ ホララバ ある horar'座る'複数形 裕福な暮らしを	9410 irara a yakka, イララ ア ヤッカ 人を無能と思う たても 悪さをしたとしても、	
9393 a-ki kane アキ カネ 我らは・~をする 状態である しながら、	9411 kamui-koinkar カムイコインカラ 神・が~に恵みを与える、守護する 神が守って	
9394 uwepirika utar ウエピリカ ウタラ 互いと一緒によくなる 同族 幸せに暮らしている一族が	9412 echi-ki wa エチキ ワ 汝らを・する して くださって、	
9395 a-ne, orowano アネ オロワノ 我ら・である それから わたしたちで、そこから	9413 tap korachi タフコラチ このごとく このように	
9396 shiko kuni p シコクニフ 生まれた はずの もの 生まれたのが	9414 onne bakno オンネ バクノ 年をとる まで 年老いるまで	
9397 echi-ne ruwe ne. エチネ ルウェネ 汝ら・である の である あなたたちなのですよ。	9415 kamui-koinkar カムイコインカラ 神・が~に恵みを与える、守護する 神がお守り	
9398 Tambe kusu タムベ(←タンベ) クス このこと 故に それゆえ	9416 echi-ki エチキ 汝らを・する くださる	
9399 pirikano kamui ピリカノ カムイ よく 神 しっかりと神の	9417 nankor na. "ari ナンコロ ナ アリ だろう よ と でしょうよ」と	
9400 pirika ubashkuma ピリカ ウバシクマ 立派な 伝説 よいウバシクマ(伝説や由来譚)を	9418 ubashkuma-an kor ウバシクマ アン コロ 互いに 物事を教え伝える・我は ながら ろろるる	

※1 hosaochiwe「【動1】前に出る。前に倒れる。Homakochiwe ka hosaochiwe ka niukes 後ろにひっくり返ることも、前に倒れることもできない(家財道具がいつばいあって、身動きもならないほどだということ、非常に裕福であることを表す常套句)」(中362)

※2 homakochiwe「【動1】後ろにさがる。ひっくり返る」(中362)

令和4年度アイヌ民俗文化財調査事業「金成マツノート」翻訳整理

アイヌ民俗文化財・ユークラシシリーズ71

金成マツ筆録 アイヌ叙事詩 「メナシサムの厚司メナシサムの帽子(2)」

令和5年3月

発行 北海道教育委員会

札幌市中央区北3条西7丁目

委託業務受託者 公益社団法人北海道アイヌ協会

翻訳者 蓮池悦介(金成マツノート研究者)